

JILPT 調査シリーズ

No. 234

2023年12月

JILPT 個人パネル調査
「仕事と生活、健康に関する調査」
第1回

The Japan Institute
for
Labour Policy and Training



JILPT 調査シリーズ No.234

2023年12月

JILPT 個人パネル調査
「仕事と生活、健康に関する調査」
第1回

ま え が き

我が国の経済社会は、人口減少・少子高齢化、DXの進展などにより大きく変化する中で、新型コロナウイルス感染症の多大な影響を受け、変化が加速している。そうした中、テレワークの拡大や副業・兼業への関心の高まりなど、人々の働き方や、生活、健康は、新たな状況・課題に直面している。たとえば、過労死等の防止は重要な政策課題であり続けているが、労働者の健康障害を引き起こす業務上の負荷要因は、長時間労働ばかりでなく、勤務時間の不規則性やハラスメントなど多様であり、労災認定基準の改正が行われている。加えて、広く労働者の健康について考えるならば、仕事や職場環境のほか、家庭生活の状況や生活習慣など、仕事以外の要因も大きく関わることから、実証研究では、適切な分析手法を用いて因果関係を丁寧に議論することが求められる。また、テレワークや副業・兼業といった働き方の変化が家庭生活や健康状態にどのような影響を及ぼすかも、検証が待たれているテーマである。

近年、生活の質をあらわす「ウェルビーイング」という言葉にも注目が集まっている。たとえば、経済協力開発機構（OECD）は、ウェルビーイングの観点から社会の状態を評価する指標を提示している。人々の望ましい生き方や、それを実現するための社会経済環境に関心が注がれている。

こうした状況や問題意識を踏まえ、当機構のプロジェクト研究サブテーマ「経済社会の変化と労働者の生活、健康、ウェルビーイングに関する研究」において、日本国内に居住する35～54歳の男女を対象に、仕事（仕事特性、働き方、業務負荷等）と、生活、健康、ウェルビーイングとの関係について分析することを主な目的とした JILPT 個人パネル調査「仕事と生活、健康に関する調査」（略称：JILLS-i）を実施することとした。本調査シリーズは、2023年1月に実施した第1回調査について、調査概要および一次集計結果を公表するものである。

本調査に回答いただいた方には、この場を借りてご協力にあらためて御礼を申し上げたい。本調査結果が、当該分野にかかわる政策担当者、実務家、研究者など、多方面において参考になれば幸いである。

2023年12月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 藤村博之

執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	担当
高見 具広	労働政策研究・研修機構 主任研究員	第1章*、第2章*、 第4章、第5章
鈴木 恭子	労働政策研究・研修機構 研究員	第1章*、第2章*、 第3章、第6章

(注) *は共著

「経済社会の変化と労働者の生活、健康、ウェルビーイングに関する研究」

研究参加者（五十音順）※2023年6月現在

王薈琳（労働安全衛生総合研究所（JNIOOSH））
大石亜希子（千葉大学大学院社会科学研究院）
何芳（労働政策研究・研修機構）
加島遼平（労働安全衛生総合研究所（JNIOOSH））
小林秀行（高知県立大学看護学部）
小松恭子（労働政策研究・研修機構）
佐々木毅（労働安全衛生総合研究所（JNIOOSH））
鈴木恭子（労働政策研究・研修機構）
高橋正也（労働安全衛生総合研究所（JNIOOSH））
高松利光（労働政策研究・研修機構）
高見具広（労働政策研究・研修機構）
田中茜（東北文化学園大学現代社会学部）
中原慎一（労働政策研究・研修機構）
三輪哲（東京大学社会科学研究所）
山本雄三（九州国際大学現代ビジネス学部）
勇上和史（神戸大学大学院経済学研究科）

謝辞

調査設計においては、石井華絵氏（労働政策研究・研修機構 前アシスタントフェロー）に多大な貢献を頂いた。また、調査実施に際しては株式会社インテージリサーチにご尽力頂いた。記して感謝申し上げたい。

目 次

第Ⅰ部 概要編	1
第1章 調査の概要	2
第1節 本調査の背景と目的	2
第2節 本調査の特徴	8
第2章 調査計画の詳細	11
第1節 本調査の方法	11
第2節 標本設計	12
第3節 調査項目	14
第Ⅱ部 集計・分析編	23
第3章 就業状況と仕事特性	24
第1節 就業状況と労働条件	24
第2節 多様な働き方と職場の取り組み	31
第3節 仕事特性とストレス	37
第4章 ライフコースと生活の状況	44
第1節 ライフステージと世帯の状況	44
第2節 生活時間の状況	47
第3節 生活上の出来事	51
第5章 健康状態、健康に関わる生活習慣	52
第1節 回答者の健康状態	52
第2節 健康に関わる生活習慣	57
第6章 主観的ウェルビーイングの状況	59
第1節 主観的ウェルビーイングの属性による違い	59
第2節 収入と主観的ウェルビーイングの関連	66
第3節 ソーシャル・サポートと主観的ウェルビーイングの関連	68
参考文献	70
第Ⅲ部 資料編	72
単純集計表	73
調査票	90

第 I 部 概要編

第1章 調査の概要

第1節 本調査の背景と目的

1. 本調査の位置づけ

JILPT 個人パネル調査「仕事と生活、健康に関する調査」(略称：JILLS-i¹)は、独立行政法人労働政策研究・研修機構(以下「JILPT」という。)の第5期中期計画におけるプロジェクト研究サブテーマ「経済社会の変化と労働者の生活、健康、ウェルビーイングに関する研究」(2022～26年度)の研究計画に基づいて実施するものである。本調査は、ミドルエイジ層(35～54歳)の個人を対象にしたアンケート調査であり²、同一個人を追跡するパネル調査として継続的な実施を計画している。2023年1月に第1回調査を実施し、本稿はその結果を報告するものである。

2. なぜパネル調査が必要か

近年、エビデンスに基づく政策形成(EBPM, Evidence-based Policy Making)の必要性が益々指摘されている。労働分野の研究においても、人々の属性と労働市場におけるアウトカム(雇用、就業形態、賃金等)の関連を調べる伝統的なアプローチにとどまらず、人々のライフイベント、職場環境、人間関係等が、どのようなメカニズムを通じてその人の生活、労働、健康などの質を高めるのかという因果関係を理解するためのアプローチも必要とされているといえる。こうした因果的なメカニズムの解明にとって重要になるのが、パネル調査を通じたデータの蓄積である。パネル調査とは、同一の対象に対して、同じ質問を複数回にわたって尋ねる調査手法である。同一対象を追跡することで、ある変化がどのように別の変化と関連しているのか、時間の経過を考慮に入れつつ因果的な関連を明らかにすることができる。

人々の働き方や、生活、健康は、現在、新たな状況・課題に直面している。たとえば、労災認定基準の近年の改正が示すように、労働者の心身の健康を害する労働条件・労働環境として、長時間労働はもちろんのこと、勤務時間の不規則性やハラスメントなど多様なものが認識されてきており、こうした観点からも、健康確保のための労働環境整備が求められてきている。また、雇用者の中で中高年層がますます大きなウェイトを占める中、労働者の健康の維持・増進は、本人のみならず、企業や社会全体にとっても、重要な関心事項となっている。さらには、コロナ禍等を経て拡大したテレワークや副業・兼業といった働き方も、それが家庭生活や健康状態にどのような影響を及ぼすか、エビデンスの蓄積が待たれているテーマである。こうした

¹ “Japan Institute for Labour Policy and Training Longitudinal Survey of individuals”から略称を付けた。

² 「35～54歳」という本調査の対象年齢層は、我が国において「中年層」「中高年層」「壮年層」「ミドル層/世代」などと呼ばれる年齢とも重なる。各用語について対応する年齢が定まっているわけではなく、用語の想起するイメージもあることから、本調査シリーズでは、当該年齢層を比較的中立的に表現する「ミドルエイジ層」という表現を用いる。

研究課題に取り組むためには、ある時点の調査をもとにしたクロスセクションデータで事象間の関係を検討するだけでなく、同一の個人を追跡した時系列データを取得し、原因と結果を識別した分析を行うことが必要であり、そのための基盤となるパネル調査が求められている。

海外では、こうした分析のための大規模なパネル調査が整備されている。たとえば、アメリカの PSID (The Panel Study of Income Dynamics, US)³、イギリスの BHPS (The British Household Panel Survey)⁴などは、長い歴史を持つ基幹的なパネル調査である。韓国では政府系の労働研究機関である KLI (Korea Labor Institute)が、1998 年から KLIPS (Korea Labor & Income Panel Study)⁵を実施している。

日本でも、1990 年代から大学などが主体となって多くのパネル調査が行われるようになった。田中 (2016) は、1980 年代から 2010 年代までの日本におけるパネル調査の展開を詳細にまとめている。図表 1-1 は田中 (2016) を参照しながら、社会科学の分野における代表的な 3 つのパネル調査である、「日本家計パネル調査 (JHPS/KHPS)」(慶應義塾大学)、「働き方とライフコースに関する全国調査 (JLPS)」(東京大学社会科学研究所)、「全国就業実態調査 (JPSED)」(リクルートワークス研究所) の特徴をまとめている。

調査対象者という観点でみれば、「日本家計パネル調査 (JHPS/KHPS)」は 20 歳～69 歳の男女を対象に、また「全国就業実態調査 (JPSED)」は 15 歳以上の男女を対象にしており、対象が幅広い。一方で「働き方とライフコースに関する全国調査 (JLPS)」は開始時に 20 歳～40 歳の男女を対象としており、若年層に関心が向けられている。

³ PSID (The Panel Study of Income Dynamics)は、ミシガン大学の Institute for Social Research によって実施されている、世帯を対象とするパネル調査。現在世界で最も長く継続しているパネル調査であり、1968 年に 5,000 世帯 18,000 人のサンプルで始まり、現在も同じ世帯を追跡している。

(<https://psidonline.isr.umich.edu/default.aspx>)

⁴ BHPS (The British Household Panel Survey)は、エセックス大学の Institute for Social and Economic Research を拠点として実施されていた、世帯を対象とするパネル調査。1991 年に 5,500 世帯の 10,300 人のサンプルで開始され、その後 10,000 世帯規模までサンプルが追加されつつ、2009 年まで実施された。その後、2009 年からは、40,000 世帯を対象とするより大規模なパネル調査である” Understanding Society”にサンプルが引き継がれ、現在も調査が継続されている。(<https://www.iser.essex.ac.uk/bhps>, <https://www.understandingsociety.ac.uk/about>)

⁵ KLIPS (Korean Labor & Income Panel Study)は、韓国の都市圏に住む世帯および個人を対象とした労働・所得に関するパネル調査。1998 年に 5,000 世帯 13,319 人を対象に開始された。韓国で最初の労働分野のパネル調査として労働政策の立案および評価に貢献してきた。(https://www.kli.re.kr/klips_eng/index.do)

図表 1-1 社会科学の分野におけるパネル調査の例

実施主体	慶應義塾大学 パネルデータ設計・解析センター	東京大学社会科学研究所	リクルートワークス研究所
調査名	日本家計パネル調査 (JHPS/KHPS)	働き方とライフスタイルの 変化に関する全国調査 (JLPS) (若年パネル -Y; 壮年パネル -M; 高卒パネル調査 -H; 中学生親子パネル調査 - J)	全国就業実態パネル調査 (JPSED)
開始年	2004年 (KHPS); 2009年 (JHPS) KHPSは慶應義塾家計パネル調査 (旧称) とし て開始されたが、2014年に2つの調査が統合さ れて現在の名称になった	2007年 (若年パネル; 壮年パネル)	2016年
サンプルサイズ	・初年度 約 4,000世帯・7,000人 (KHPS); 約4,000世帯 (JHPS)	・初年度: 1,433(-M); 3,367(-Y) ・2年目: 1,246(-M); 2,716(-Y)	・初年度 49,131 ・その後の回収数は、約50,000~60,000件
継続率	・2007年に新たに約1,400人、2012年には約 1,000人を追加し、標本脱落を補う	・2年目の継続率は約8~9割弱 ・2011年度から、長期追跡に伴って回答者が 調査から脱落するケースが増えたため、その 問題に対処すべく継続調査と同年代の対象者 を新たに追加した	・前年度回答者からの継続率は約8割 ・脱落したサンプルについては、全体のサイ ズが維持できるように、毎年データを補充す る。パネルデータとしてだけでなく、クロス セクションデータとしても活用
対象	20歳~69歳の男女	20歳~34歳 (若年層); 35歳~40歳 (壮年層)	全国15歳以上の男女
調査方法	訪問留置 (面接・Web併用)	郵送配布+訪問回収	Web調査
サンプル	・層化2段階無作為抽出: 第1段階は、全国 を24層に層化し所定数の調査区を無作為抽出 、第2段階は住民基本台帳を抽出台帳とし 1調査地域について約10人を抽出	・層化2段階無作為抽出: 地域 (10地域) と都市 規模 (4類型) の2層により層化 (271地点)、 さらに性別・年齢別 (5歳間隔) に層化 ・住民基本台帳・選挙人名簿より抽出 ・郵送で調査票を配布、その後記入された調 査票を調査員が訪問し回収	・調査会社保有の調査モニターに調査を依頼 ・回答の得られたサンプルに対し、2年目以降 も調査を依頼 ・ランダムサンプリングではないが、母集団 を反映するように総務省統計局「労働力調 査」のデータをもとに、性別、年齢階層、就 業形態、地域ブロック、学歴別に割付 ・一部のセルは、相対的に少ない割付を行 い、調査後にウェイトバック集計を実施
特徴	・特定の層ではなく、社会全体の人口構成を 反映した家計パネル調査を目指して設計 ・2014年以降はKHPS/JHPSの2つの調査の項目 を統一 ・現在の質問票は、家族構成、個人属性、学 歴、就業・就学状態、生活時間の配分、親と の居住関係など包括的なトピックをカバー し、就業行動・貧困動態・実物資産の世帯間 移転の実態など、多岐にわたる分析トピック を網羅 ・調査の対象者が有配偶の場合、その配偶者 に対しても同一の調査項目を用意	・ライフスタイルのあり方について、変化が どのような原因によるものか、どこが変化し てどこが変化していないのか ・職業・家族・教育・意識 (政治的態度を含 む) ・健康など、網羅的な内容 ・職業情報は非常に詳細で、社会階層と社会 移動に関する全国調査 (SSM調査) に準拠する 項目となっている ・国際比較分析が可能になるような設計を心 がけているのみならず、既存の日本の調査 (クロスセクショナルなものを含む) の調査 項目も参考になっている ・若年パネルと壮年パネルの質問項目は同じ	・調査前年1年間の個人の就業状態・所得・生 活実態などを毎年追跡して調査を行い、全国 の就業・非就業の実態とその変化を明らかに する (HPより) ・日本の働き方を5つの面で指標化したWorks Indexを開発し、調査の結果を毎年指標として 公表している ・就労に関する項目、とくに労働移動に関す る質問は詳しい、また個人ごとの職務の内容 の情報も豊富

出所: 田中 (2016)、各調査のホームページをもとに著者作成

また、「健康」をテーマにした医学、公衆衛生、疫学研究の分野は、大規模なパネル調査が早くから整備された領域である。図表 1-2 は、この分野における日本の代表的なパネル調査である、JSTAR、J-SHINE、J-HOPE について概要をまとめている。まず、「JSTAR」は、独立行政法人経済産業研究所 (RIETI)、一橋大学および東京大学が共同で、いくつかの自治体において行ったパネル調査である。高齢者を調査対象として、健康・経済・社会的関係など多面的な情報をとらえることを目的とし、海外調査との比較を念頭において設計されている。健康の測定に関しては、医療・介護給付情報 (レセプトデータ) などを活用している。J-SHINE は、東

京大学などの研究者が参加する研究プロジェクトであり、東京近郊の4市区において住民基本台帳から対象となる成人をランダム・サンプリングにより抽出したパネル調査である。対象者本人のみならず、配偶者、パートナーおよび子どもに対しても調査が行われ、また、参加者の一部には身体測定や血液検査も行われた。特に社会経済要因に焦点を当て、健康との関連を多面的に明らかにすることに貢献している。J-HOPEは、北里大学等を中心とした研究グループが実施した、「事業所」を単位にしたパネル調査であり、全国12事業所の労働者のべ1.4万人を追跡調査したものである。健康状態の測定方法として血液検査等を含む健康診断のデータを利用している。事業所と労働者個人の2つのレベルでデータが取得されており、職場環境が健康に及ぼす影響を把握することができる。

図表 1-2 健康分野における主要なパネル調査

実施主体	RIETI 一橋大学 東京大学	東京大学等	北里大学等
調査名	JSTAR くらしと健康の調査	J-SHINE まちと家族の健康調査	J-HOPE Japanese study of Health, Occupation and Psychosocial factors related Equity (日本語名なし)
開始年	2007年	2010年	2010年
サンプルサイズ	4,163	4,375(第1回調査回答者) 1,873(第1回配偶者・パートナー調査) 1,520(子ども調査)	9,864(2010年度実施分)
継続率		69% (2012年実施の第2回調査)	
対象	50歳以上	25-50歳成人のいる世帯を対象	
調査方法	留置+面接 (CAPI)		
サンプル	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年は5自治体 ・2009年は2自治体追加 ・2011年は3自治体追加 ・2013年は上記10自治体について 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回調査(2010)：東京近郊4市区の住民基本台帳より抽出した成人を対象。2011年に、参加者の配偶者・パートナー・子どもを対象とした調査を実施 ・第2回調査(2012)：第1回調査の参加者に対して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・職域を単位とするパネル調査：全国12事業所の労働者1.4万人を、4年間にわたり調査 ・一部事業所では、その後4年間追跡 ・健康診断を利用して、血圧・身長体重・血液検査値を取得 ・一部事業所では、ストレス関連遺伝子や炎症マーカー等を測定
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の経済面・社会面・健康面に関する多様な情報を捉えることを目的とし、海外の同様の調査との比較可能な設計としている ・2年に1度のパネル調査 ・自治体との協力関係のもと、高齢化のモデルとなるような自治体を選択、順次追加 ・医療・介護給付情報(レセプトデータ)開示の可否も尋ねるなど、多様な測定を実施 ・面接と郵送留置法を併用し、面接はCAPI(コンピューターを利用した面接調査)によって実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学際的見地から、社会経済的要因と健康の関係を明らかにし、健康政策評価のためのデータベース提供を目的としたもの ・東京近郊の市区を単位とした、パネル調査 ・社会人口統計学的要因、世帯経済状況、健康状態、医療利用状況、ストレス、心理的特性、発育歴などを調べている ・参加者の一部は、身体測定(2,468名)と、血液検査(1,205名)にも参加した 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働者の健康格差の実態とそのメカニズムを解明することを目的とし、重要な指標を毎年繰り返して調査 ・医学のみならず、心理学、経済学、社会学の専門家がチームを構成 ・多様な背景を有する労働者の社会経済的要因・職業性ストレス尺度・生活習慣に関する詳細な問診・循環器疾患危険因子・抑うつ等の精神的健康度等が、標準化された方法で毎年測定・蓄積されている

出所：各調査のホームページをもとに著者作成

3. ウェルビーイングとは

本調査では、「健康」と「ウェルビーイング」を中心的なテーマとして取り上げる。「ウェルビーイング」は、今日、各国の公共政策において重要な地位を占めつつある概念といえる。「ウェルビーイング」には、未だ唯一の定まった定義はないが、その概念がどのようなことを意味するかについて、多くの国際的な機関においておおむね理解は共有されている⁶。たとえばアメリカの疾病対策予防センター（Centers for Disease Control and Prevention, CDC）は、ウェルビーイングを次のように定義している。

「満足や幸福などのポジティブな感情があり、憂鬱や不安などのネガティブな感情がないこと、みずからの生活や達成や役割に満足していること。端的にいえば、ウェルビーイングとは自分の人生をポジティブに評価しており、良い気分であることを指す。公衆衛生の観点からは、身体的ウェルビーイング（健康だと感じてエネルギーに満たされていること）が非常に重要である。」（拙訳）（CDC, 2018）⁷

ここで指摘されているように、ウェルビーイングにとって「健康」は重要な構成要素であるが、同時に「健康」にとってもウェルビーイングは不可欠な要素とされている。たとえば、WHO 憲章において「健康」は次のように定義されている。

「健康とは、身体的・精神的・社会的ウェルビーイングが満たされている状態を指し、単に病気や障害がないことを指すのではない。」（拙訳）（WHO, 1946）⁸

こうした定義が示すように、ウェルビーイングは、多元的な要素によって構成される点に特徴がある。また、ウェルビーイングは、個人のレベルに焦点を当てた概念であるだけでなく、組織や社会集団のレベルに適用することも可能な概念である。

OECD は、「Better-Life Index」とよばれる指標を開発し、加盟各国のウェルビーイングの水準を評価した結果を公表している（OECD, “Better Life Initiative”⁹）。この“Better-Life Index”は、物質的な生活の条件を測定する3つの項目、「所得と富」「仕事と報酬」「住居」と、生活の質を測定する8つの項目、「健康状態」「ワークライフバランス」「教育と技能」「社会とのつながり」「市民参加とガバナンス」「環境の質」「生活の安全」「主観的幸福」の、合計11項目(Key Dimensions)から構成されている。いわゆる生活満足度や幸福感などは「主観的幸福（主観的ウ

⁶ Lee Kum Sheung Center for Health and Happiness, Harvard T.H. Chan School of Public Health: ウェルビーイングについての多様な定義や指標について詳細な説明が掲載されている。

(<https://www.hsph.harvard.edu/health-happiness/resources-for-policymakers-practitioners/>)

⁷ CDC のホームページにウェルビーイングの定義・指標についての説明が掲載されている。Well-Being Concepts (<https://www.cdc.gov/hrqol/wellbeing.htm>)

⁸ Constitution of the World Health Organization (1946) (<https://www.who.int/about/governance/constitution>)

⁹ OECD, Better Life Initiative: Measuring Well-Being and Progress (<https://www.oecd.org/wise/better-life-initiative.htm>)

エルビーイング)」とよばれ、上記 11 の領域のうちのひとつに位置づけられる。本調査（第 1 回調査）においては、まず、この「主観的ウェルビーイング」の質問項目を中心に設問に取り入れている。

第2節 本調査の特徴

本節では、JILPT 個人パネル調査「仕事と生活、健康に関する調査」の特徴について示す。本調査は、既存調査と比較したときに、次の特徴を有する。

1. ミドルエイジ層の仕事、生活、健康、ウェルビーイングに関する調査：仕事の特性、働き方、業務負荷、生活時間、健康に関わる生活習慣、心身の自覚症状、主観的ウェルビーイングなどについて分析
2. 半年サイクルでのパネル調査：既存調査と比べて短期的な変動を観測し、要因を分析
3. 厚生労働省「職業情報提供サイト（日本版 O-NET）（愛称「job tag）」（以下「日本版 O-NET」という。）の職業情報データとの接続による応用研究の可能性：厚生労働省職業分類表をもとに職業を把握

以下で順に説明する。

1. ミドルエイジ層の仕事、生活、健康、ウェルビーイングに関する調査

本調査は、日本国内に居住する 35～54 歳の「ミドルエイジ層」の男女を対象として仕事、生活、健康、ウェルビーイングについて調査することに特徴がある。

当該年齢層は、結婚・出産というライフイベントや、就職や離職といった形での労働市場への参入退出が相対的に少なく、そうした面での変化は現れにくい年齢層である。その一方、企業内の昇進・異動や転職等の労働移動、業務負荷、育児や介護等との両立、心身の自覚症状、健康に関わる生活習慣の個人差などの仕事面、生活面、健康面の特徴を有することから、調査研究の意義が大きいと考え、調査対象としたものである。調査項目もこうした観点から定めており、より具体的には、次のような観点が挙げられる。

仕事面では、若年層に比べて職業能力が蓄積され、企業内では、管理職への移行をはじめとした仕事内容の変化が観測されよう。また、企業間の労働移動は、スキルの蓄積と転職との関係など、若年期の離転職（早期離職等）とは別の角度から検証されるべきテーマであろう。あわせて、仕事特性は、健康等に影響する業務負荷（職業性ストレス）の観点から検討される必要もある。厚生労働省「令和 4 年度 過労死等の労災補償状況」に基づくと、30～50 代は、過労死等（脳・心臓疾患、精神障害）の労災認定件数が多い年齢層である¹⁰。

生活面では、個人差があるものの、平均的な出産年齢を踏まえると、子育て等に伴う家庭生活上の負荷が重い年齢層と考えられる。厚生労働省「令和元年国民健康・栄養調査結果の概要」によると、生活時間の面では、睡眠時間 6 時間未満の割合が、30～50 代男性、40～50 代女性で 4 割を超える。睡眠確保を妨げるものとして、30～40 代男性では「仕事」、30 代女性で

¹⁰ 令和 4 年度における労災認定（支給決定）件数に占める「脳・心臓疾患」に関する事案の割合は、30～39 歳で 9.3%、40～49 歳で 29.9%、50～59 歳で 34.5%であった。また、同じく、「精神障害」に関する事案の割合は、30～39 歳で 23.8%、40～49 歳で 30.0%、50～59 歳で 16.8%であった。

は「育児」が多くの割合を占める。仕事と生活との両立の関係では、女性の職業キャリア（継続就業、再就職、パートタイム就業、無業化等）と家庭生活（家事、育児、介護等）との関係について精密な議論が求められる。なお、総務省「令和2年国勢調査」に基づくと、50歳時の未婚割合を示す「生涯未婚率」は、男性28.3%、女性17.8%であり、人々のライフコースの多様化に伴い、仕事と生活との両立に関わる問題（育児、親の介護等）も個人差が大きいものと考えられる。

健康面では、身体的な自覚症状の発現が見られる年齢層である。厚生労働省「2019年国民生活基礎調査」によると、30代後半以降、体のだるさ、不眠、頭痛、腹痛、歯の痛み、発疹、肩こり、腰痛、関節痛など、様々な自覚症状がある割合が高まる傾向にある。また、同調査によると、悩みやストレスがある者の割合は、男女ともに30代から50代までで高く、男性では約5割、女性では約6割を占める。同調査により健康に関わる生活習慣について見ると、生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている者（1日当たりの純アルコール摂取量が男性で40g以上、女性20g以上の者）の割合は、男性では40歳代、女性では50歳代において、他の年齢層と比べて高い。喫煙習慣は、厚生労働省「2019年国民健康・栄養調査」によると、30～60歳代男性で3割超であり、女性でも40～50代で1割超となっている。

主観的ウェルビーイングについては、先進国では年齢との関係において「U字カーブ」を描くことが知られている。つまり、ミドルエイジ層（35～54歳層）ではストレスを強く感じ、悩みを持ち、主観的ウェルビーイングが低下する一方、高齢層では主観的ウェルビーイングが再び高くなる傾向が示されている（Stephoe et al. 2015）¹¹。主観的ウェルビーイングが、仕事、生活、健康の状況とどう関わるのかは、本調査において主要テーマの一つとなる。

以上のように、ミドルエイジ層は、仕事、生活、健康、ウェルビーイングにおいて特徴的な年齢層であるとともに、それらの相互の関係も想定される。そこで、本調査では、第1節で述べた調査目的に基づき、回答者の属性・経歴とともに、職業や就業環境（働き方、業務負荷等）、生活状況（ライフコース、所得、生活時間、両立困難等）、健康状態（身体・メンタルヘルス等）、健康に関わる生活習慣、主観的ウェルビーイング（満足度、やりがい等）を把握し、実証研究を行うためのパネルデータを整備することとしたものである。

なお、第2章第3節で詳述するが、健康状態、主観的ウェルビーイング、仕事特性等の調査項目については、疫学等の分野で用いられる標準尺度を可能な限り使用することで、既存研究との比較を可能にしている。また、仕事や働き方に関しては、過重労働のほか、テレワークや副業・兼業等など、近年の労働政策課題を広く扱っている。

¹¹ Andrew Steptoe, Angus Deaton, Arthur A Stone, 2015, “Subjective wellbeing, health, and ageing,” *Lancet* 385: 640-48.

2. 半年サイクルでのパネル調査

本調査は、半年サイクルのパネル調査として計画している。既存のパネル調査は年1回サイクルでの実施が主流であったが¹²、本調査では、半年サイクルでの実施により、既存の調査よりも短期的な変動を見ることができる。

もともと、結婚・出産といったライフイベントや、正社員の就職・離転職・引退等の職業キャリア、重篤な疾病といった健康状態の変化については、ある程度、長期的な観測をもとにした分析が求められる。一方、企業内での職位や業務内容、働き方、労働時間、業務負荷のほか、生活時間、生活習慣、主観的健康、メンタルヘルス、主観的ウェルビーイング等の変化については、短期的な変動を見ることにも利点があると考えられる。たとえば、業務負荷に関して、過労死等（脳・心臓疾患、精神障害）の労災認定基準では、発症前6か月間における業務負荷等が評価要素とされており、半年サイクルで健康状態や就業・生活状況の変動を見ることによる政策的貢献も期待されよう。

3. 日本版 O-NET との接続による応用研究の可能性

本調査は、日本版 O-NET との接続による応用研究が可能な設計としている。具体的には、「令和4年版 厚生労働省編職業分類表」¹³をもとに、対象者の職業に関する設問を設けている。それにより、調査実施後に日本版 O-NET の職業情報と接続することができ、様々な応用研究が可能となる。職業について、第1回調査では、「現職」のほか、「初職」（学校卒業後最初に就いた仕事）および「前職」（現在の仕事に就く前に就いていた仕事）についても、同じ職業小分類により尋ねている。

¹² ただし、コロナ禍においては、感染拡大やその予防措置が人々の仕事や生活にどのような影響を及ぼすのかをリアルタイムで把握する目的から、JILPTが「新型コロナウイルス感染拡大の仕事や生活への影響に関する調査 [JILPT コロナ連続パネル個人調査 (第1~7回)]」を概ね3~4か月のサイクルで調査を実施するなど、高頻度のパネル調査が実施された。

¹³ 「令和4年版 厚生労働省編職業分類表」<https://www.mhlw.go.jp/content/11650000/001030651.pdf>

第2章 調査計画の詳細

第1節 本調査の方法

本調査は、調査対象者（回答者）にインターネットを通じてアンケート回答画面にアクセスしてもらい、Web上で回答してもらうWeb調査の方式で実施した。同方式を採用した理由としては、調査間隔が短いパネル調査であるため、調査依頼・回答・集計にかかる調査運営上の利点が多いことがある。あわせて、調査項目によってはWeb調査方式とすることで回答の正確性を確保しやすいという利点もある。たとえば、本調査では、回答者の職業を「小分類」のレベルで把握するが、質問紙による調査では、選択肢の印刷分量が多くなり、回答者が該当する選択肢を見つけることが容易ではないなど、回答負荷が高くなる可能性がある。この点、Web調査方式では多様な回答方式（たとえばドリルダウン→プルダウンで大分類を選択し、その中の中分類、小分類を選択するといった細かな選択肢に進む方法）が可能となり、回答者の負荷を軽減しつつ回答の正確性を高めることができる。

本調査では、調査会社の保有するWebモニターを対象サンプルとして使用した。かねてから指摘されているように、母集団の成員全てが等しい確率で標本となるような抽出方法（確率抽出）ではない公募型のWebモニター調査には標本の代表性の問題があるものの、本調査では、社会全体の人口分布に沿うよう、公的統計に基づき回収数の割付けを設定することにより、標本の偏りに一定程度対処することとした（第2節で詳述）。

調査の実施は、株式会社インテージリサーチに委託した。調査は、2023年1月18日～25日の期間で実施した。

第2節 標本設計

本調査では、調査時点において日本国内に居住する 35～54 歳の男女を母集団としている。第 1 回調査は、サンプルサイズを 20,000 とした。

サンプルは、社会全体の人口分布に沿うよう、公的統計に基づいて目標回収数を割り付ける設計とした。具体的には、総務省「令和 2 年国勢調査」をもとに、男女（2 区分）×年齢階層（5 歳刻み 4 区分）×就業形態（正社員・非正社員・自営業等・非就業の 4 区分）×居住地域（8 区分）×学歴（大卒・非大卒の 2 区分）で目標サンプルの割付を行った（合計 512 セル）。第 1 回調査では、全ての割付区分について目標回収数を回収することができた。

『令和 2 年国勢調査』に基づくサンプルの割付け

- 割付区分の作成に使用したデータ（e-stat より取得）
 - ・ 12-1 表「男女，年齢（5 歳階級），労働力状態・産業（大分類），在学か否かの別・最終卒業学校の種類別人口（15 歳以上）－全国，都道府県，21 大都市，特別区，人口 50 万以上の市」
 - ・ 14 表「男女，年齢（5 歳階級），従業上の地位，在学か否かの別・最終卒業学校の種類別就業者数（15 歳以上）－全国，都道府県，21 大都市，特別区，人口 50 万以上の市」
- 就業形態の区分：正社員・非正社員・自営業等・非就業の 4 区分
 - ・ 「正社員」：14 表における「（雇用者）正規の職員・従業員」「役員」の合計
 - ・ 「非正社員」：14 表における「（雇用者）労働者派遣事業所の派遣社員」「（雇用者）パート・アルバイト・その他」の合計
 - ・ 「自営業等」：14 表における「雇人のある業主」「雇人のない業主」「家族従業者」「家庭内職者」の合計
 - ・ 「非就業」：12-1 表における「完全失業者」「非労働力人口」の合計
（※12-1 表の「労働力状態「不詳」」、14 表の「従業上の地位「不詳」」は、比率計算の分母から除外。）
- 居住地域の区分：全国 8 地方区分による。
 - ・ 「北海道」（北海道）
 - ・ 「東北」（青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県）
 - ・ 「関東」（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）

- 「中部」(新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県)
 - 「近畿」(三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)
 - 「中国」(鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県)
 - 「四国」(徳島県、香川県、愛媛県、高知県)
 - 「九州沖縄」(福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)
- 最終学歴：大卒／非大卒・・・12-1 表、14 表において以下の区分から判断。
- 「大卒」：「(卒業者) 大学」「(卒業者) 大学院」の合計
 - 「非大卒」：「(卒業者) 小学校」「(卒業者) 中学校」「(卒業者) 高校・旧中」「(卒業者) 短大・高専」「未就学者」の合計
- (※「在学者」「(卒業者) 不詳」「在学か否かの別「不詳」は比率計算の分母から除外。)

第3節 調査項目

調査項目は、基本属性、主観的ウェルビーイング、就業状況、生活および家族、健康、個人の特性、経歴の8つの大項目により構成している。

第1回調査では、回答者の属性、経歴（学歴、職歴等）を把握するほか、労働環境、世帯、生活時間、健康状態、満足度などを尋ねており、以下では、各質問項目を大項目に沿って列挙し、必要に応じ説明を加える。なお、調査に使用した主な尺度の出典については、図表 2-2 を参照されたい。

1. 基本属性項目

- ・ 性別 (Q1)、生年月 (Q2_1)、年齢 (Q2_2)
- ・ 居住都道府県・市区町村 (Q3)
- ・ 最終学歴 (Q5)
- ・ 就業状況 (Q6)、非就業の場合、主にしていること (Q7)、休職・休業の場合、その理由 (Q8)
- ・ 就業形態 (Q9)
- ・ 雇用期間の定め (Q10)
- ・ (自営業について) 店舗の有無 (Q11)、雇人の有無 (Q12)

2. ウェルビーイングに関する項目

・ 主観的ウェルビーイング (Q13-15, Q40)

「主観的ウェルビーイング」の測定に当たっては、「OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being」(OECD, 2013)¹⁴ (以下「OECD ガイドライン」という。)に準拠した。OECD ガイドラインでは、「主観的ウェルビーイング」の多面的な要素を測定する多くの指標が提案されているが、そのなかでもっとも基礎的かつ学問的・政策的にも評価が確立した指標を「コア・モジュール」として定めている。それによると、主観的ウェルビーイングには「人生に対する主観的評価 (Evaluation)」「人生の意味 (Eudaimonia)」「感情 (Affects)」という異なる3つの側面があるとされている。本調査では、この3つの側面から、「主観的評価」については「生活満足度」「仕事満足度」に関する質問を、「人生の意味」については「やりがい」に関する質問を、「感情」については「幸福感」「不安感」「落ち込み」に関する質問を採用した。

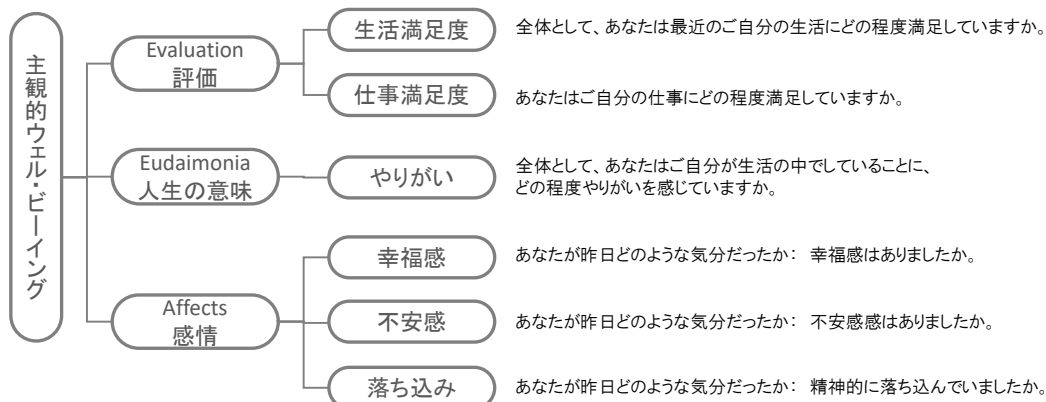
図表 2-1 では、「主観的ウェルビーイング」の測定に使用した設問項目の構成を示し

¹⁴ OECD (2013), OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/9789264191655-en>.

桑原進監訳、高橋しのぶ訳、(2015). 「主観的幸福を測る：OECD ガイドライン」明石書店

ている。

図表 2-1 主観的ウェルビーイングに関する質問項目



・ ソーシャル・サポート (Q101-103)

厚生労働省「職業性ストレス簡易調査票(57項目)」パートから質問項目を採用した。「上司」「職場の同僚」「配偶者、家族、友人等」について、それぞれ「どのくらい気軽に話ができるか」「困った時に、どのくらい頼りになるか」「個人的な問題を相談したら、どのくらい聞いてくれるか」について、4段階で尋ねている。

3. 就業状況に関する項目

(1) 就業状況に関連する項目

・ 職業 (Q48-Q51)

職業については、「令和4年版 厚生労働省編職業分類表」を使用し、小分類のレベルまで取得した。これにより、調査結果を日本版 O-NET と接続して分析することを可能としている。

・ 仕事特性 (Q34, 37)

仕事特性について、職業性ストレスとの関連から調査項目を設定した。Q34では、仕事の負担度、仕事のコントロール度に関して、厚生労働省「職業性ストレス簡易調査票(57項目)」¹⁵パート A より、10問を採用した。質問項目1~7では「仕事の負担度」(量的な負担、質的な負担、身体的な負担)について、質問項目8~10では仕事の「コントロール」について、それぞれ4段階で尋ねている。

Q37では、職業性ストレス要因について、「ERIQ (the Effort-Reward Imbalance Questionnaire) 短縮版」に基づく尺度を採用している¹⁶。これは、仕事のストレスに関

¹⁵ 労働省, 2000, 「労働の場におけるストレスおよびその健康影響に関する調査報告書」『平成11年度 作業関連疾患の予防に関する研究』

¹⁶ Siegrist, J. (1996). Adverse health effects of high-effort/low-reward conditions. *Journal of occupational*

する代表的な理論である「努力・報酬不均衡モデル (the effort reward imbalance model, ERI モデル)」にもとづいて構成された尺度である。このうち「努力」という概念は、仕事の要求度、責任、負担を測定する項目から構成される。「報酬」は、労働者が仕事から得られるものとして、経済的な報酬 (金銭)、心理的な報酬 (セルフ・エスティーム) およびキャリアに関する報酬 (仕事の安定性や昇進) を測定する項目からなる¹⁷。

・ 職場環境 (Q35-36)

職場環境については、「職場のソーシャル・キャピタル (Social Capital at Work)」尺度をもとに、個人が職場でどのような環境におかれ、どのようなリソース (資源) をもっているか、たとえば上司や同僚と良好な関係にあるか、彼らから支援を受けられるかなどについて測定した¹⁸。

・ ワークエンゲイジメント (Q42)

ワークエンゲイジメントとは、仕事に対してのポジティブで充実した心理状態のことを指し、その時々状況に応じて変化するものと考えられている。Q42では、「ユトレヒト・ワークエンゲイジメント尺度」を使用し、「仕事からの活力」、「仕事への熱意」、「仕事への没頭」の3つの項目について、それぞれ7段階 (頻度) で尋ねている¹⁹。

・ 能力開発 (Q43-Q44)

職業能力開発については、OECDのPIAAC調査にもとづく質問項目を採用し²⁰、日々の仕事においてどの程度、能力開発の機会があるか等、5段階で頻度を尋ねている。あわせて、半年の間にOff-JTおよび仕事に関わる自己啓発を行ったかについても尋ねている。

・ 在宅勤務 (Q60-Q62)

「在宅勤務 (テレワーク) 制度の適用の有無」「職場以外でもできる性質の仕事か」「週あたりの在宅勤務日数」について尋ねている。

・ 副業・兼業 (Q63-Q66)

health psychology, 1(1), 27.

Tsutsumi, A., Ishitake, T., Peter, R., Siegrist, J., & Matoba, T. (2001). The Japanese version of the Effort-Reward Imbalance Questionnaire: a study in dental technicians. *Work & stress*, 15(1), 86-96.

Kurioka, S., Inoue, A., & Tsutsumi, A. (2013). Optimum cut-off point of the Japanese short version of the effort-reward imbalance questionnaire. *Journal of occupational health*, 12-0235.

¹⁷ 日本語版努力-報酬不均衡モデル調査票マニュアル (<https://mental.m.u-tokyo.ac.jp/old/ERI/manual.htm>)

¹⁸ 小田切優子・大谷由美子・井上茂・林俊夫・内山綾子・高宮朋子・下光輝一 (2010) 「日本語版職域ソーシャルキャピタル質問紙の信頼性と妥当性の検討」産業衛生学雑誌, Vol. 52(suppl.), pp.631

Kouvonen A, Kivimaki M, Vahtera J, et al. (2006). Psychometric evaluation of a short measure of social capital at work. *BMC Public Health*, 6, 251.

¹⁹ Shimazu, A., Schaufeli, W. B., Kosugi, S. et al. (2008). Work engagement in Japan: Validation of the Japanese version of Utrecht Work Engagement Scale. *Applied Psychology: An International Review*, 57, 510-523.

Schaufeli, W. B., Shimazu, A., Hakanen, J., Salanova, M., & De Witte, H. (2019). An ultra-short measure for work engagement: The UWES-3 validation across five countries. *European Journal of Psychological Assessment*, 35, 577-591.

²⁰ OECD 国際成人力調査 (PIAAC, Programme for the International Assessment of Adult Competences) は、OECD が中心となって実施する、成人のスキルに関する国際比較調査。

「過去6ヶ月に副業・兼業を実施したか」「副業・兼業の就業形態」「1ヶ月あたり副業・兼業にかける時間」「1ヶ月あたり副業・兼業からの収入」について尋ねている。なお、本調査における副業・兼業には、次のものは含まないものと整理している：年金、利子、家賃、株式等の配当、相続などによる収入や、株式のトレーディング、個人的なネットオークション、ブログや動画配信サイトのアフィリエイト広告、ネット調査のモニターなどによる収入。

・ **本人の収入 (Q67-Q68)**

「仕事の月収（残業代含む）」（ボーナスおよび副業・兼業からの収入は除く。）について、11段階のカテゴリで尋ねている。また、「仕事の年収（ボーナス、臨時収入、副業・兼業からの収入も含む）」について、16段階のカテゴリで尋ねている。

・ **仕事に関連する出来事 (Q39)**

仕事に関連する次の出来事について、過去6ヶ月の間に経験したか否かを尋ねている。：昇進、昇給、部署異動、転居を伴う転勤、仕事上のミス、同僚や部下とのトラブル、上司からのパワーハラスメント、顧客や取引先からのクレームや迷惑行為、達成困難なノルマ、失業・失職・廃業。

・ **役職 (Q52)、部下の数 (Q53)**

・ **仕事満足度 (Q40)**（「2. ウェルビーイングに関する項目」で説明。）

・ **転職希望 (Q41)**

・ **就業希望 (Q100)**

(2) 労働時間に関連する項目

・ **勤務時間制度 (Q54)**

・ **週あたり実労働時間（残業を含む） (Q55)**

・ **深夜・早朝勤務の有無 (Q56)**

・ **就業スケジュールの予測可能性 (Q57)**

就業スケジュールの予測可能性 (predictability of work schedule) について、「仕事で突然出勤を求められること」「仕事・シフトを突然キャンセルされること」「シフトが直前まで決まらないこと」「自分や家族の都合で休みが取得しやすい」「日によってシフトの時間が大きく異なること」という5項目により測定した。

・ **通勤時間 (Q58)**

(3) 勤務先に関連する項目

・ **産業 (Q46)**

「日本標準産業分類（平成25年10月改訂）」の大分類のレベルで尋ねた。

・ **企業規模 (Q47)**

- ・勤務先での取組み・各種施策 (Q59)

ワークライフバランスやダイバーシティ等に関する各種施策や取組みの実施有無を尋ねた。

4. 生活および家族に関する項目

- ・子供の有無 (Q71)、子供の人数 (Q72)、末子年齢 (Q73)

- ・世帯人数 (Q74)

- ・世帯構成 (Q75)

「同居している方」「生計を同一にする方」「介護・看護・介助が必要な方」のそれぞれについて、回答者との関係を尋ねている。

- ・世帯年収 (Q69) (配偶者など他の家族の収入や、家賃収入なども含む)

- ・生活に関連する出来事 (Q76)

家庭生活や家族に関連した次の出来事について、過去 6 ヶ月の間に経験したか否かを尋ねた。：結婚、子供の誕生、引越、子供の受験・進学、配偶者との離婚・別居、配偶者の就職・転職・起業、配偶者の離職、自分の病気・怪我、家族の病気・怪我、家族の介護。

- ・配偶者の有無 (Q70)

- ・配偶者の最終学歴 (Q77)

- ・配偶者の就業形態 (Q78)

- ・配偶者の年収 (ボーナス、臨時収入、副業・兼業からの収入も含む) (Q79)

- ・配偶者の平均的な帰宅時間 (Q80)

- ・生活時間 (Q17-Q20)

「睡眠」については、6つのカテゴリにより尋ねている。また、「家事 (食事の用意・洗濯・買い物・掃除など)」「育児 (衣食の世話・遊び相手・勉強の面倒を見るなど)」

「介護・看護」「自由時間 (趣味・団らん・運動など)」について、8つのカテゴリによって尋ねている。これらは、「仕事のある日」(平日)と「仕事のない日」(休日)のそれぞれについて尋ねている。

- ・ワーク・ファミリー・コンフリクト (Q81-Q82)

仕事役割と家庭役割の両立困難度について、「ワーク・ファミリー・コンフリクト 8 項目版」の尺度により測定した²¹。この尺度は、家庭から仕事への影響について測定す

²¹ Chandola, T., Martikainen, P., Bartley, M., Lahelma, E., Marmot, M., Michikazu, S., & Kagamimori, S. (2004). Does conflict between home and work explain the effect of multiple roles on mental health? A comparative study of Finland, Japan, and the UK. *International journal of epidemiology*, 33(4), 884-893.
Sekine, M., Chandola, T., Martikainen, P., Marmot, M., & Kagamimori, S. (2006). Work and family characteristics as determinants of socioeconomic and sex inequalities in sleep: The Japanese Civil Servants Study. *Sleep*, 29(2), 206-216.

る4項目(Q81)と、仕事から家庭への影響について測定する4項目(Q82)から構成されており、それぞれ3段階で尋ねている。

5. 健康に関する項目

・メンタルヘルス(Q22)

メンタルヘルスについては、測定尺度として広く用いられている「Kessler-6(K6)」を採用した²²。6つの質問項目について、5段階で尋ねている。

・身体症状(Q23)

身体症状については、「Somatic Symptom Scale-8(SSS-8)」を採用した²³。8つの身体症状の項目について5段階で尋ねている。

・プレゼンティーズム(Q33)

プレゼンティーズムとは、「何らかの疾患や症状を抱えながら出勤し、業務遂行能力や生産性が低下している状態」と定義される²⁴。これについては、1項目の設問で簡易にプレゼンティーズムを測定することができる、「SPQ(Single-Item Presenteeism Question, 東大1項目版)」を用いて測定した²⁵。

・主観的健康感(Q21)

厚生労働省「国民生活基礎調査」(健康票)をもとに項目を作成し、本人が自分の健康をどのように評価しているかを5段階で尋ねた。

・身長、体重(Q24)

・健康行動(食事・運動・睡眠・飲酒・喫煙・服薬等)(Q25-Q29, Q32)

健康行動について、食事・運動・睡眠(Q25)に関しては、厚生労働省「標準的な健診・保健指導プログラム」における標準的な質問票をもとに項目を作成した。サプリメントや医薬品等の摂取・使用状況(Q32)に関しては、サプリメントの摂取状況を尋ね

²² Kessler, R. C., Andrews, G., Colpe, L. J., Hiripi, E., Mroczek, D. K., Normand, S. L., ... & Zaslavsky, A. M. (2002). Short screening scales to monitor population prevalences and trends in non-specific psychological distress. *Psychological medicine*, 32(6), 959-976.

Furukawa, T. A., Kawakami, N., Saitoh, M., Ono, Y., Nakane, Y., Nakamura, Y., ... & Kikkawa, T. (2008). The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. *International journal of methods in psychiatric research*, 17(3), 152-158.

²³ 松平浩, 川口美佳, 村上正人, 福土審, 橋爪誠, & 岡敬之. (2016). 「日本語版 Somatic Symptom Scale-8 (SSS-8 [身体症状スケール]) の開発—言語的妥当性を担保した翻訳版の作成—」『心身医学』, Vol. 56(9), pp.931-937.

Matsudaira, K., Oka, H., Kawaguchi, M., Murakami, M., Fukudo, S., Hashizume, M., & Löwe, B. (2017). Development of a Japanese version of the Somatic Symptom Scale-8: Psychometric validity and internal consistency. *General hospital psychiatry*, 45, 7-11.

Gierk B, Kohlmann S, Kroenke K, et al. (2014). The Somatic Symptom Scale-8 (SSS-8) : a brief measure of somatic symptom burden. *JAMA Intern Med* 174, 399-407.

²⁴ 東京大学未来ビジョン研究センター「SPQとは」(<https://spq.ifi.u-tokyo.ac.jp/>)

²⁵ Muramatsu K, Nakao K, Ide H, Furui Y. (2021). Testing the construct validity and responsiveness of the Single-Item Presenteeism Question. *J Occup Environ Med.*, 63(4), e187-e196.

古井祐司, 村松賢治, 井出博生. (2018) 「中小企業における労働生産性の損失とその影響要因」『日本労働研究雑誌』 No.695, pp.49-61.

た厚生労働省「国民生活基礎調査健康・栄養調査」等や、エナジードリンク、解熱鎮痛薬、精神安定薬、睡眠薬の使用状況について調査した国立精神・神経医療研究センター「薬物使用に関する全国住民調査」（2021年）等を参考にして項目を作成した。

・ **健康診断・人間ドック（Q30-31）**

6. 個人の特性に関する項目

・ **性格特性（Q16）**

個人の性格特性を測定する尺度としては、「BIG Five, 日本版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J)」を採用した²⁶。自分の性格に関する10の質問項目に関してどれくらいあてはまるかを7段階で尋ねている。これにより、個人の性格特性が5つのタイプに分類される。

・ **オーバーコミットメント（Q38）**

オーバーコミットメントとは、個人がどの程度仕事に没入しやすい傾向にあるかを示す。測定尺度としては、「ERIQ (the Effort -Reward Imbalance Questionnaire) 短縮版」の一部として設けられている尺度、「オーバーコミットメント」を採用した。仕事への関わり方についての6つの質問項目に関して4段階で尋ねている²⁷。

7. 経歴に関する項目

第1回調査では、回答者の経歴に関する以下の項目について質問した。職業経歴では、初職・前職・現職とも、職業小分類のレベルで尋ねている。

- ・ **父親学歴、母親学歴（Q83）**
- ・ **15歳当時の暮らしむき（Q84）**
- ・ **最初の仕事につく前に学校を出た（卒業・中退）年月（Q85）**
- ・ **これまで経験した勤め先の数（Q86）**
- ・ **初職について（入社年月、就業形態、職業小分類、退職年月）（Q87-92）**
- ・ **前職について（入社年月、就業形態、職業小分類、退職年月）（Q93-98）**
- ・ **現職について（入社年月）（Q99）**

²⁶ 小塩真司・阿部晋吾・カトローニ=ピノ（2012）。「日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J)作成の試み」『パーソナリティ研究』, Vol. 21, pp.40-52.

Gosling, S. D., Rentfrow, P. J., & Swann, W. B., Jr. (2003). A Very Brief Measure of the Big Five Personality Domains. *Journal of Research in Personality*, 37, 504-528.

²⁷ Siegrist, J. (1996). Adverse health effects of high-effort/low-reward conditions. *Journal of occupational health psychology*, 1(1), 27.

Tsutsumi, A., Ishitake, T., Peter, R., Siegrist, J., & Matoba, T. (2001). The Japanese version of the Effort-Reward Imbalance Questionnaire: a study in dental technicians. *Work & stress*, 15(1), 86-96.

Kurioka, S., Inoue, A., & Tsutsumi, A. (2013). Optimum cut-off point of the Japanese short version of the effort-reward imbalance questionnaire. *Journal of occupational health*, 12-0235.

図表 2-2 調査に使用した主な尺度の出典一覧

No.	質問番号	項目	尺度名称, 出典
1	Q13-Q15	主観的ウェルビーイング	OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being, Core Module 桑原進監訳, 高橋しのぶ訳, (2015). 「主観的幸福を測る: OECD ガイドライン」 明石書店
2	Q16	性格特性	BIG Five, 日本語版Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 小塩真司・阿部晋吾・カトローニ ビノ (2012). 日本語版Ten Item Personality Inventory (TIPI-J)作成の試み パーソナリティ研究, 21, 40-52. Gosling, S. D., Rentfrow, P. J., & Swann, W. B., Jr. (2003). A Very Brief Measure of the Big Five Personality Domains. Journal of Research in Personality, 37, 504-528.
3	Q21	主観的健康感	厚生労働省 「国民生活基礎調査」 【健康票】
4	Q22	メンタルヘルス	The Kessler 6-Item Psychological Distress Scale (K6) Kessler, R. C., Andrews, G., Colpe, L. J., Hiripi, E., Mroczek, D. K., Normand, S. L., ... & Zaslavsky, A. M. (2002). Short screening scales to monitor population prevalences and trends in non-specific psychological distress. Psychological medicine, 32(6), 959-976. Furukawa, T. A., Kawakami, N., Saitoh, M., Ono, Y., Nakane, Y., Nakamura, Y., ... & Kikkawa, T. (2008). The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. International journal of methods in psychiatric research, 17(3), 152-158.
5	Q23	身体症状	Somatic Symptom Scale-8 (SSS-8) 松平浩, 川口美佳, 村上正人, 福土審, 橋爪誠, & 岡敬之. (2016). 日本語版 Somatic Symptom Scale-8 (SSS-8 [身体症状スケール]) の開発-言語的妥当性を担保した翻訳版の作成-. 心身医学, 56(9), 931-937. Matsudaira, K., Oka, H., Kawaguchi, M., Murakami, M., Fukudo, S., Hashizume, M., & Löwe, B. (2017). Development of a Japanese version of the Somatic Symptom Scale-8: Psychometric validity and internal consistency. General hospital psychiatry, 45, 7-11. Gierk B, Kohlmann S, Kroenke K, et al (2014). The somatic symptom scale-8 (SSS-8) : a brief measure of somatic symptom burden. JAMA Intern Med 174 : 399-407
6	Q25	健康行動(食事・運動・睡眠)	厚生労働省 標準的な健診・保健指導プログラム【平成 30 年度版】 別添3 標準的な質問票
7	Q33	プレゼンティーズム	東大1項目版, 東京大学未来ビジョン研究センター SPQ (Single-Item Presenteeism Question 東大1項目版) Muramatsu K, Nakao K, Ide H, Furui Y. (2021). Testing the Construct Validity and Responsiveness of the Single-Item Presenteeism Question. J Occup Environ Med.2021;63(4): e187-e196 古井祐司, 村松賢治, 井出博生「中小企業における労働生産性の損失とその影響要因」日本労働研究雑誌 2018年6月号 No.695 49-61
8	Q34	仕事特性 (業務の量的・質的負荷, 裁量性)	厚生労働省 「職業性ストレス簡易調査票 (57項目)」 パートA
9	Q35-36	職場環境	職場のソーシャル・キャピタル 8 項目版 小田切優子・大谷由美子・井上茂・林俊夫・内山綾子・高宮朋子・下光輝一 (2010) 「日本語版職域ソーシャルキャピタル質問紙の信頼性と妥当性の検討」産業衛生学雑誌, Vol. 52(suppl.), pp.631 Kouvonen A, Kivimaki M, Vahtera J, et al. (2006). Psychometric evaluation of a short measure of social capital at work. BMC Public Health, 6 : 251.

No.	質問番号	項目	尺度名称, 出典
10	Q37	仕事特性 (仕事のストレス)	ERI (Effort-Reward Imbalance) (努力・報酬不均衡) Siegrist, J. (1996). Adverse health effects of high-effort/low-reward conditions. <i>Journal of occupational health psychology</i> , 1(1), 27. Tsutsumi, A., Ishitake, T., Peter, R., Siegrist, J., & Matoba, T. (2001). The Japanese version of the Effort-Reward Imbalance Questionnaire: a study in dental technicians. <i>Work & stress</i> , 15(1), 86-96. Kurioka, S., Inoue, A., & Tsutsumi, A. (2013). Optimum cut-off point of the Japanese short version of the effort-reward imbalance questionnaire. <i>Journal of occupational health</i> , 12-0235.
11	Q38	オーバーコミットメント	オーバーコミットメント (出典は「努力・報酬不均衡」尺度と同じ) Siegrist, J. (1996). Adverse health effects of high-effort/low-reward conditions. <i>Journal of occupational health psychology</i> , 1(1), 27. Tsutsumi, A., Ishitake, T., Peter, R., Siegrist, J., & Matoba, T. (2001). The Japanese version of the Effort-Reward Imbalance Questionnaire: a study in dental technicians. <i>Work & stress</i> , 15(1), 86-96. Kurioka, S., Inoue, A., & Tsutsumi, A. (2013). Optimum cut-off point of the Japanese short version of the effort-reward imbalance questionnaire. <i>Journal of occupational health</i> , 12-0235.
12	Q40	仕事満足度	OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being 桑原進監訳, 高橋しのぶ訳, (2015). 「主観的幸福を測る: OECD ガイドライン」 明石書店
13	Q41	転職希望	「労働力調査」
14	Q42	ワークエンゲイジメント	ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度 Shimazu, A., Schaufeli, W. B., Kosugi, S. et al. (2008). Work engagement in Japan: Validation of the Japanese version of Utrecht Work Engagement Scale. <i>Applied Psychology: An International Review</i> , 57, 510-523. Schaufeli, W. B., Shimazu, A., Hakkanen, J., Salanova, M., & De Witte, H. (2019). An ultra-short measure for work engagement: The UWES-3 validation across five countries. <i>European Journal of Psychological Assessment</i> , 35, 577-591.
15	Q43	能力開発 (OJT)	PIAAC調査 OECD, The Programme for the International Assessment of Adult Competencies (PIAAC)
16	Q44	能力開発 (Off-JT, 自己啓発)	JILPT 調査シリーズNo.217 「人材育成と能力開発の現状と課題に関する調査 (労働者調査)」
17	Q46	産業	日本標準産業分類 (平成25年10月改定) 大分類
18	Q48-51	職業	厚生労働省編職業分類 (令和4年改定) 小分類
19	Q81-82	ワーク・ファミリー・コンフリクト	ワーク・ファミリー・コンフリクト 8項目版 Chandola, T., Martikainen, P., Bartley, M., Lahelma, E., Marmot, M., Michikazu, S., ... & Kagamimori, S. (2004). Does conflict between home and work explain the effect of multiple roles on mental health? A comparative study of Finland, Japan, and the UK. <i>International journal of epidemiology</i> , 33(4), 884-893. Sekine, M., Chandola, T., Martikainen, P., Marmot, M., & Kagamimori, S. (2006). Work and family characteristics as determinants of socioeconomic and sex inequalities in sleep: The Japanese Civil Servants Study. <i>Sleep</i> , 29(2), 206-216.
20	Q84	15歳時の暮らしむき	東京大学社会科学研究所 「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査」 (社研壮年パネル) 2011年
21	Q100	就業希望	「労働力調査」
22	Q101-103	ソーシャル・サポート	厚生労働省 「職業性ストレス簡易調査票 (57項目)」 パートC

第Ⅱ部 集計・分析編

第3章 就業状況と仕事特性

第1節 就業状況と労働条件

1. 就業状況（Q6、Q7、Q8）（男女別・年齢階級別）

今回の調査は、就業者のみならず非就業者も調査対象としている。図表 3-1 は、就業状態を男女別・年齢階級別に集計したものである。非就業者の比率は、男性で 6%～7%台、女性で 20%～24%台となっており、男女間で相違がある。年齢による違いはそれほど大きくないが、女性では 35～39 歳で非就業の割合が比較的高い。休職・休業中の人の比率は、女性の 35～44 歳を除くとおおむね 1%台である。

図表 3-1 現在収入のある仕事をしているか(男女別・年齢階級別) (%)

		している	休職・ 休業中	していない	合計	(N)
合計		83.6	1.7	14.8	100.0	20,000
男性	35～39歳	92.0	1.1	6.9	100.0	2,106
	40～44歳	92.3	1.0	6.7	100.0	2,425
	45～49歳	91.8	1.1	7.2	100.0	2,855
	50～54歳	90.7	1.5	7.9	100.0	2,534
女性	35～39歳	70.3	4.9	24.8	100.0	2,125
	40～44歳	75.9	2.4	21.8	100.0	2,446
	45～49歳	78.3	1.2	20.6	100.0	2,895
	50～54歳	76.5	1.0	22.5	100.0	2,614

図表 3-2 は、非就業者に対して、「現在、主に何をしているか」を尋ねた回答である。これによると、女性では圧倒的に「家事」が多いのに対して、男性は「特に何もしていない」が約 4 割を占めており、次いで「家事」「仕事探し」が多い。

図表 3-2 現在主にしていること(男女別・年齢階級別) (%)

		家事	通学	仕事探し	特に何も していない	その他	合計	(N)
合計		69.6	0.5	9.2	15.8	5.0	100.0	2,952
男性	35～39歳	32.2	1.4	18.5	41.1	6.9	100.0	146
	40～44歳	21.0	0.0	22.8	48.2	8.0	100.0	162
	45～49歳	27.0	2.0	20.1	41.7	9.3	100.0	204
	50～54歳	30.0	0.5	22.0	42.0	5.5	100.0	200
女性	35～39歳	82.3	0.8	4.6	5.9	6.5	100.0	526
	40～44歳	81.8	0.6	5.6	7.7	4.3	100.0	532
	45～49歳	83.0	0.2	6.4	7.2	3.2	100.0	595
	50～54歳	84.3	0.0	5.1	7.7	2.9	100.0	587

図表 3-3 は、主にどのような理由で休職・休業しているかを示したものである（観測数が少ないため、%ではなく実数で示している）。女性の 30 代から 40 代前半にかけて出産・育児

による休職・休業が多いが、それ以外の年代では男女を問わず病気による休職・休業が大半を占めている。

図表 3-3 休職・休業の主な理由(男女別・年齢階級別)

		けが	病気	出産・育児	介護	勤め先の都合	その他	合計(N)
合計		21	132	113	12	39	22	339
男性	35～39歳	1	13	1	0	4	4	23
	40～44歳	2	15	0	2	5	1	25
	45～49歳	5	14	0	2	6	3	30
	50～54歳	4	22	0	2	8	1	37
女性	35～39歳	2	12	85	0	3	3	105
	40～44歳	3	26	23	1	1	4	58
	45～49歳	3	17	4	1	6	3	34
	50～54歳	1	13	0	4	6	3	27

2. 就業形態 (Q9) (男女別・年齢階級別)

図表 3-4 は、就業形態の詳細な分類を男女別・年齢階級別に集計したものである。男性では正社員・正職員が 8 割程度と多く、女性では、正社員・正職員が 4～5 割程度であり、次いでパート・アルバイトが 3～4 割程度を占める。

図表 3-4 就業形態(詳細)(男女別・年齢階級別)(%)

		経営者・役員	正社員・正職員	パート・アルバイト	契約社員	派遣社員	嘱託	自営業・フリーランス	家族従業	合計	(N)
合計		2.1	65.4	18.4	3.1	2.8	0.5	7.3	0.6	100	17,048
男性	35～39歳	1.9	83.2	4.0	2.2	1.2	0.2	6.8	0.5	100	1,960
	40～44歳	2.3	82.9	2.8	1.4	1.7	0.3	8.2	0.4	100	2,263
	45～49歳	3.4	81.5	2.6	1.7	1.1	0.3	9.0	0.3	100	2,651
	50～54歳	4.0	79.8	2.7	2.4	0.7	0.2	10.0	0.2	100	2,334
女性	35～39歳	0.6	52.5	33.0	3.8	3.8	0.3	5.1	1.1	100	1,599
	40～44歳	1.0	47.2	35.5	4.4	4.7	0.7	5.7	0.7	100	1,914
	45～49歳	1.0	44.5	37.6	4.5	5.1	1.0	5.6	0.8	100	2,300
	50～54歳	1.5	41.9	39.1	4.8	4.6	0.9	6.4	0.8	100	2,027

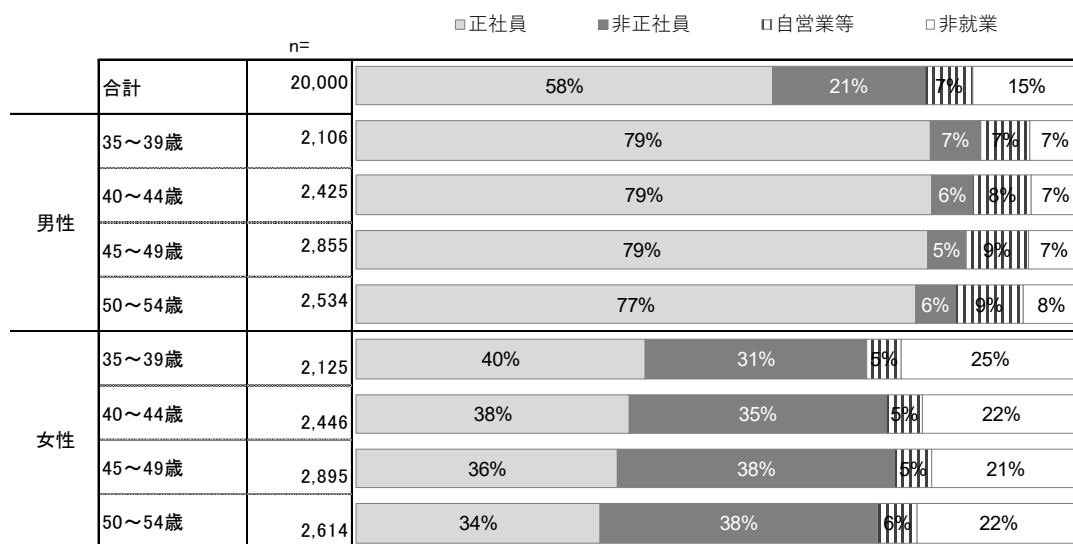
本報告書ではこれ以降のデータの集計において就業形態として以下の 4 分類を使用する。

- ・ 「正社員」：図表 3-4 の「経営者・役員」 28及び「正社員・正職員」
- ・ 「非正社員」：図表 3-4 の「パート・アルバイト」「契約社員」「派遣社員」及び「嘱託」
- ・ 「自営業等」：図表 3-4 の「自営業・フリーランス」及び「家族従業者」
- ・ 「非就業」：図表 3-1 の（収入のある仕事を）「していない」

²⁸ 「経営者・役員」は従業員ではないため、「正社員」に含めるべきかについては、検討の余地がある。本調査で、「経営者・役員」を選択した人の「勤務先規模」を確認すると、54%の人が「1～9名」を選択しているが、これらのケースは実質的に雇人がある「自営業」の働き方も近い。だが、日本企業のキャリアパスにおいては従業員と経営者・役員との連続性が強いことを踏まえて、本稿では「正社員」に含む扱いとした。

図表 3-5 は、この 4 分類について男女別・年齢階級別の構成比を示したものである。男性と女性との間で構成比に大きな違いがある一方で、各性別のなかでは年齢による違いはあまり大きくない。就業者の構成では、男性は正社員が圧倒的に多いのに対して、女性は非正社員の割合が男性に比べ高い。また、女性では非就業者の割合も高い。

図表 3-5 就業形態(男女別・年齢階級別)



3. 収入 (Q67、Q68、Q69)

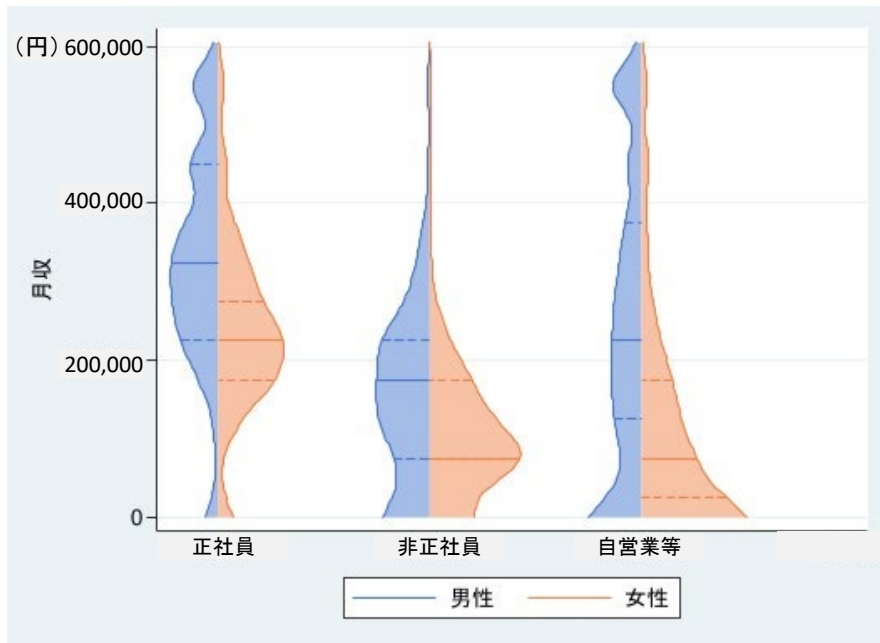
本調査では、次の 3 種類の収入金額についてカテゴリにより尋ねている。

- ・ 本人の月収 (2022 年 12 月の月収。残業代を含め、ボーナスを除く。副業・兼業からの収入も除く。)
- ・ 本人の年収 (2022 年の年収。ボーナス、臨時収入、副業・兼業からの収入も含む。)
- ・ 世帯の年収 (世帯全体の年収。副業・兼業からの収入も含み、配偶者等他の家族の収入や、家賃収入なども含む。)

本調査では、第 2 章第 2 節で示したとおり、男女別・就業形態別の人口構成比が母集団を再現するものとなるよう、国勢調査に基づき回収数の割付を行っている。ここでは、男女別、就業形態別の収入分布をカーネル密度推定により推定した。図表 3-6 では、就業形態別の収入分布の推定結果を男女別に対比させて表示している。

縦軸が月収の金額を示し、各グラフの左右のふくらみは密度を表している。図の中の実線が中央値 (メディアン) の水準、その上にある点線が第 3 四分位 (75 パーセンタイル)、下にある点線が第 1 四分位 (25 パーセンタイル) の水準である。いずれの就業形態でも、男女で分布の形状が異なっている。また、男性も女性も、就業形態によって賃金分布が大きく異なっている。

図表 3-6 月収の分布(就業形態別・男女別)



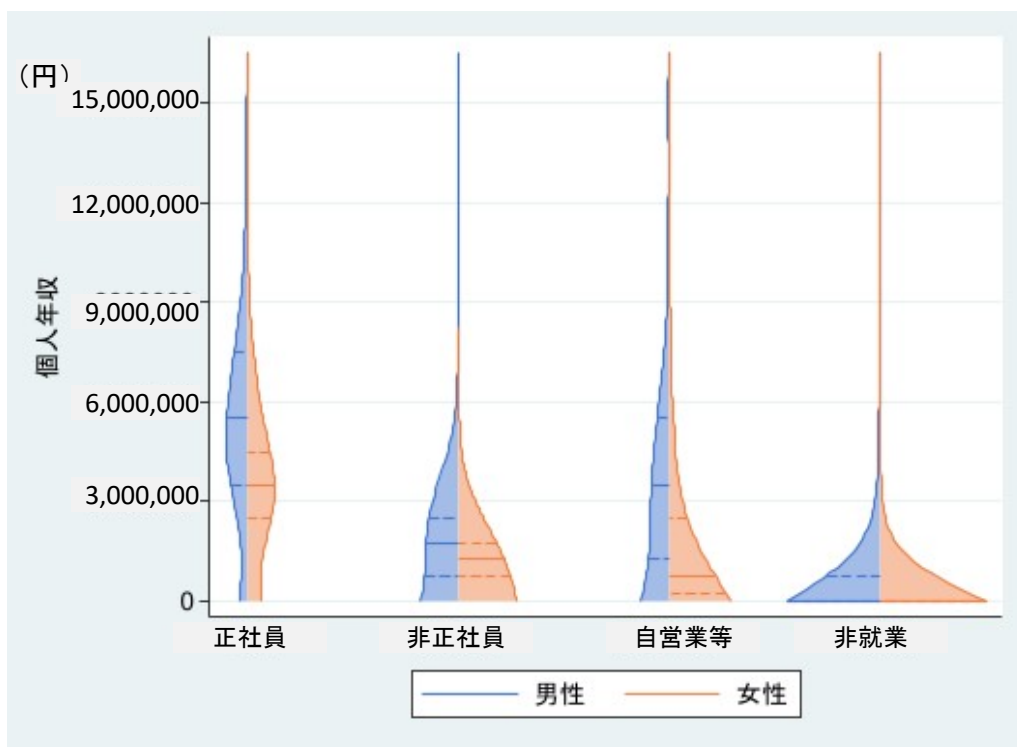
注) バンド幅=30,000

正社員では、男女とも裾野の広い山型の分布となっているが、男性の中央値が 300 万円強であるのに対して、女性は 200 万円強となっており、男性の方が女性よりも水準が高い。また、第 1・3 四分位の線を比較すると分かるように、女性の方が狭い範囲に分布している。非正社員では、男女とも下側に詰まった分布となっている。男性非正社員の中央値は 200 万円弱と正社員に比べてかなり低いが、女性非正社員の中央値はそれよりも低くなっている。自営業等の分布は、被雇用者と異なる形状となっている。男性の自営業等は、中央値が 200 万円強と正社員よりも低いものの、明確な分布の山がなく、幅広い範囲に分布している。女性の自営業等は、中央値が 100 万円弱と男性の自営業等に比べてかなり低く、女性非正社員と同水準である。

図表 3-7 は、個人年収の分布を推定したものである。「正社員」「非正社員」「自営業等」の傾向としては、月収の分布と大きな違いはない。非正社員では、相対的に狭い範囲に分布が集中している一方、それとは対照的に、自営業等では男性も女性も広い範囲にわたって分布していることが特徴的である。

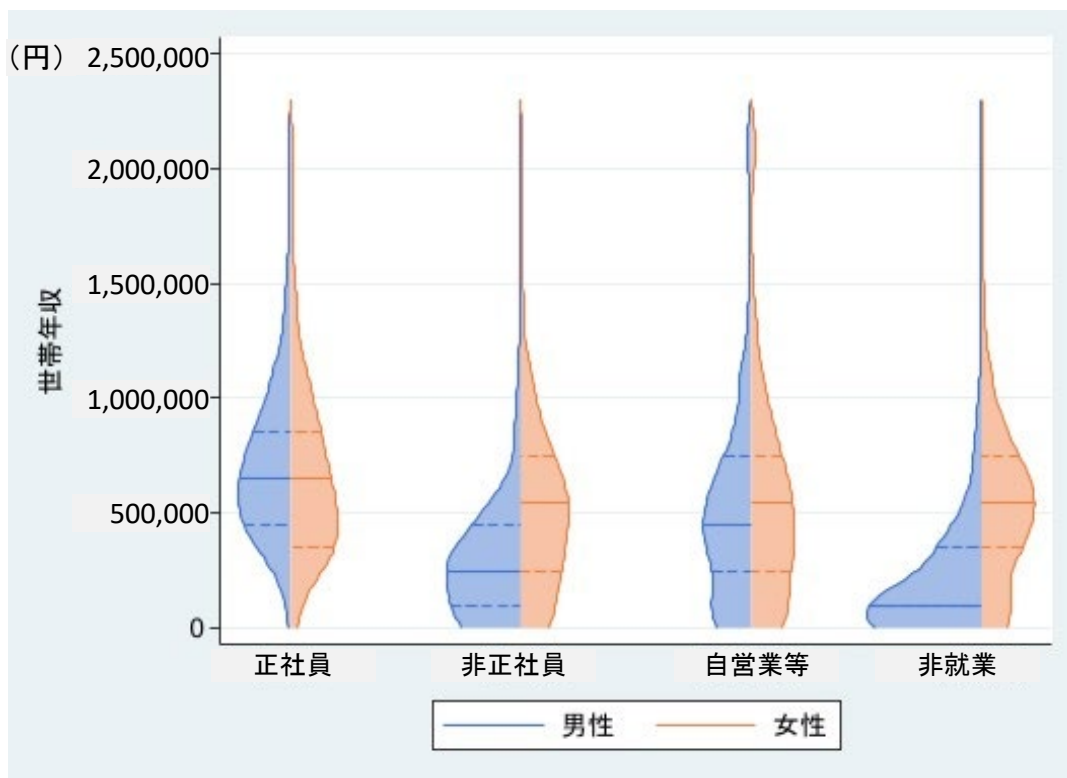
最後に、図表 3-8 は、世帯年収の分布を示している。男性では、個人年収の形状をおおむねそのまま引き継いでいるといえる。正社員では、中央値である 600 万円強の両側になだらかに分布しており、非正社員の中央値は正社員の半分以下である。自営業等では、中央値は正社員よりもやや低い水準だが、全体は広い範囲に分布している。他方で、女性では、本人の年収と世帯の年収にはあまり関連が見られず、いずれの就業形態においても世帯年収の分布はさほど変わらない。このことは女性の就業が、世帯の中で調整されていることを示唆しているとも考えられる。そのなかで、女性自身が正社員の場合には、若干ではあるが他の形態に比べて世帯年収が高めに分布している。

図表 3-7 個人年収の分布(就業形態別・男女別)



注) バンド幅=1,000,000

図表 3-8 世帯年収の分布(就業形態別・男女別)



注) バンド幅=1,000,000

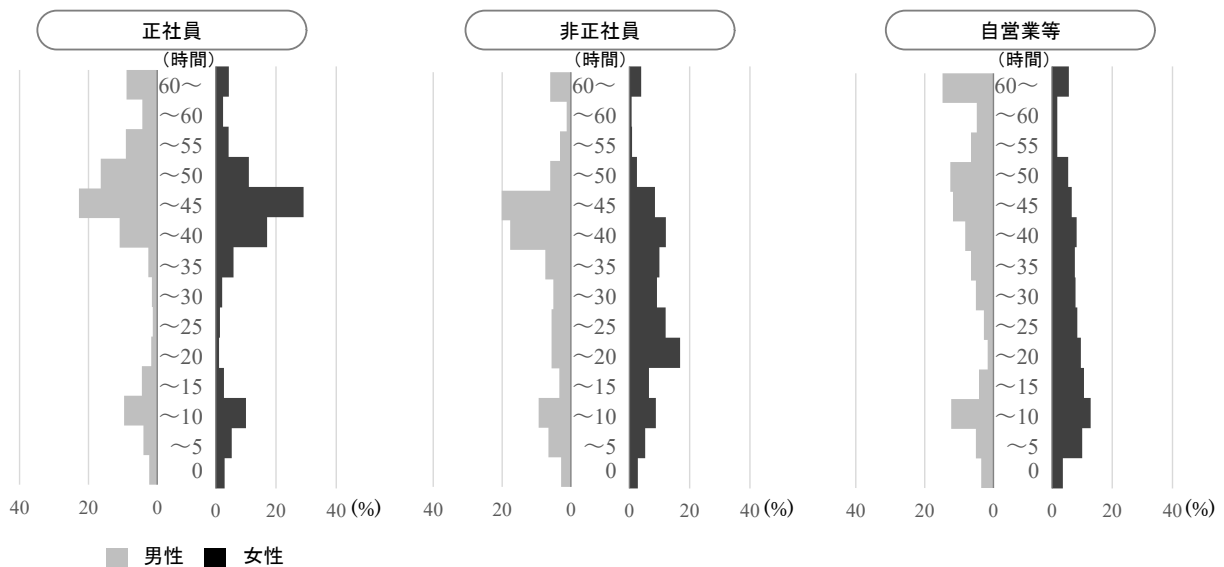
4. 労働時間 (Q55)

本調査では、残業時間も含めた週の実労働時間について尋ねている。

図表 3-9 は、週あたり実労働時間の分布を就業形態別に集計し、男女で対比している。正社員は男女とも週 40～45 時間に多く分布している。非正社員および自営業等をみると、男性ではいずれも週 40 時間超に多く分布しており、正社員とほぼ同じくらいの時間を働いているが、正社員よりも広い範囲に分布している。一方で女性をみると、非正社員も自営業等も大半が正社員より短い時間に分布しており、全体として短時間の勤務であることが分かる。

女性の労働時間が短いことは、これまで女性が柔軟性（フレキシビリティ）の高い働き方を求めているためであり、それゆえに短時間労働であることによる女性の効用は高いと考えられてきた。労働時間の長さがどのような要素により規定されているのか、また労働時間がその人の健康やウェルビーイングにどのように関連しているのか、今後の調査における重要なテーマのひとつである。

図表 3-9 週あたり実労働時間の分布(就業形態別・男女別)



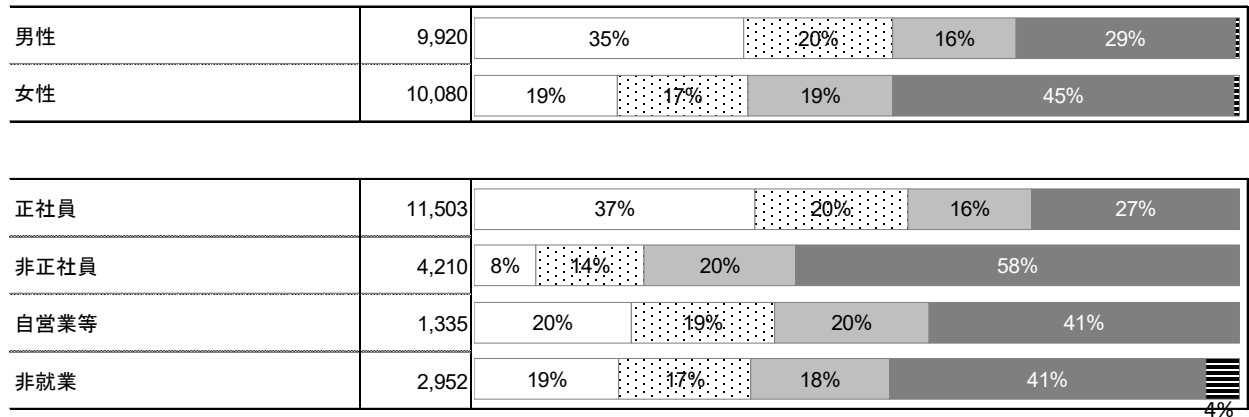
5. 職歴 (Q86)

初職や前職の経験による現在の就業形態や職業への影響については、多くの研究が蓄積されている。本調査では本人の職歴について、現職に加えて「初職」および「前職」も、職業小分類のレベルで尋ねている。これにより、本調査の結果を日本版 O-NET と接続して分析することも可能な設計としている。

図表 3-10 は、これまで経験した仕事の数を集計したものである。男性では初職を続けている人の割合が 35%と最も高いのに対し、女性では 2 つ以上の仕事を経験している人の割合が高い。就業形態でみると、正社員では初職を続けている人の割合が高いのに対して、非正社員

では2つ以上の仕事を経験している人がほとんどであり、さらに約6割の人は4つ以上の仕事を経験している。自営業等や非就業の人も同様に、約8割の人が2つ以上の仕事を経験している。現在仕事をしていない非就業の人でも、これまで一度も仕事をしたことがない人は、わずか4%にすぎない。

図表 3-10 これまでに経験した仕事の数(男女別・就業形態別)



□1つ □2つ ■3つ ■4つ以上 ≡これまで一度も仕事をしたことがない

第2節 多様な働き方と職場の取り組み

1. 在宅勤務（テレワーク）（Q60、Q61、Q62）

本調査では在宅勤務について、主に3つの質問を尋ねている。図表3-11は、在宅勤務（テレワーク）制度の適用について集計したものである。自身に在宅勤務（テレワーク）制度が適用されているのは、正社員で30%、非正社員で10%となっている。正社員の方が適用される比率が高いとはいえ、正社員でも一部の人しか制度が適用されていない。

図表 3-11 在宅勤務(テレワーク)制度の適用有無(Q60)

Q60: あなたの職場では、在宅勤務(テレワーク)が制度として導入されていますか。
あなた自身に適用される制度の有無についてお答え下さい。

	n=	■導入されている	□導入されていない	□わからない	(%)
合計	15,713	24%	64%	12%	
正社員	11,503	30%	61%	10%	
非正社員	4,210	10%	71%	19%	

図表3-12は、各人の仕事が自宅や喫茶店など職場以外の場所でもできる性質のものかについて集計したものである。この結果も、就業形態によって大きな違いがある。「できる」「多少できる」と答えているのは、正社員では約2割であるのに対して、非正社員では1割未満であり、8割以上の方は「まったくできない」と回答している。この点、もっとも柔軟性が高いのが自営業等であり、4割弱の人が「できる」「多少できる」と回答している。

図表 3-12 職場以外の場所でできる性質の仕事か(Q61)

Q61: あなたのお仕事は、自宅や喫茶店など職場以外の場所でもできる性質のものですか。

	n=	■できる	■多少できる	□あまりできない	□まったくできない	(%)
合計	17,048	7%	13%	13%	67%	
正社員	11,503	7%	14%	15%	63%	
非正社員	4,210	3%	5%	8%	84%	
自営業等	1,335	19%	20%	14%	47%	

さらに、図表3-13は、1週間のうちに何日在宅勤務を行ったかを集計したものである。正社員と非正社員では8割超～9割超の人が0日（まったくしていない）と回答しており、在宅勤務をした人のなかでも1～2日という回答が多い。これに対して、自営業等では約3割の人が在宅勤務を実際に行っており、2割の人は週に5日以上在宅勤務を行っている。

図表 3-13 1週間にいった在宅勤務の日数(Q62)

Q62 あなたは、過去1ヶ月において、1週間に何日くらい在宅勤務(テレワーク)を実施しましたか。

		□0日 (行っていない)	□1日～2日	■3日～4日	■5日以上	(%)
合計	n=16,709	86%			6%	3%4%
正社員	11,311	85%			8%	4%4%
非正社員	4,117	95%			2%	2%
自営業等	1,281	72%			6%	4%19%

どのような要因が在宅勤務の可否や日数を規定するかについては、就業形態のほかに、産業・職業などに規定される仕事の特性や、企業規模、地域などの要因も考えられる。また、在宅勤務によってもたらされる影響としては、働く人の健康やメンタルヘルス、仕事の満足度、仕事と家庭生活のバランス、職場の人間関係（職場のソーシャル・キャピタル）、全般的な生活満足度などへの影響も考えられ、本調査を用いることで分析が可能である。

2. 副業・兼業 (Q63、Q64、Q65、Q66)

副業・兼業の状況について就業形態別に確認する。まず、図表 3-14 は、この6ヶ月間に収入を伴う副業・兼業をしたか集計したものである²⁹。副業・兼業を行った人の割合は、正社員で6%、非正社員で9%と、被雇用者では1割未満である。自営業等では16%とそれに比べやや高い。

図表 3-14 副業・兼業の有無(Q63)(就業形態別)

Q63: あなたはこの6ヶ月のあいだ、おもな仕事以外に収入をとまなう副業・兼業をしましたか。

		■した	□していない	(%)
合計	n=17,048	8%	92%	
正社員	11,503	6%	94%	
非正社員	4,210	9%	91%	
自営業等	1,335	16%	84%	

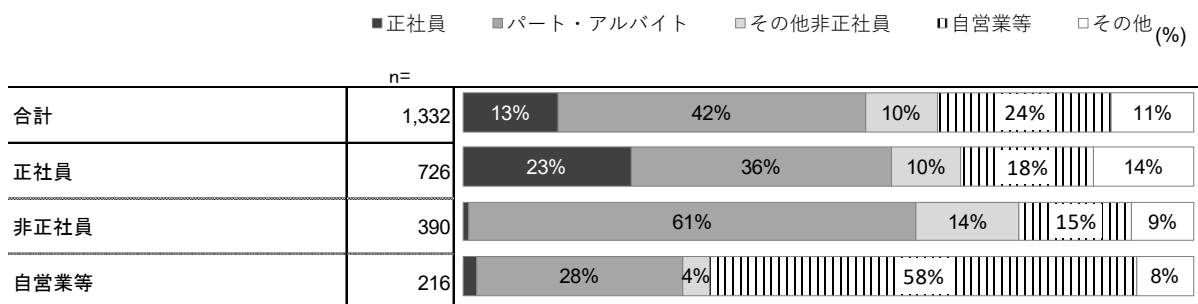
次に、図表 3-15 は、副業・兼業の就業形態について集計したものである。全体では「パート・アルバイト」の割合が最も高く4割以上を占めており、次に高いのが「自営業等」で

²⁹ 本調査における副業・兼業には、次のものは含まないものと整理している：年金、利子、家賃、株式等の配当、相続などによる収入や、株式のトレーディング、個人的なネットオークション、ブログや動画配信サイトのアフィリエイト広告、ネット調査のモニターなどによる収入。

ある。副業・兼業の就業形態は、その人の主な仕事の就業形態と関連している。主な仕事で「正社員」として働いている人は、副業・兼業においても「正社員」として働く割合が、おもな仕事で「非正社員」「自営業」として働いている人と比べて高い（23%）。また、主な仕事で「非正社員」として働いている人は副業・兼業でも「非正社員」として働く割合が最も高く（61%）、主な仕事で「自営業等」として働いている人は副業・兼業でも「自営業等」として働く割合が最も高い（58%）。

図表 3-15 副業・兼業の就業形態(Q64)(主な仕事の就業形態別)

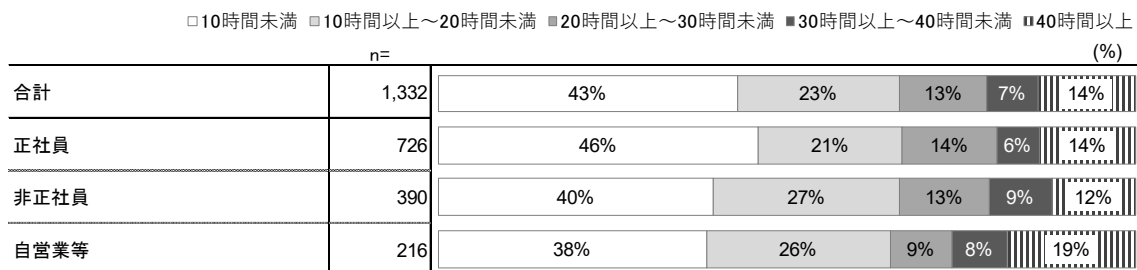
Q64: 副業・兼業の就業形態は以下のどれにあたりますか。 ※複数の副業がある場合は、おもな副業についてお答え下さい



図表 3-16 は、副業・兼業にかけた時間（1ヶ月あたり）を集計している。副業・兼業の時間については就業形態で大きな違いはなく、1ヶ月あたりの時間はいずれの就業形態でも4割前後が10時間未満、2～3割が10時間以上20時間未満、残りの3割強の人が20時間以上としている。

図表 3-16 副業・兼業にかけた時間(1ヶ月あたり)(Q65)(主な仕事の就業形態別)

Q65 あなたが副業・兼業にかかる時間は、1ヶ月あたりどれくらいですか。

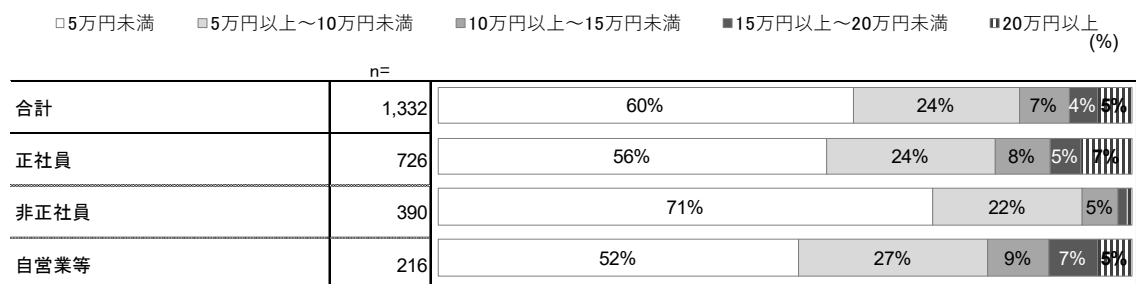


図表 3-17 は、副業・兼業からの収入（1ヶ月あたり）を集計している。主な仕事为正社員又は自営業等の人は、1ヶ月あたりの副業・兼業からの収入は、5割超の人が5万円未満、2割～3割の人が5万円以上10万円未満となっている。主な仕事为非正社員の人では、副

業・兼業からの収入は他の就業形態の人と比べ低く、7割が5万円未満、2割が5万円以上10万円未満となっている。

図表 3-17 副業・兼業からの収入(1ヶ月あたり)(Q66)(主な仕事の就業形態別)

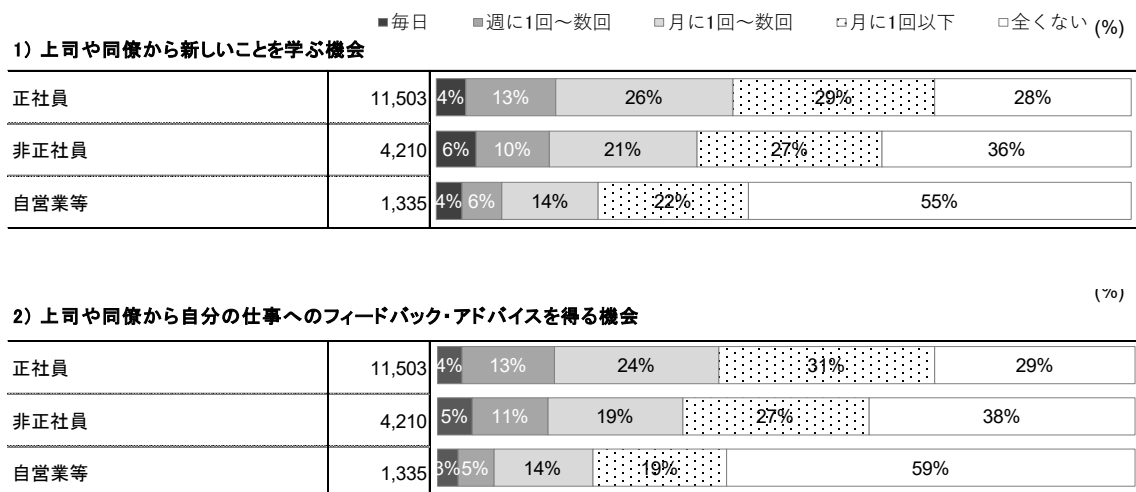
Q66: あなたの副業・兼業からの収入は、1ヶ月でどのくらいありますか。



3. 能力開発 (Q43、Q44)

本調査では、日々の仕事のなかにどれほど能力開発の機会があるかについて尋ねている。具体的には、1)上司や同僚から新しいことを学ぶ機会がある、2)上司や同僚から自分の仕事へのフィードバック・アドバイスを獲得する機会がある、3)新しい製品やサービスについて学ぶ必要がある、4)事前に十分なトレーニングや説明がなく仕事をこなす必要がある、の4項目についてその頻度を尋ねており、図表 3-18 はその回答を就業形態別に集計したものである。

図表 3-18 仕事における能力開発の機会(Q43)(就業形態別)



3) 新しい製品やサービスについて学ぶ必要

正社員	11,503	3%	7%	18%	33%	38%
非正社員	4,210	3%	7%	14%	26%	51%
自営業等	1,335	5%	5%	16%	28%	47%

4) 事前に十分なトレーニングや説明がなく、仕事をこなす必要

正社員	11,503	8%	11%	20%	27%	35%
非正社員	4,210	7%	7%	14%	22%	49%
自営業等	1,335	7%	6%	12%	20%	56%

まず、1)と2)の質問は、上司や同僚からどの程度新しいことを学ぶことができるか、また、自分の仕事に対してフィードバックを得ることができるかを尋ねている。この2つの質問への回答はパターンが類似している。正社員と非正社員に注目すると、両者とも「毎日」という回答が4～6%であり、「週に1回～数回」という回答も1割程度である。「月に1回～数回」という回答が2割前後、「月に1回以下」という回答は3割前後、「全くない」という回答も3割～4割ある。これは、組織で働く被雇用者であっても、半分以上の人は周囲の人から何かを学ぶ機会が月に1回もないことを示している。さらに、自営業等の場合には、周囲の人から何かを学び、アドバイスを得る機会は「全くない」人が、5割超～6割と過半を占めている。3)の「新しい製品やサービスについて学ぶ必要性」が高い頻度であると答えた人の割合は、どの就業形態においても一定程度存在するが、「全くない」と答えた人の割合は正社員で相対的に低い。また、4)「事前に十分なトレーニングがなく仕事をこなす必要性がある」、すなわち、タスクに対してトレーニングが不足している状況にある頻度は、正社員で最も高く、次いで非正社員が続き、これらに比べ自営業等では低い。

以上より、正社員は新しいことを学ぶ必要性が高く、また、トレーニングが不十分な状態で仕事をこなさなければならない頻度が高いが、周囲の人から学び、フィードバックを受ける機会も多いといえる。非正社員は、正社員と比べるとこうした機会が相対的に乏しい。正社員と非正社員の能力開発の機会に差があることは、しばしば問題視される点であるが、本調査ではそうした問題が自営業等においてもうかがえる。自営業等では、トレーニングが不十分な状態で仕事をこなす必要性を感じる頻度が相対的に低い一方、同時に上司や同僚といった周りの人から何かを学び、フィードバックを受けるといった日常的な能力開発の機会も非正社員に比べてもより限られていることが分かる。

さらに、図表3-19は、Off-JTの機会について尋ねた結果である。6ヶ月以内に教育訓練・研修を受講した経験があるのは、正社員で最も高く(16%)、非正社員ではそれより低く(11%)、自営業等はさらに低い(6%)。仕事に関わる自己啓発をした割合は、正社員で最も高く(18%)、

第3節 仕事特性とストレス

1. 仕事特性 (Q34)

本調査では、ストレスの要因になりうる仕事の特性について尋ねている。この特性は、個人の健康やウェルビーイングに影響を与える要因として想定される。本設問では、職業性ストレスモデルにもとづく標準的な尺度を用いている。本尺度の分析においてはいくつかの質問項目を集計して指標を作ることが多いが、ここでは個別の質問項目の回答についてみていく。

図表 3-21 では、各質問への回答を就業形態別に集計している。質問 1) ~7) は、仕事の「要求」に関するものであり、質問 8)~10)は、仕事の「裁量 (コントロール)」に関するものである。一般に、仕事上の「要求」の度合いが強いほどストレスは強く、「裁量」が大きいほど弱くと考えられている。特に、「要求」の水準が高い一方で「裁量」が小さい場合に、仕事上のストレスがもっとも強いと考えられている。この尺度は、通常、個人の仕事の状況を測定するのに用いられるが、ここでは就業形態別に仕事の特性を概観する。

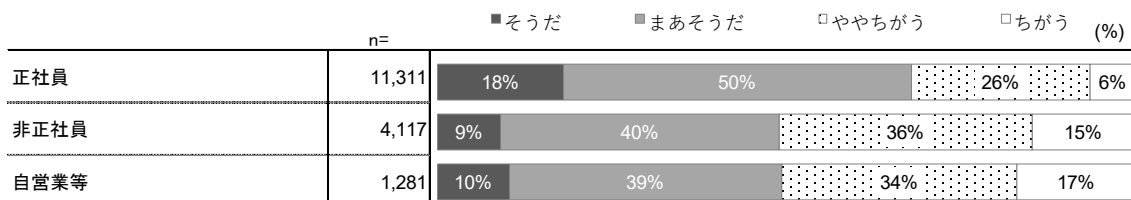
まず、「1)非常にたくさんの仕事をしなければならない」「2)時間内に仕事が処理しきれない」という2つの項目では、「そうだ」「まあそうだ」の回答が正社員で多く、非正社員、自営業等では少ない。こうした仕事の量的・時間的なプレッシャーは、正社員がより強く感じていることが分かる。次に、「3)一生懸命働かなければならない」「4)かなり注意を集中する必要がある」「6)勤務時間中はいつも仕事のことを考えていなければならない」は、いずれの就業形態でも「そうだ」「まあそうだ」の割合が高く、なかでも正社員で割合がもっとも高い。「5)高度な知識の必要な難しい仕事だ」の割合は、正社員と自営業等で比較的高い一方、非正社員では目立って低い。「7)からだを大変よく使う仕事だ」の割合は正社員で比較的低いが、就業形態による違いはあまり見られない。一方で、「裁量」に関する3つの項目、「8)自分のペースで仕事をできる」「9)自分で仕事の順番・やり方を決めることができる」「10)職場の仕事に自分の意見を反映できる」については、「そうだ」の割合が自営業等で正社員、非正社員よりも高くなっている。正社員と非正社員とを比べると、正社員の方が「そうだ」「まあそうだ」の割合が高く、裁量が若干大きいとも評価できるが、自営業には及ばない。

以上をまとめると Q34 の回答からは、以下のような就業形態別の仕事特性が描ける。まず、正社員は、仕事の量的・時間的なプレッシャーを強く受けるなど仕事に関する「要求」水準が全般に高い一方で、仕事の「裁量」は大きいとは言えない。非正社員は、量的・時間的なプレッシャーは比較的小さいなど仕事上の「要求」の度合いは強くないと受け止めており、また、仕事の「裁量」も大きくない。一方で、自営業等は、仕事の量的・時間的なプレッシャーは非正社員と同様に小さいものの、仕事の難易度は高いと受け止めており、他方で仕事上の「裁量」は大きいと考えている。こうした点が、第6章で論じるように、自営業等の主観的ウェルビーイングが比較的高いことの背景にあると考えられる。

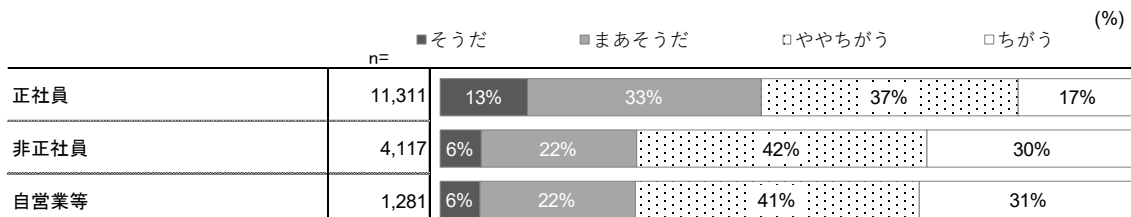
図表 3-21 ストレスの要因になりうる仕事特性のストレス要因(Q34) (就業形態別)

Q34: あなたの仕事についてうかがいます。最もあてはまるものを選んで下さい。

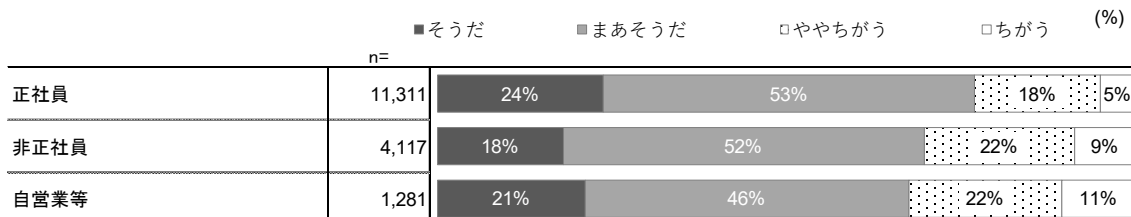
1) 非常にたくさんの仕事をしなければならない



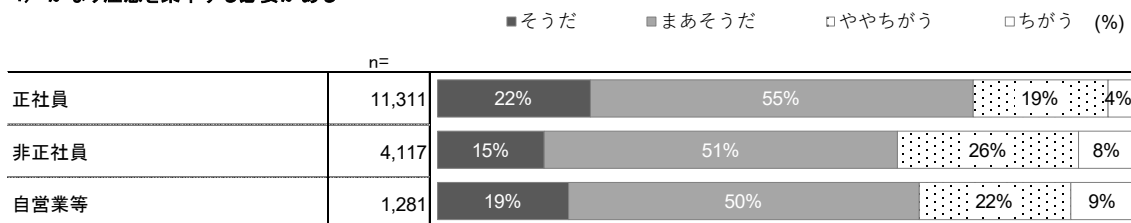
2) 時間内に仕事が処理しきれない



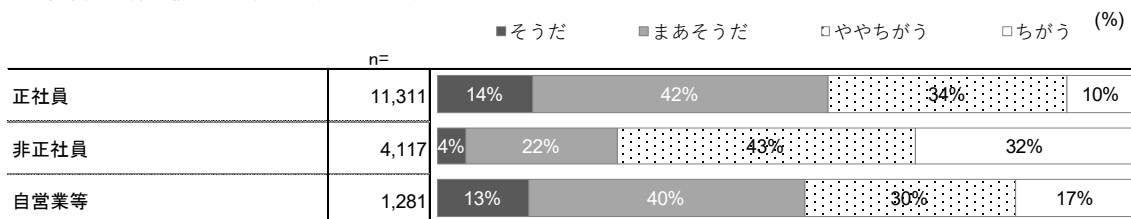
3) 一生懸命働かなければならない



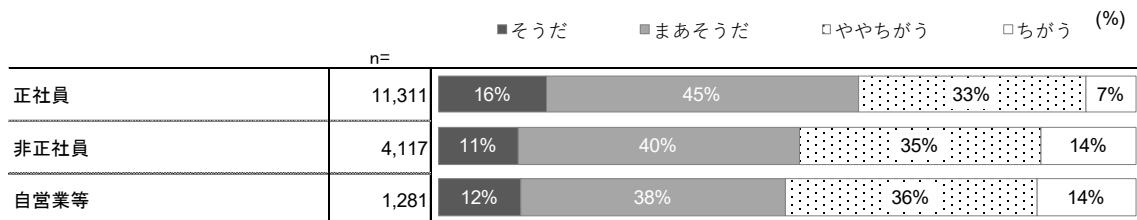
4) かなり注意を集中する必要がある



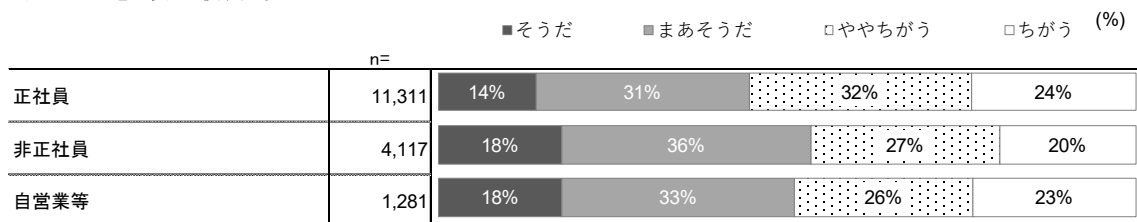
5) 高度の知識や技術が必要なわずかしい仕事だ



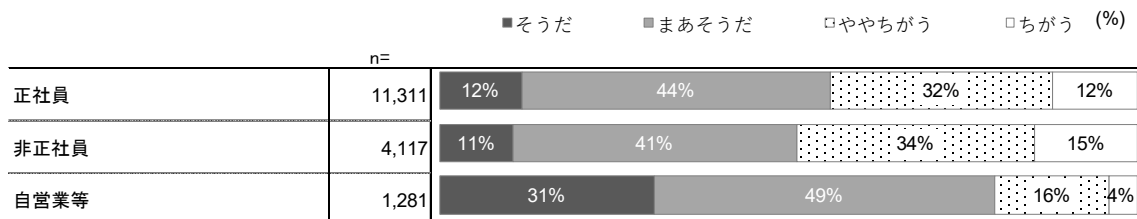
6) 勤務時間中はいつも仕事のことを考えていなければならない



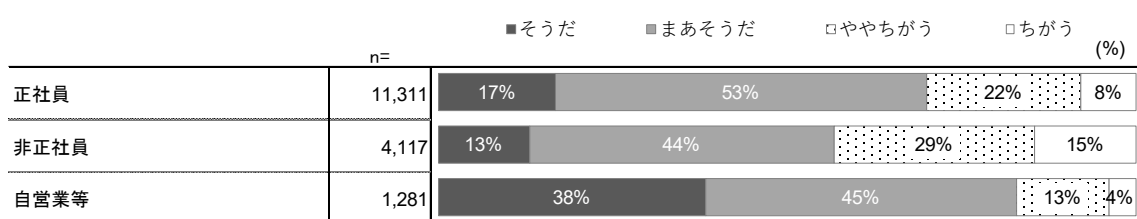
7) からだを大変よく使う仕事だ



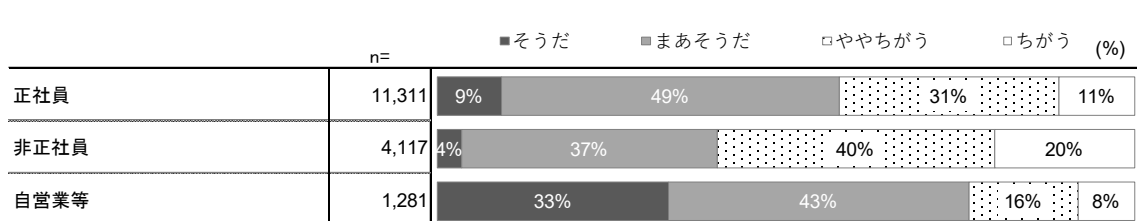
8) 自分のペースで仕事ができる



9) 自分で仕事の順番・やり方を決めることができる



10) 職場の仕事の方針に自分の意見を反映できる



2. 就業スケジュールの予測可能性 (Q57)

一般に長時間労働が健康やウェルビーイングにネガティブな影響を及ぼすことはよく知られているが、絶対的な労働時間の長さとは別に、労働時間の予測やコントロールが難しい場合もストレスの要因になりうるということが指摘されている。これは、「就業スケジュールの予測可能性 (predictability of work schedule)」とよばれる。図表 3-22 は、この「就業スケジュールの予測可能性」に関する 5 つの質問の回答を就業形態別に集計したものである。それぞれの質問について「当てはまる」か「当てはまらない」かを答えてもらい、表には「当てはまる」と回答した人の割合を記載している。

これを見ると、「就業スケジュールの予測可能性」は、就業形態によって異なることが分かる。たとえば、「1) 仕事で突然出勤を求められることがある」は、3 つの就業形態のうち正社員で最も多く経験されている。他方で「2) 仕事・シフトを突然キャンセルされることがある」「3) シフトが直前で決まらない」「4) 日によってシフトの時間帯が大きく異なる」はいずれも自営業等で最も多く経験されている。さらに「4) 自分や家族の都合で休暇を取得しやすい」は、非正社員で最も多く経験されている。

前項にて、自営業等は仕事の裁量が大きいという特徴を確認したが、同時に予測可能性の低さという特徴を持っていることが分かる。この 2 つの特徴が、個々の自営業主に併存する特徴なのか、あるいは自営業主の中でも大きな裁量を持つ者と予測可能性の低い者とに分かれるのかについては今後の検証が必要である。

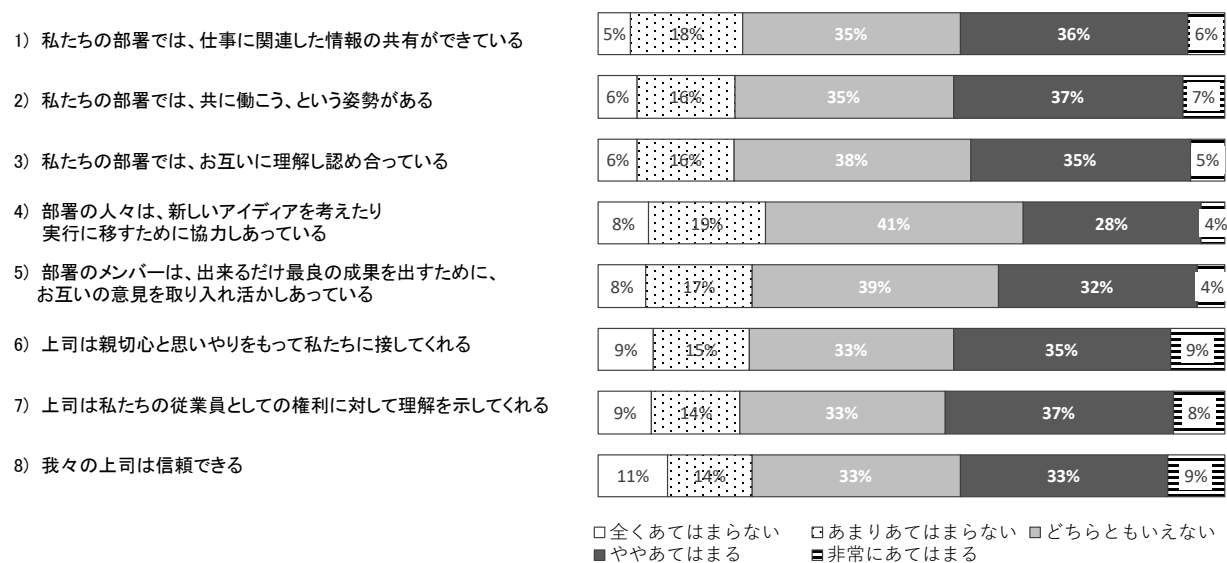
図表 3-22 就業スケジュールの予測可能性 (Q57) (就業形態別)

	正社員	非正社員	自営業等	全体
1) 仕事で突然出勤を求められることがある	30.3%	24.7%	27.2%	28.7%
2) 仕事・シフトを突然キャンセルされることがある	16.4%	12.8%	30.5%	16.6%
3) シフトが直前まで決まらない	13.9%	16.0%	20.5%	14.9%
4) 自分や家庭の都合で休暇を取得しやすい	65.8%	76.8%	66.3%	68.6%
5) 日によってシフトの時間帯が大きく異なる	20.1%	16.7%	32.6%	20.3%
(N)	11,311	4,117	1,281	16,709

3. 職場の人間関係 (Q35、Q36)

本調査では、職場における人間関係の良好さを測定する尺度として、「職場のソーシャル・キャピタル」尺度³⁰を用いて職場の人間関係について尋ねている。本設問は、図表 3-23 に掲げた 8 つの質問項目により構成している。1)~5)が職場の状況に関する質問、6)~8)が上司に関する質問である。いずれの回答も、「あまりあてはまらない」に比べて「ややあてはまる」の方が多くなっており、全体として職場の人間関係はポジティブに評価されている。

図表 3-23 職場の人間関係 (Q35, Q36)

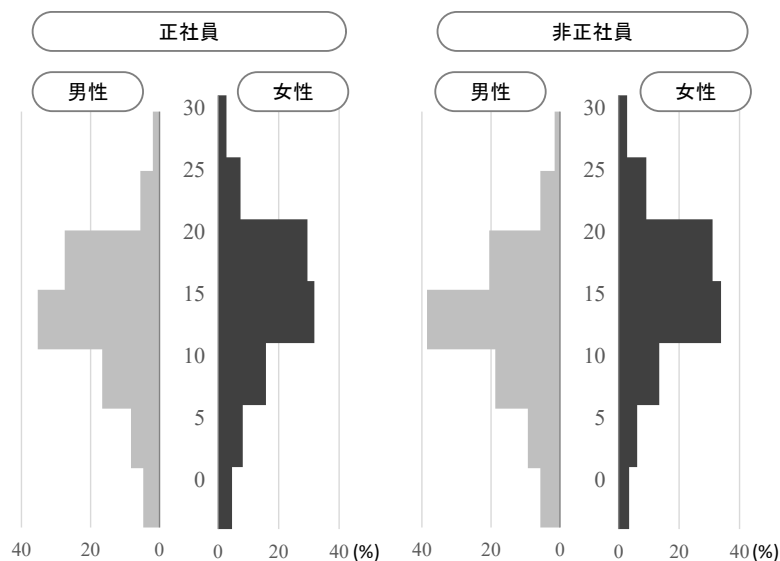


先行研究においては、「職場のソーシャル・キャピタル」は、仕事におけるストレスと、健康などのアウトカムとの関連を媒介する要因として考えられている。つまり、ストレスが強い仕事であっても、職場の人間関係が良好であれば、健康やウェルビーイングの悪化が緩和される可能性がある。

本尺度を用いた分析においては、「職場のソーシャル・キャピタル」の 8 つの質問項目の回答結果を合計した指標により他の変数との関連を見ることが多いことから、ここでも同様の指標を確認する。図 3-24 は、本調査における同指標の分布を、就業形態別・男女別に図示したものである。これによると、正社員のなかでは分布に男女差はほとんどみられない。非正社員では男性より女性の方が比較的高い値に分布しており、男女間で若干差が見られるものの、それほど大きな違いがあるとはいえない。

³⁰ 小田切優子・大谷由美子・井上茂・林 俊夫・内山 綾子・高宮 朋子・下光 輝一 (2010) 「日本語版職場ソーシャルキャピタル質問紙の信頼性と妥当性の検討」『産業衛生学雑誌』, Vol. 52(suppl.), pp.631
Kouvonen A, Kivimaki M, Vahtera J, et al. (2006). Psychometric evaluation of a short measure of social capital at work. BMC Public Health, 6 : 251.

図表 3-24 「職場のソーシャル・キャピタル指数」の分布(就業形態別・男女別)



「職場のソーシャル・キャピタル」は、職場の実態を個人がどのように認識しているかをあらわす変数である。したがって、性別・年齢・就業形態等の属性で集計するよりも、個人のレベルで健康やウェルビーイングに関するアウトカムとの関連を検討することに意義がある。また、先行研究が示唆するように「職場のソーシャル・キャピタル」が、仕事上のストレスと健康などのアウトカムとを多様な形で媒介する側面など、多様な面からの解明が課題となろう。

4. 仕事に関連した出来事 (Q39)

仕事上での出来事は、その人の健康やメンタルヘルスに影響を与える。過労死などの労働災害の認定においても、過去半年の間に起きた仕事上の出来事が要因として考慮されている。本調査においては、労災認定基準なども踏まえながら、健康やメンタルヘルスへの影響が大きいと考えられる「出来事」について、過去半年の間における経験の有無を尋ねている。

図表 3-25 は、それぞれの出来事が過去半年の間に「あった」と回答した人の割合を、男女別・就業形態別に集計したものである。「昇進」「部署異動」「転勤」などの人事上の異動を経験する人の割合はいずれも 1 割に満たないのに対して、「同僚・部下とのトラブル」「上司からのパワハラ」「顧客からのクレーム」「達成困難なノルマ」等は 1 割前後の人々が経験し、「仕事上のミス」については 2 割弱の人が経験している。男女で比較すると、ほとんどの質問で全般に男性の方が「あった」と回答する人の割合が高い。男性の中で比較すると、多くの項目で正社員が経験する比率が最も高い。反対に、自営業等では、「仕事上のミス」「同僚・部下とのトラブル」「上司からのパワハラ」「顧客からのクレーム」「達成困難なノルマ」等、多くの項目で正社員や非正社員よりも経験する割合が低い。

こうした仕事上の出来事が各人の健康やメンタルヘルスにどのような影響を与えるのか、その影響は個人の属性・仕事の特性や職場の環境によってどのように異なるのか、パネルデータの蓄積とともに明らかにされることが期待される。

図表 3-25 仕事に関連した出来事(男女別・就業形態別)

	合計	男性				女性			
		正社員	非正社員	自営等	非就業	正社員	非正社員	自営等	非就業
昇進した	5.8%	7.3%	2.6%	2.7%	-	6.4%	3.8%	2.5%	-
昇給した(昇格や、定期昇給を含む)	23.4%	27.9%	17.2%	5.6%	-	24.8%	19.6%	6.6%	-
部署異動した(配置転換を含む)	6.0%	8.0%	4.6%	1.9%	-	6.2%	3.4%	1.8%	-
転居を伴う転勤をした	1.3%	2.1%	1.2%	0.2%	-	0.8%	0.5%	1.0%	-
仕事上のミスをした(※1)	16.7%	18.8%	20.5%	15.8%	-	14.9%	14.9%	9.4%	-
同僚・部下とのトラブルがあった、 または暴行・いじめ・嫌がらせを受けた	10.1%	9.8%	11.4%	4.5%	-	12.0%	10.5%	5.3%	-
上司から、パワーハラスメントを受けた(※2)	9.5%	10.5%	9.3%	5.2%	-	11.2%	7.5%	3.7%	-
顧客や取引先から、無理な注文・クレーム ・迷惑行為を受けた	12.2%	13.6%	11.4%	11.7%	-	11.8%	10.1%	9.0%	-
達成困難なノルマを課された	9.2%	12.8%	8.4%	5.5%	-	8.2%	4.1%	3.5%	-
失業・失職・廃業した	2.6%	0.9%	4.6%	1.8%	16.3%	0.9%	2.0%	1.8%	7.9%
(N)	20,000	7,805	581	822	712	3,698	3,629	513	2,240

(※1) そのミスによって被害が生じたり事後対応を行ったりするような、軽微ではない仕事上のミスを想定

(※2) パワーハラスメントとは、暴行や、必要以上に長時間にわたる厳しい叱責など、身体的攻撃・精神的攻撃を指す

第4章 ライフコースと生活の状況

本章では、調査データをもとに、回答者のライフコースと生活の状況について分析する。本調査の対象者は調査時点で35～54歳の「ミドルエイジ層」であるが、ライフコースの多様化に伴い、配偶者の有無や子どもの有無・年齢などが異なる多様なライフステージの者が含まれる。働き方や生活時間には、性別やライフステージによって差異が見られるだろう。仕事・生活の忙しさから、仕事上の役割と家庭での役割との間で両立困難が認識される場合もあるだろう。また、人によっては、転居、子どもの進学や、家族の病気や介護等のライフイベントが経験される場合もあるだろう。本章では、こうした生活の状況について分析する。

以下では、まず、回答者のライフステージ、就業状況、所得の状況について検討した後、生活時間の状況について検討する。最後に、過去6か月間の生活上の出来事について回答状況を見る。

第1節 ライフステージと世帯の状況

1. 調査回答者のライフステージ

35～54歳という調査対象には、配偶者の有無や子ども有無・年齢などが異なる多様なライフステージの者が含まれる。本調査における「配偶者の有無」(Q70)、「子どもの有無」(Q71)、「末子年齢」(Q73)の回答をもとに、「配偶者なし・子どもなし」「配偶者あり・子どもなし」「末子6歳未満」「末子6～12歳未満」「末子12歳以上」という区分で回答者の家族形態を集計したところ³¹(図表4-1)、回答者全体では、「配偶者なし・子どもなし」36.3%、「配偶者あり・子どもなし」13.1%、「末子6歳未満」11.0%、「末子6～12歳未満」13.7%、「末子12歳以上」25.9%であった。男女別・年齢階級別に見ると、35～39歳においては、「配偶者なし・子どもなし」が、男性回答者の46.9%、女性回答者の34.9%と最も多くを占める。これに対し、50～54歳層においては、「末子12歳以上」が、男性の43.1%、女性の52.9%と、最も大きな割合を占める。

³¹ 子どもありの場合(「末子6歳未満」「末子6～12歳未満」「末子12歳以上」)には、配偶者の有無にかかわらず集計に含めている。子ども年齢について、本調査シリーズの集計では回答者の回答をそのまま用いている。データ公開時までにはエラーカットが行われる可能性がある。

図表 4-1 回答者のライフステージ(男女別・年齢階級別)

		配偶者なし・子どもなし	配偶者あり・子どもなし	末子6歳未満	末子6歳～12歳未満	末子12歳以上	(N)
合計		36.3%	13.1%	11.0%	13.7%	25.9%	20,000
男性	35～39歳	46.9%	10.5%	26.4%	13.0%	3.2%	2,106
	40～44歳	40.6%	9.9%	17.5%	20.7%	11.3%	2,425
	45～49歳	38.7%	11.1%	6.7%	16.0%	27.5%	2,855
	50～54歳	35.1%	13.0%	1.5%	7.3%	43.1%	2,534
女性	35～39歳	34.9%	14.2%	29.6%	16.6%	4.7%	2,125
	40～44歳	34.1%	13.7%	12.6%	21.1%	18.5%	2,446
	45～49歳	33.4%	16.1%	1.9%	13.4%	35.2%	2,895
	50～54歳	28.7%	15.8%	0.2%	2.4%	52.9%	2,614

2. ライフステージ別の就業状況

次に、回答者の就業状況について、男女別および先ほど定義したライフステージ別に集計する(図表 4-2)。

就業形態は、男女やライフステージによって異なる。男性は、子どもの有無・年齢によらず「正社員・正職員」の割合が高い。一方で、女性は、配偶者や子どもの有無・年齢によって就業形態が大きく異なることが確認される。具体的には、「末子6歳未満」の者では4割弱が「非就業」であるが、「末子6歳～12歳未満」「末子12歳以上」の者では4割弱が「パート・アルバイト」であるなど、ライフステージによって就業状態が異なることが示されている。

図表 4-2 就業形態(男女別・ライフステージ別)

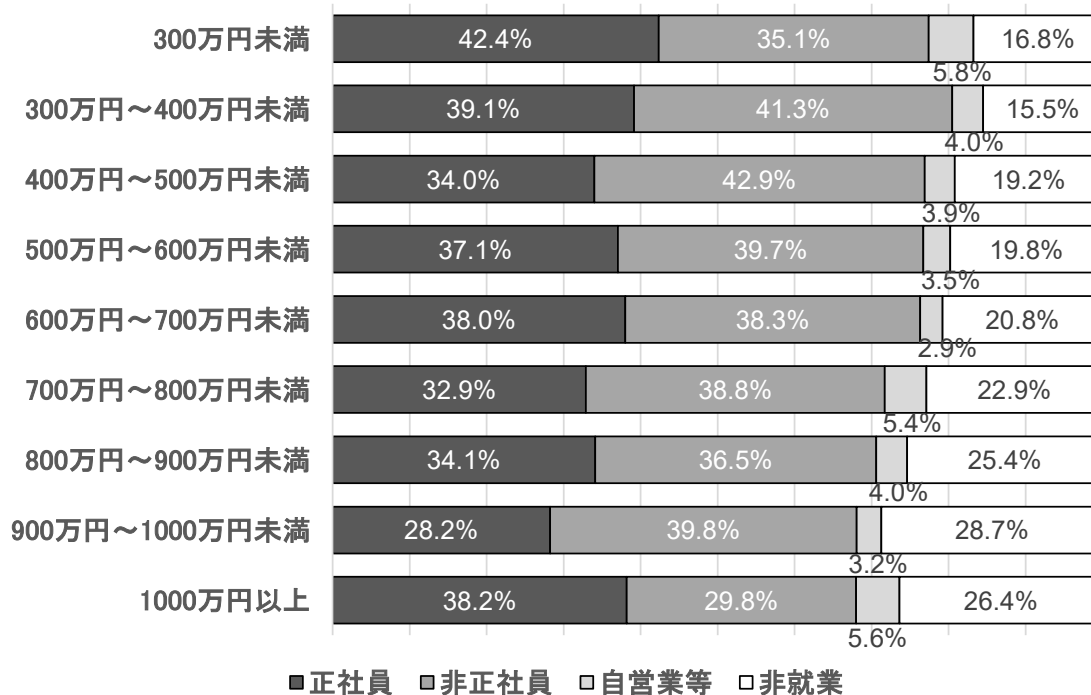
		経営者・役員	正社員・正職員	パート・アルバイト	契約社員	派遣社員・派遣労働者	嘱託	自営業・フリーランス・内職	家族従業者	非就業	(N)
合計		1.8%	55.7%	15.7%	2.6%	2.3%	0.4%	6.2%	0.5%	14.8%	20,000
男性	配偶者なし・子どもなし	1.4%	62.0%	5.9%	3.1%	2.3%	0.3%	10.1%	0.5%	14.5%	3,966
	配偶者あり・子どもなし	3.1%	82.3%	1.2%	1.3%	0.4%	0.3%	7.2%	0.4%	4.0%	1,109
	末子6歳未満	2.1%	89.4%	0.5%	0.9%	0.4%	0.2%	4.9%	0.3%	1.2%	1,210
	末子6歳～12歳未満	3.8%	87.4%	0.4%	0.6%	0.1%	0.2%	6.3%	0.1%	1.1%	1,416
	末子12歳以上	4.6%	82.9%	0.8%	1.0%	0.3%	0.0%	7.4%	0.0%	2.9%	2,219
女性	配偶者なし・子どもなし	0.7%	52.0%	17.4%	5.2%	6.2%	0.6%	5.7%	0.3%	12.0%	3,294
	配偶者あり・子どもなし	0.9%	27.1%	28.6%	2.8%	3.8%	0.5%	4.6%	1.1%	30.7%	1,515
	末子6歳未満	0.4%	33.0%	22.3%	1.6%	1.6%	0.1%	2.7%	1.1%	37.2%	997
	末子6歳～12歳未満	0.8%	23.5%	38.2%	2.0%	1.4%	0.5%	4.9%	0.6%	28.1%	1,321
	末子12歳以上	1.0%	29.0%	38.3%	3.1%	2.2%	0.8%	3.4%	0.7%	21.6%	2,953

3. 既婚女性の就業状況—配偶者(夫)の年収階級による違い

既婚女性の就業状況は、配偶者の年収階級によって異なる(図表 4-3)。図表 4-3 は、配偶者ありの男性を対象に、本人の年収と配偶者の就業状況について集計した(N=4444)。ここで、就業形態については、調査回答をもとに、「正社員」「経営者・役員」「正社員・正職員」、「非

正社員」「パート・アルバイト」「契約社員」「派遣社員・派遣労働者」「嘱託)、「自営業等」(「自営業・フリーランス・内職」「家族従業者)、「非就業」(「働いていない)の4区分で集計している(「その他」は集計から除外)。

図表 4-3 既婚女性の就業状況(配偶者(夫)の年収階級別)



女性の「非就業」割合は、配偶者(夫)の年収が「300～400万円未満」の階級で最も低く、それ以上の年収階級では、配偶者の年収が高いほど、緩やかに高くなる傾向が見て取れる。ただし、配偶者の年収「1000万円以上」の場合は傾向が異なることや³²、どの年収階級においても既婚女性の就業割合が一定程度あることから、この年齢層において、女性の就業が配偶者の所得水準に左右されるとまでは言いがたい。

³² 調査票では、個人年収について、1000万円以上もいくつかの区分で尋ねているが、本集計では、回答の分布をもとに、「1000万円以上」としてカテゴリ化した。1000万円が閾値を成していることを意味するものではない。

第2節 生活時間の状況

1. 就業者における平日の生活時間配分（Q17～Q20、Q55、Q58）

次に、調査回答者の生活時間配分について集計結果を見る。ここでは、就業者を対象に、平日1日あたりの家事・育児・介護等の時間、睡眠時間の分布を示す（図表4-4）。調査では、就業者について、平日1日あたりの「家事（食事の用意・選択・買い物・掃除など）」「育児（衣食の世話、遊び相手、勉強の面倒見など）」「介護・看護」の時間を尋ねた。「なし（0分）」「30分未満」「30分以上～1時間未満」～「5時間以上」の8カテゴリで回答を得たが、本集計では、回答カテゴリの中央値をもとに回答を数値化し、「家事」「育児」「介護・看護」の時間を足し上げることで「家事・育児・介護等の時間」の集計を行った。

図表4-4 家事・育児・介護等の時間、睡眠時間の分布（男女別・年齢階級別）（就業者・平日）

家事・育児・介護等の時間		30分未満	30分以上～1時間未満	1時間以上～2時間未満	2時間以上～3時間未満	3時間以上	(N)
合計		18.8%	22.4%	25.5%	12.0%	21.4%	16,709
男性	35～39歳	22.5%	23.6%	24.9%	11.4%	17.6%	1,937
	40～44歳	23.1%	25.8%	27.8%	9.3%	13.9%	2,238
	45～49歳	27.8%	27.9%	25.2%	8.4%	10.6%	2,621
	50～54歳	31.9%	29.2%	23.9%	6.8%	8.2%	2,297
女性	35～39歳	12.6%	16.7%	22.0%	11.0%	37.8%	1,494
	40～44歳	10.9%	15.7%	22.4%	14.5%	36.5%	1,856
	45～49歳	9.2%	17.6%	26.6%	16.0%	30.5%	2,266
	50～54歳	5.9%	18.6%	29.6%	19.7%	26.1%	2,000

睡眠時間		5時間未満	5時間以上～6時間未満	6時間以上～7時間未満	7時間以上～8時間未満	8時間以上	(N)
合計		12.8%	37.6%	31.3%	13.5%	4.8%	16,709
男性	35～39歳	10.2%	36.9%	34.0%	13.9%	5.1%	1,937
	40～44歳	11.3%	36.6%	32.3%	14.6%	5.1%	2,238
	45～49歳	13.0%	37.3%	31.1%	13.5%	5.2%	2,621
	50～54歳	14.4%	40.6%	27.9%	12.4%	4.8%	2,297
女性	35～39歳	11.0%	30.9%	35.7%	16.7%	5.8%	1,494
	40～44歳	11.7%	35.6%	32.8%	14.8%	5.1%	1,856
	45～49歳	13.9%	39.6%	30.1%	12.6%	3.8%	2,266
	50～54歳	15.9%	41.0%	28.3%	10.9%	3.9%	2,000

注：家事・育児・介護等の時間は、調査から把握された、平日1日あたりの「家事」「育児」「介護・看護」時間を、回答カテゴリの中央値をもとに数値化し、合計したもの。

男女別・年齢階級別に見ると、家事・育児・介護等の時間は男女差が大きく、女性の方が長いことが確認される。年齢階級による違いもあり、対象年齢層の中では30代後半ほど、家事・

育児・介護等の時間が長時間である割合が大きい。こうした男女や年齢階級による生活時間配分の差の背景には、子どもの有無・年齢に伴う育児負担等がかかわっている。また、生活時間配分は、就業状況とも関係のある事象と考えられる。睡眠時間については大きな男女差は見られないが、男女とも、年齢が高いほど睡眠時間がやや短くなる傾向が見られる。

2. 地域による生活時間配分の違い

次に、居住地域による生活時間配分の違いについて分析する。ここでは、労働時間・通勤時間を扱うことから、就業者のみを対象とし、また、パートタイム労働者は近隣の職場を選んで働くことも多いことから、正社員に限って集計することとした³³。

まず、地域ブロック別（全国8ブロック）、都市規模別（人口規模に応じて大都市・中都市・小都市・町村の区分）に、労働時間、通勤時間、自由時間（平日）、睡眠時間（平日）の平均値を示す（図表4-5）。

全体（全国平均）で見ると、対象者（正社員）において、週実労働時間36.74時間（36時間44分）、通勤時間（片道）0.61時間（37分）、自由時間1.88時間（1時間53分）、睡眠時間6.09時間（6時間5分）である。地域ブロック別では、関東や近畿では通勤時間が長いという地域差が見られる。都市規模別では、大都市ほど通勤時間が長い傾向が見られる。

図表 4-5 回答者における生活時間配分（地域ブロック別・都市規模別）（単位：時間）

		労働時間	通勤時間	自由時間	睡眠時間	(N)
合計		36.74	0.61	1.88	6.09	10,959
地域 ブ ロ ッ ク	北海道	36.09	0.42	2.04	6.13	426
	東北	36.60	0.44	1.84	6.05	800
	関東	37.02	0.78	1.87	6.05	3,855
	中部	36.56	0.51	1.86	6.12	1,986
	近畿	37.22	0.67	1.89	6.06	1,747
	中国	36.98	0.47	1.96	6.16	654
	四国	35.65	0.42	1.94	6.20	310
	九州・沖縄	35.88	0.49	1.86	6.13	1,181
都 市 規 模	大都市（東京都区部、政令指定都市）	37.23	0.71	1.93	6.08	3,314
	中都市（人口10万人以上の市）	36.46	0.62	1.85	6.08	4,746
	小都市（人口10万人未満の市）	36.78	0.50	1.90	6.09	2,172
	町村	36.18	0.50	1.82	6.16	727

³³ 通勤時間に関わる図表4-5では、休職・休業中の者を除き、就業形態（Q9）で「正社員・正職員」と回答した者（「経営者・役員」は含まない）を対象に集計している。

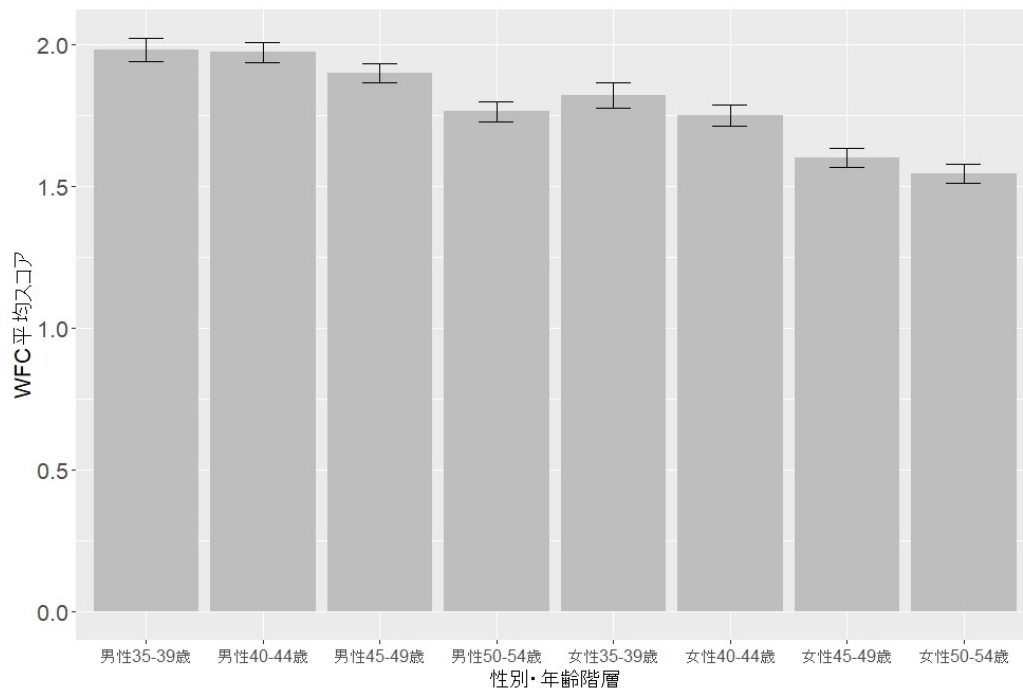
3. 仕事と生活の両立困難の状況 (Q81、Q82)

仕事や家事・育児・介護の忙しさ等によって、仕事と家庭生活の両立の難しさが認識される場合がある。本調査では「仕事役割」と「家庭役割」との両立困難について、「ワーク・ファミリー・コンフリクト (WFC)」尺度により、「仕事から家庭生活への影響」および「家庭生活から仕事への影響」に関し、各 4 項目を挙げ、その発生頻度を尋ねた³⁴。調査では、「仕事から家庭生活への影響」に関し、「仕事のため、家族と過ごす時間が減る」「職場での問題のため、家でいらいらする」「出張で家を空けることが多い」「仕事で非常にエネルギーを使うため、家庭では注意力が必要なことができないと思う」の 4 項目、「家庭生活から仕事への影響」に関し、「家庭内の問題によって仕事に専念できる時間が減る」「家庭内の心配または問題によって仕事から気持ちがそれる」「家事によって、仕事をよく行うに必要な睡眠時間がとれなくなる」「家庭内での責任によって、リラックスしたり一人になるための時間が減る」の 4 項目、合計 8 項目について頻度（「まったくない」「ある程度ある」「よくある」）を尋ねている。集計では、各項目について「まったくない」=0 点、「ある程度ある」=1 点、「よくある」=2 点として点数化し、「仕事から家庭への影響」「家庭から仕事への影響」それぞれの合計スコア (0~8 点) により結果を評価した。

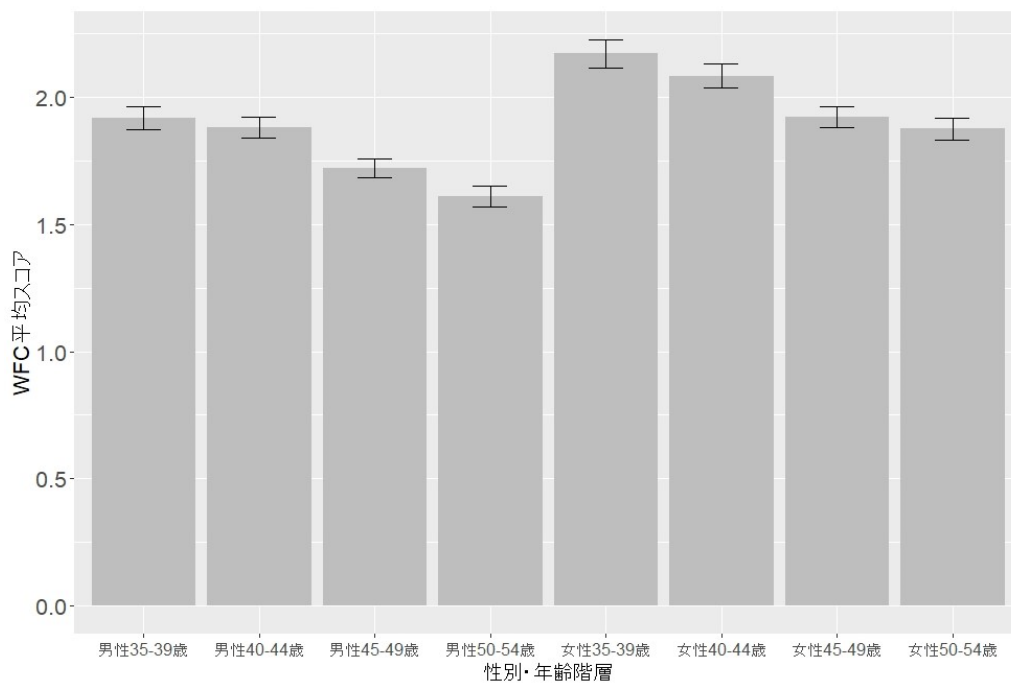
図表 4-6、図表 4-7 は、それぞれ、仕事から家庭への影響、家庭から仕事への影響について、男女別・年齢階級別の平均値を示したものである。対象年齢層の中では、いずれも 30 代後半でスコアが最も高い。男女で比べると、「仕事から家庭への負の影響」は男性において相対的に強く認識され（図表 4-6）、「家庭から仕事への負の影響」は女性において相対的に強く認識される傾向がある（図表 4-7）。就業形態やライフステージに関するデータを活用すれば、より詳細な分析が可能であろう。

³⁴ Chandola et al. (2004) を参照。日本語版の開発は、Sekine et al. (2006) を参照。

図表 4-6 ワーク・ファミリー・コンフリクト(WFC)[仕事から家庭への影響](男女別・年齢階級別)



図表 4-7 ワーク・ファミリー・コンフリクト(WFC)[家庭から仕事への影響](男女別・年齢階級別)



第3節 生活上の出来事

本調査では、生活上の出来事について、ここ半年の間における、結婚・離婚・転居や、家族の就業状態の変化、自分や家族の病気などの出来事の有無を尋ねている。その回答を、男女別・年齢階級別に集計した（図表 4-8）。

回答傾向を見ると、年齢階級によって違いがあるが、引越し（3.0%）、子どもの受験・進学（4.0%）、自分の病気・ケガ（5.5%）、家族の病気・ケガ（6.7%）、家族の介護が必要になった（4.6%）などの出来事が回答された。

図表 4-8 生活上の出来事(男女別・年齢階級別)(%)

		結婚	子どもの誕生	引越し	子どもの受験・進学	離婚・別居	(N)
合計		0.8%	1.2%	3.0%	4.0%	0.6%	20,000
男性	35～39歳	1.5%	3.5%	4.8%	1.1%	0.8%	2,106
	40～44歳	1.1%	1.2%	3.1%	3.1%	0.9%	2,425
	45～49歳	0.5%	0.4%	2.6%	5.6%	0.5%	2,855
	50～54歳	0.6%	0.2%	2.4%	4.6%	0.5%	2,534
女性	35～39歳	1.8%	3.8%	4.7%	1.6%	0.6%	2,125
	40～44歳	0.7%	0.9%	2.9%	4.6%	0.5%	2,446
	45～49歳	0.5%	0.2%	2.3%	6.3%	0.3%	2,895
	50～54歳	0.5%	0.3%	2.0%	3.8%	0.5%	2,614
		配偶者の就職・ 転職・起業	配偶者の退職	自分の病気・ケガ	家族の病気・ケガ	家族の介護が 必要になった	(N)
合計		1.3%	1.4%	5.5%	6.7%	4.6%	20,000
男性	35～39歳	1.5%	1.8%	4.8%	5.4%	2.6%	2,106
	40～44歳	1.4%	1.9%	5.2%	5.4%	2.7%	2,425
	45～49歳	1.2%	1.4%	5.4%	6.1%	3.8%	2,855
	50～54歳	1.3%	1.3%	5.3%	5.9%	5.8%	2,534
女性	35～39歳	1.6%	1.5%	5.1%	6.4%	2.9%	2,125
	40～44歳	1.3%	1.1%	5.9%	7.2%	4.4%	2,446
	45～49歳	1.3%	1.3%	5.6%	8.8%	5.7%	2,895
	50～54歳	1.0%	1.0%	6.7%	7.7%	8.2%	2,614

第5章 健康状態、健康に関わる生活習慣

本章では、調査回答者の健康状態や、健康に関わる生活習慣について、集計結果を示す。健康状態については、主観的健康、身体症状、メンタルヘルス、健康診断の受診や健康診断における異常の有無について示す。あわせて、食事・運動・睡眠、飲酒・喫煙等の健康関連行動についても示す。

第1節 回答者の健康状態

1. 主観的健康 (Q21)

最初に、「現在のあなたの健康状態はいかがですか」と尋ねた設問への回答（＝「主観的健康」と呼ばれる指標³⁵⁾）について、男女別・年齢階級別、就業形態別に集計した（図表 5-1）。全体で見ると、「よい」9.6%、「まあよい」23.2%、「ふつう」45.9%、「あまりよくない」17.5%、「よくない」3.7%という分布になっている。属性別に見ると、主観的健康は、男女や年齢階級による違いがあるほか、就業形態による違いも確認される。

図表 5-1 主観的健康 (%) (男女別・年齢階級別、就業形態別)

		よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	(N)
合計		9.6%	23.2%	45.9%	17.5%	3.7%	20,000
男性	35～39歳	11.2%	24.6%	45.9%	14.7%	3.7%	2,106
	40～44歳	8.7%	22.2%	49.1%	16.0%	4.0%	2,425
	45～49歳	7.5%	21.1%	50.1%	17.4%	3.9%	2,855
	50～54歳	7.3%	18.9%	49.3%	20.5%	3.9%	2,534
女性	35～39歳	13.8%	26.5%	40.8%	15.7%	3.1%	2,125
	40～44歳	11.1%	27.3%	41.9%	16.1%	3.7%	2,446
	45～49歳	10.1%	23.5%	44.0%	18.8%	3.6%	2,895
	50～54歳	8.6%	22.8%	45.3%	19.9%	3.3%	2,614
就業形態	正社員	9.6%	23.7%	47.8%	16.4%	2.5%	11,503
	非正社員	9.8%	24.8%	44.2%	18.1%	3.2%	4,210
	自営業等	13.3%	23.2%	42.9%	17.2%	3.4%	1,335
	非就業	7.9%	19.3%	42.4%	21.4%	9.0%	2,952

2. 身体的な自覚症状 (Q23)

次に、身体的な自覚症状についての集計結果を示す。本調査では、身体症状スケール「Somatic

³⁵⁾ 厚生労働省「国民生活基礎調査【健康票】」等を参照。

Symptom Scale-8 (SSS-8) をもとに、8 項目の症状の有無・頻度について尋ねた³⁶。

まず、調査項目とした各症状について「かなり悩まされている」「とても悩まされている」を合計した割合を、男女別・年齢階級別、就業形態別に示す（図表 5-2）。全体で見ると、「疲れている、または元気が出ない」（21.7%）、「背中、または腰の痛み」（20.7%）、「睡眠に支障がある」（14.6%）、「頭痛」（11.6%）などが比較的多く自覚されている。属性別に見ると、年齢が高いほど自覚される割合の大きい症状（「背中、または腰の痛み」）や、男女差が大きい自覚症状（「頭痛」「疲れている、または元気が出ない」）があることが分かる。

図表 5-2 各自覚症状(8 項目)の有無(男女別・年齢階級別、就業形態別)

		胃腸の不調	背中、または腰の痛み	腕、脚、または関節の痛み	頭痛	胸の痛み、または息切れ	めまい	疲れている、または元気が出ない	睡眠に支障がある	(N)
合計		8.3%	20.7%	13.2%	11.6%	4.3%	4.3%	21.7%	14.6%	20,000
男性	35～39歳	7.4%	17.6%	8.7%	9.5%	4.3%	3.0%	20.6%	11.7%	2,106
	40～44歳	7.4%	21.0%	11.3%	9.6%	4.6%	3.3%	20.4%	14.3%	2,425
	45～49歳	8.3%	21.6%	13.1%	7.1%	3.6%	3.0%	19.2%	13.6%	2,855
	50～54歳	6.8%	21.3%	15.9%	5.9%	4.6%	2.9%	18.2%	13.1%	2,534
女性	35～39歳	9.2%	19.6%	10.7%	17.1%	3.6%	6.1%	25.5%	15.3%	2,125
	40～44歳	10.1%	20.8%	11.7%	16.2%	5.0%	5.7%	24.7%	15.2%	2,446
	45～49歳	8.9%	20.8%	13.6%	14.5%	4.5%	5.5%	23.8%	16.1%	2,895
	50～54歳	8.5%	22.0%	18.6%	13.9%	3.8%	4.7%	21.7%	17.2%	2,614
就業形態	正社員	7.6%	21.0%	12.9%	10.3%	3.9%	3.5%	21.0%	13.4%	11,503
	非正社員	8.8%	21.3%	13.7%	13.7%	4.5%	5.0%	23.7%	15.0%	4,210
	自営業等	8.2%	19.0%	12.3%	10.6%	3.7%	3.6%	18.7%	13.6%	1,335
	非就業	10.5%	19.4%	13.7%	14.3%	5.4%	6.4%	23.1%	19.2%	2,952

注:「かなり悩まされている」「とても悩まされている」を合計した割合

次に、各個人の回答を SSS-8 の合計スコア（0～32 点）として集計し³⁷、属性による身体症状の程度（多寡）の違いを見る（図表 5-3）。男女差を見ると、女性は男性に比べてスコアが高く、身体的な自覚症状を多く抱えていることがうかがえた。年齢別に見ると、年齢が高いほど平均スコアがやや高い。就業形態による違いもあるが、性別や年齢による違いを反映している可能性がある。

³⁶ Gierk et al. (2014) を参照。日本語版については、松平ほか (2016)、Matsudaira, et al. (2017)を参照。

³⁷ 同設問は「ぜんぜん悩まされていない」～「とても悩まされている」の 5 件法で尋ねられている。各項目を、「ぜんぜん悩まされていない」=0 点～「とても悩まされている」=4 点のようにスコア化し、8 項目の合計スコアを用いた。

図表 5-3 自覚症状 SSS-8 スコアの分布(男女別・年齢階級別、就業形態別)

		□なし (0~3点)	□低い (4~7点)	□中程度 (8~11点)	□高い (12~15点)	■非常に高い (16点以上)
合計		20.9%		25.4%	23.2%	15.5%
男性	35~39歳	27.4%		24.9%	20.0%	13.9%
	40~44歳	24.0%		25.2%	22.3%	14.1%
	45~49歳	23.2%		25.8%	22.0%	14.2%
	50~54歳	23.2%		26.8%	23.8%	13.5%
	合計	23.2%		26.8%	23.8%	13.5%
女性	35~39歳	17.8%		26.4%	24.1%	16.6%
	40~44歳	18.0%		25.1%	24.1%	16.3%
	45~49歳	16.7%		25.9%	24.1%	17.4%
	50~54歳	17.4%		23.5%	25.0%	17.7%
	合計	17.4%		23.5%	25.0%	17.7%
就業形態	正社員	21.6%		25.7%	23.1%	15.1%
	非正社員	17.9%		25.3%	23.6%	17.4%
	自営業等	27.3%		23.7%	21.9%	14.2%
	非就業	19.2%		25.3%	23.8%	14.7%

3. メンタルヘルス (Q22)

続いて、メンタルヘルスについての集計結果を示す。メンタルヘルスは、「K6」という尺度により尋ねている。「K6」とは、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として、Kessler らが開発した6項目からなる尺度であり³⁸、メンタルヘルスの状態を示す指標として広く利用されている。通常、回答はスコア化(0~24点)され、スコアが高いほど、メンタルヘルスの状態が悪いと評価される。K6は、通常、スコア5点以上の場合に、メンタルヘルスに何らかの問題がある可能性と評価するなど、特定の閾値(カットオフポイント)をもとに議論されることが多い³⁹。そこで、ここでは、K6スコア「0~4点」「5~9点」「10~12点」「13点以上」の回答割合を男女別・年齢階級別および就業形態別に集計して(図表5-4)、併せて「5点以上(合計)」の割合も示している。

全体で見るとK6スコア5点以上の割合は61.4%であった。K6スコアの分布に男女で大きな違いはないが、年齢別では若年層ほどK6スコア5点以上の割合が高く、年齢によってメン

³⁸ Kessler et al. (2002) 参照。日本語版の開発は Furukawa et al. (2008)。調査では、過去1か月間について、「神経過敏に感じた」などの6項目について、「いつも」~「全くない」の5件法で尋ねられている。各項目を、「いつも」=4点~「全くない」=0点のようにスコア化し、合計スコアを用いた。

³⁹ 厚生労働省『国民生活基礎調査』では、K6スコア10点以上が、気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者として扱われている。

タルヘルスの状態が異なる。また、就業形態別に見ると、非就業者は就業者に比べて K6 スコアが高く、メンタルヘルスの状態が悪いことが示されている。

図表 5-4 メンタルヘルス(K6 スコア)(男女別・年齢階級別、就業形態別)

		0～4点	5～9点	10～12点	13～24点	5点以上 (合計)	(N)
合計		38.6%	31.7%	16.0%	13.7%	61.4%	20,000
男性	35～39歳	36.7%	28.8%	19.8%	14.8%	63.3%	2,106
	40～44歳	36.5%	30.4%	17.9%	15.3%	63.5%	2,425
	45～49歳	39.1%	28.9%	18.0%	14.0%	60.9%	2,855
	50～54歳	43.3%	30.1%	15.5%	11.0%	56.7%	2,534
女性	35～39歳	36.0%	33.4%	16.2%	14.4%	64.0%	2,125
	40～44歳	37.7%	33.5%	14.3%	14.4%	62.3%	2,446
	45～49歳	37.7%	34.2%	14.0%	14.1%	62.3%	2,895
	50～54歳	41.0%	33.7%	13.5%	11.8%	59.0%	2,614
就業 形態	正社員	39.9%	31.1%	17.0%	12.0%	60.1%	11,503
	非正社員	37.0%	34.3%	14.8%	13.8%	63.0%	4,210
	自営業等	42.9%	28.8%	14.5%	13.9%	57.1%	1,335
	非就業	33.9%	31.4%	14.6%	20.1%	66.1%	2,952

4. 健診の受診と異常有無 (Q30、Q31)

次に、健康診断（定期健康診断や人間ドック）の受診の有無および健康診断において異常が指摘された項目について、調査結果を確認する（図表 5-5）。

過去 1 年間に健診を受診した割合は、全体では 67.6%であった。健診受診割合は、男女・年齢階級や就業形態によって差がある。特に 35～39 歳層において女性の健診受診割合が男性に比べて低い。就業形態別に見ると、正社員（79.4%）に比べて、非正社員（63.4%）、自営業等（41.3%）、非就業（39.5%）の健診受診割合が低い。男女差は、就業形態による差と関連している可能性がある。

また、健診受診者を対象に、健診結果における異常の有無について見る。健診受診者のうち、36.1%が「異常なし」であった一方、「異常あり」は、「肥満」で 22.3%、「血糖値」で 8.2%、「血圧」で 16.5%、「コレステロール」で 30.6%、「その他」で 15.2%であった。属性別に見ると、異常があったとする割合には男女差があり、どの年齢層においても男性は女性に比べて「異常なし」の割合が低く、「肥満」「血糖値」「血圧」「コレステロール値」について異常があったという回答の割合が高い。年齢階級別に見ると、男女とも年齢が高いほど「異常なし」の割合が低く、どの項目についても年齢が上がるにつれて異常の割合が上昇することがわかる。就業形態別の結果では、就業形態による差が見られるものの、これは男女差等を反映している

可能性が考えられる。

図表 5-5 健康診断の受診の有無、健診結果における異常の有無(%) (男女別・年齢階級別、就業形態別)

		健診受診割合	健診受診者における異常の有無(健診受診者合計100%としたときの割合)						(N)	
			異常なし	肥満	血糖値	血圧	コレステロール	その他		不明
合計		67.6%	36.1%	22.3%	8.2%	16.5%	30.6%	15.2%	5.0%	20,000
男性	35～39歳	67.2%	42.7%	25.5%	6.4%	13.8%	25.6%	12.0%	3.6%	2,106
	40～44歳	70.3%	36.0%	27.6%	8.5%	18.0%	30.9%	12.4%	4.0%	2,425
	45～49歳	71.8%	29.2%	30.5%	12.3%	24.0%	36.9%	12.8%	4.9%	2,855
	50～54歳	72.8%	24.3%	31.9%	15.2%	29.7%	40.2%	12.2%	4.5%	2,534
女性	35～39歳	53.7%	51.2%	13.5%	2.6%	5.0%	18.4%	16.5%	5.7%	2,125
	40～44歳	65.2%	44.3%	14.0%	4.1%	8.0%	23.6%	20.3%	4.9%	2,446
	45～49歳	66.8%	37.7%	16.1%	5.0%	11.4%	26.4%	18.8%	5.9%	2,895
	50～54歳	70.3%	32.5%	15.7%	7.9%	15.3%	35.6%	16.5%	6.1%	2,614
就業形態	正社員	79.4%	35.1%	24.5%	8.7%	17.9%	31.5%	14.6%	4.6%	11,503
	非正社員	63.4%	38.0%	16.7%	6.5%	13.0%	27.4%	17.2%	5.8%	4,210
	自営業等	41.3%	37.9%	21.2%	8.9%	14.9%	29.7%	13.9%	4.5%	1,335
	非就業	39.5%	39.2%	19.0%	8.0%	13.8%	31.1%	15.4%	6.3%	2,952

注:調査票において、「肥満」は「肥満(BMIが高い)」、「血糖値」は「血糖値が高い」、「血圧」は「血圧が高い」、「コレステロール」は「コレステロール値・中性脂肪値が高い(または低い)」、「不明」は「覚えていない・答えたくない」である。

第2節 健康に関わる生活習慣

1. 食事・運動・睡眠の状況 (Q25)

次に、健康に関わる生活習慣の状況について、調査結果を示す。まず、食事、運動、睡眠に関する集計結果を見よう（図表 5-6）。本調査では、運動習慣、間食の習慣、朝食欠食、睡眠による休養について、厚生労働省「標準的な健診・保健指導プログラム」の標準的な質問票をもとに項目を作成した⁴⁰。

全体で見ると、各項目の該当者の割合は、「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上実施している」で24.3%、「朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取している」で70.0%、「朝食を抜くことが週に3回以上ある」で28.2%、「睡眠で休養が十分とれている」で44.9%であった。

男女別に見ると、運動習慣は男性の該当割合の方が高く、間食の習慣は女性の該当割合の方が高い。また、朝食欠食の割合は男性の方が高い。睡眠による休養については男女や年齢階級による大きな違いは見られない。就業形態別に見ると、運動習慣、間食、朝食欠食において差が見られるが、これは男女差等を反映している可能性がある。また、睡眠による休養については自営業等で比較的高い割合を占めている。

図表 5-6 生活習慣（食事・運動・睡眠）の状況（男女別・年齢階級別、就業形態別）

		1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上実施している	朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取している	朝食を抜くことが週に3回以上ある	睡眠で休養が十分とれている	(N)
合計		24.3%	70.0%	28.2%	44.9%	20,000
男性	35～39歳	31.6%	63.7%	32.2%	48.7%	2,106
	40～44歳	31.1%	64.2%	32.2%	46.2%	2,425
	45～49歳	31.0%	59.2%	32.7%	44.6%	2,855
	50～54歳	28.5%	58.1%	29.9%	44.2%	2,534
女性	35～39歳	14.3%	80.2%	26.2%	45.4%	2,125
	40～44歳	17.5%	78.6%	24.7%	44.9%	2,446
	45～49歳	18.5%	78.0%	25.0%	43.5%	2,895
	50～54歳	21.7%	78.1%	23.2%	42.6%	2,614
就業形態	正社員	26.5%	66.5%	28.3%	43.6%	11,503
	非正社員	19.2%	78.5%	24.4%	44.2%	4,210
	自営業等	31.5%	63.0%	36.5%	51.9%	1,335
	非就業	19.7%	74.5%	29.8%	47.7%	2,952

⁴⁰ 調査時点では「標準的な健診・保健指導プログラム【平成30年度版】」の調査票を参照した。現在は、「標準的な健診・保健指導プログラム【令和6年度版】」が公開されている。使用した調査票項目の文言に変更はない。

2. 飲酒習慣（Q28、Q29）、喫煙（Q26、Q27）

次に、飲酒習慣、喫煙行動について、調査結果を示す。飲酒習慣については、厚生労働省「国民健康・栄養調査」における「飲酒習慣のある者」の定義にならい、「週3日以上、1合以上の飲酒」がある場合に「飲酒習慣あり」として有無を集計した。男女別・年齢階級別および就業形態別に結果を示す（図表5-7）。

全体で見ると、飲酒習慣のある者の割合は20.2%、喫煙している者の割合は24.3%であった。男女別・年齢階級別に見ると、飲酒習慣、喫煙行動のどちらも、すべての年齢階級において男性の方が女性よりも割合が高い。また、男女とも年齢層が高いほど飲酒・喫煙率が高い傾向にある。就業形態による差も見られるが、これは男女差・年齢差を反映している可能性がある。

本節で集計結果を紹介した生活習慣の調査項目は、今後、就業形態との関連や、健康状態との関連の分析に用いられる予定である。

図表 5-7 飲酒・喫煙の状(%) (男女別・年齢階級別、就業形態別)

		飲酒習慣	喫煙	(N)
合計		20.2%	24.3%	20,000
男性	35～39歳	21.6%	29.6%	2,106
	40～44歳	27.5%	34.1%	2,425
	45～49歳	29.9%	35.7%	2,855
	50～54歳	34.4%	33.9%	2,534
女性	35～39歳	7.7%	11.0%	2,125
	40～44歳	11.0%	14.7%	2,446
	45～49歳	13.7%	16.3%	2,895
	50～54歳	14.1%	17.6%	2,614
就業形態	正社員	25.0%	27.5%	11,503
	非正社員	12.3%	18.6%	4,210
	自営業等	25.2%	32.1%	1,335
	非就業	10.7%	16.4%	2,952

注：週3回以上の頻度で、1合以上の量の飲酒がある場合に、飲酒習慣ありとした

第6章 主観的ウェルビーイングの状況

第1節 主観的ウェルビーイングの属性による違い

1. デイメンジョンで異なる、属性ごとの分布の違い（Q13～Q15、Q40）

本調査で採用した OECD の主観的ウェルビーイング尺度は、「人生に対する主観的評価（Evaluation）」「人生の意味（Eudaimonia）」「感情（Affects）」という、主観的ウェルビーイングの異なる3つの側面を捉えることを目指している（第2章第3節を参照）。本調査では、この3つの側面に関し、「主観的評価」については「生活満足度」（Q13）「仕事満足度」（Q40）に関する質問を、「人生の意味」については「やりがい」（Q14）に関する質問を、「感情」については「幸福感」「不安感」「落ち込み」（Q15）に関する質問を採用した⁴¹。

回答はすべて、0（「まったく満足していない」）から10（「完全に満足している」）までの11段階で尋ねている。従来調査では生活満足度を1から5までの5段階で尋ねることが一般的であったが、それでは回答が3に集中し、個人の違いを測定しにくい。このため、本調査では11段階の尺度を採用することで、個人や属性による違いをより明確にとらえることを目指した。

以下では、「性別」と「就業形態」に着目して、主観的ウェルビーイングに関する4つの質問「生活満足度」「仕事満足度」「やりがい」「幸福感」の結果の違いを比較する。なお、主観的ウェルビーイングのこれら4つの側面を以下では「デイメンジョン」とよぶ。

図表 6-1 は、上記4つのデイメンジョンについて、就業形態別の回答分布を比較している。「生活満足度」については、正社員＞非正社員＞自営業等＞非就業の順に低くなる傾向にある。ところが、「仕事満足度」ではむしろ逆の傾向となっており、正社員＜非正社員＜自営業等の順で高くなっている。「やりがい」は自営業等がもっとも高く、正社員が同じくらいで、非正社員は低くなっている。「幸福感」は、正社員・非正社員・自営業等の間ではほとんど差がみられないが、非就業で低い値の割合が比較するとやや大きい。このように、主観的ウェルビーイングと就業形態との関連は、デイメンジョンによって分布の傾向に違いがみられる。

⁴¹ 本調査で採用した主観的ウェルビーイングの質問項目のうち、もっとも重要かつ基礎的な測定項目とされているのが「生活満足度(Life Satisfaction)」である（OECD, 2013: 253）。

図表 6-1 主観的ウェルビーイングの4つのディメンジョンにおける回答分布(就業形態別)

「生活満足度」: 全体として、あなたは最近のご自分の生活にどの程度満足していますか。

□まったく満足していない 0 □←1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □→9 ■完全に満足している10
n=

正社員	11,503	5%	4%	10%	8%	20%	13%	19%	15%
非正社員	4,210	6%	4%	12%	8%	20%	13%	16%	14%
自営業等	1,335	9%	2%	6%	13%	7%	19%	12%	13%
非就業	2,952	12%	3%	7%	11%	7%	20%	9%	14%

「仕事満足度」: あなたは、ご自分の仕事にどの程度満足していますか。

□まったく満足していない 0 □←1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □→9 ■完全に満足している10
n=

正社員	11,503	6%	5%	8%	8%	23%	13%	16%	13%
非正社員	4,210	5%	4%	7%	7%	23%	12%	16%	16%
自営業等	1,335	6%	8%	7%	5%	21%	13%	17%	16%

「やりがい」: 全体として、あなたはご自分が生活の中でしていることにどの程度やりがいを感じていますか。

□まったくやりがいがない 0 □←1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □→9 ■非常にやりがいを感じる10
n=

正社員	11,503	3%	3%	9%	8%	24%	15%	18%	13%
非正社員	4,210	4%	4%	9%	10%	25%	15%	16%	11%
自営業等	1,335	5%	3%	8%	7%	26%	13%	16%	12%
非就業	2,952	10%	5%	11%	8%	24%	10%	13%	10%

「幸福感」: 次の質問は、あなたが昨日どのような気分だったかを、0から10の尺度で尋ねるものです。
幸福感はありましたか。

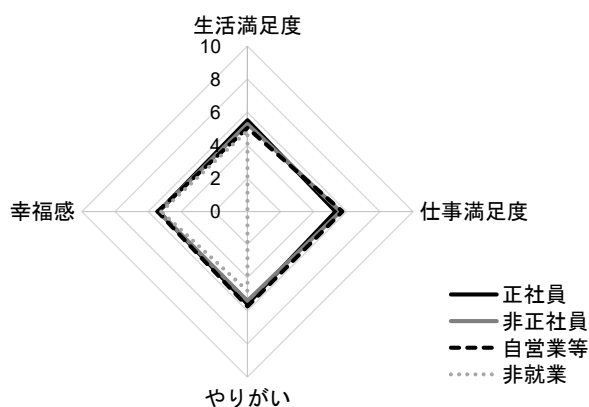
□まったく感じなかった 0 □←1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □→9 ■一日中感じていた10
n=

正社員	11,503	5%	4%	9%	8%	24%	14%	16%	13%
非正社員	4,210	6%	4%	9%	8%	23%	14%	14%	13%
自営業等	1,335	6%	4%	9%	7%	23%	13%	16%	12%
非就業	2,952	9%	4%	10%	6%	20%	11%	14%	14%

2. 就業形態による主観的ウェルビーイング（平均値）の違い（Q13～Q15、Q40）

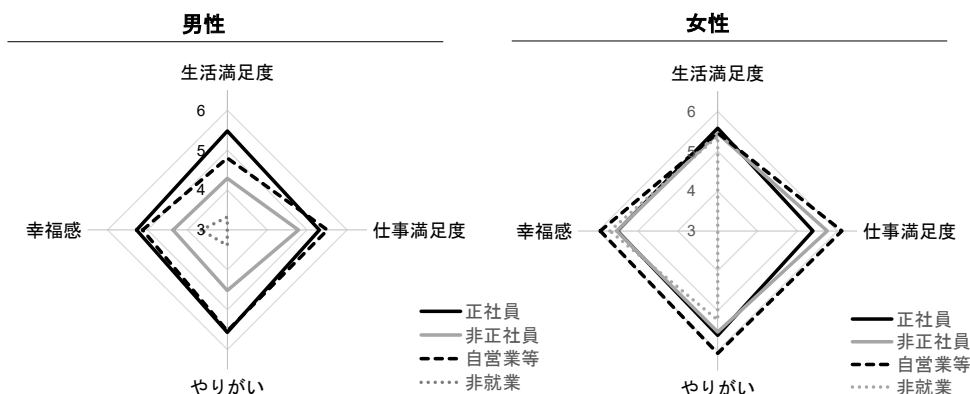
前節では回答の分布を見てきたが、特徴をより端的に表現するため、以下では回答の平均値を属性別に比較する。図表 6-2 は、「生活満足度」「仕事満足度」「やりがい」「幸福感」という 4 つのディメンジョンについて、回答の平均値を就業形態別に示している（非就業者については、「仕事満足度」の回答はないため、グラフが原点 0 を通っている）。4 つの項目について、すべての就業形態で平均値が 5～6 の辺りに集中しており、平均値で見る限り就業形態による主観的ウェルビーイングの違いは見られない。

図表 6-2 「生活満足度」「仕事満足度」「やりがい」「幸福感」の平均値（就業形態別）



しかしながら、男女別に見ると、全体では見えない特徴が現れる。図表 6-3 は、図表 6-2 の就業形態別の結果を男性と女性に分けて集計したものである（これらのグラフの元データとなる数値は、図表 6-4 に掲載している）。なお、以下では違いを見やすくするため、グラフの尺度の 3 から 6 の範囲を拡大して表示していることに注意されたい。まず、男性を見ると、就業形態による得点差が明確である。非就業はすべての項目でスコアが最も低く、10 点満点中の 3 点と低い。非正社員はそのやや外側に位置し、正社員と自営業等はその更に外側に位置しており、相対的にスコアが高い。一方、女性を見ると、全体的に主観的ウェルビーイングのスコアが男性に比べ高いことが分かる。また、男性と異なり、就業形態による違いは明確でなく、特に正社員、非正社員、非就業の違いはほぼ見られない。他方で男女に共通しているのは、各就業形態のグラフの形が大きさこそ違うものの相似形であり、グラフがほとんど交差していない点である。このことは、主観的ウェルビーイングの水準における就業形態の順位が 4 つの項目で違いがないことを表している。つまり、平均では 4 つの項目で水準が大きく異なること—たとえば「仕事への満足度は低い、生活への満足度は高い」「幸福感は高い、やりがいは低い」といった項目による違い—があまり見られないという特徴がある。

図表 6-3 「生活満足度」「仕事満足度」「やりがい」「幸福感」の平均値(男女別・就業形態別)



図表 6-4 「生活満足度」「仕事満足度」「やりがい」「幸福感」の平均値(男女別・就業形態別)

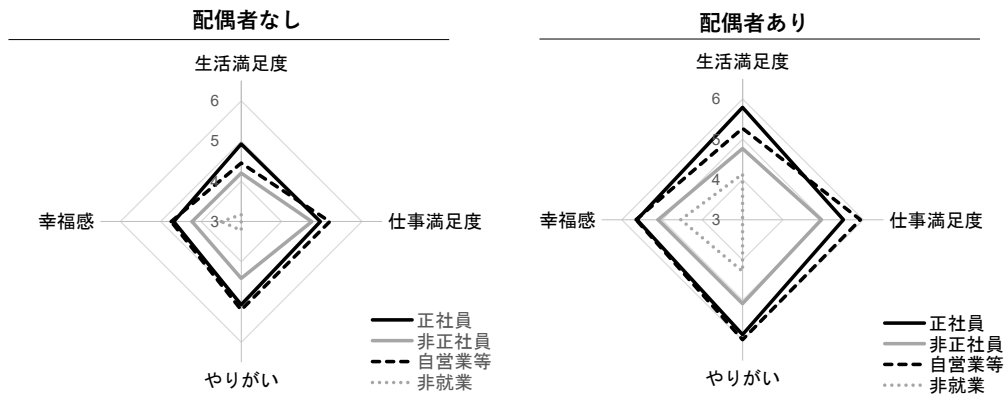
		生活満足度	仕事満足度	やりがい	幸福感	不安感	落ち込み	(N)
全体	合計	5.3	5.4	5.4	5.3	5.2	4.2	20,000
	正社員	5.5	5.3	5.6	5.4	5.1	4.1	11,503
	非正社員	5.3	5.6	5.4	5.4	5.2	4.1	4,210
	自営業等	5.1	5.7	5.7	5.4	5.1	4.0	1,335
	非就業	4.9	-	4.8	5.2	5.3	4.4	2,952
男性	合計	5.2	5.3	5.3	5.1	5.3	4.3	9,920
	正社員	5.5	5.3	5.6	5.3	5.2	4.1	7,805
	非正社員	4.3	4.8	4.5	4.4	5.8	5.0	581
	自営業等	4.8	5.5	5.5	5.1	5.4	4.3	822
	非就業	3.3	-	3.4	3.7	6.4	5.5	712
女性	合計	5.5	5.6	5.5	5.6	5.0	4.0	10,080
	正社員	5.6	5.4	5.6	5.5	5.1	4.1	3,698
	非正社員	5.4	5.7	5.5	5.5	5.1	4.0	3,629
	自営業等	5.5	6.1	6.1	5.9	4.7	3.6	513
	非就業	5.4	-	5.2	5.7	5.0	4.0	2,240

注1)「仕事満足度」は就業者のみを対象

男女の違いをさらに詳細に見るために、以下では婚姻状態(配偶者の有無)別に見ていく。まず、図表 6-5 は、男性を対象に配偶者の有無で分けて、就業形態別に平均値を示したものである(グラフの元となった数値は、図表 6-7 に掲載している)。これを見ると、配偶者の有無により分布が異なっており、配偶者なしの方が全般に主観的ウェルビーイングのスコアが低いことが分かる。同時に、男性の2つのグラフの形状は似ており、いずれにおいても、非就業のスコアが最も低く、その次に非正社員が低く、それに比べ、正社員と自営業等はスコアが同程度に高い。グラフが交差し、就業形態別の平均値の順位が異なるのは生活満足度のみであり、4項目での違いがほとんど見られない。

図表 6-5 「生活満足度」「仕事満足度」「やりがい」「幸福感」の平均値（男性・配偶者有無別・就業形態別）

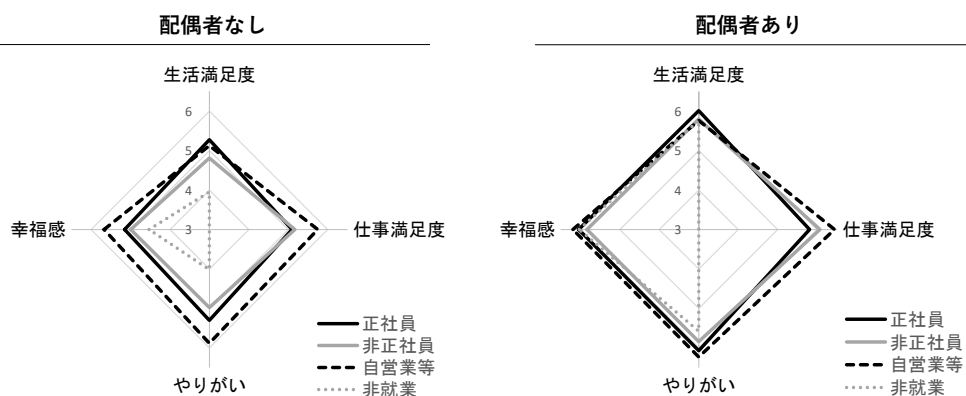
【男性】



一方、図表 6-6 は、女性について配偶者の有無に分け、就業形態別に平均値を示したものである（グラフの元となった数値は、図表 6-7 に掲載している）。男性と同様に、「配偶者あり」の方が全体としてスコアが高い。他方で、男性と異なり、「配偶者あり」では4項目とも、非正社員、非就業であっても正社員と同程度にスコアが高く、就業形態による違いがほぼ見られない。また、「配偶者なし」でも、男性と異なり、正社員と非正社員との違いがほとんど見られない。さらに、自営業等のスコアが正社員、非正社員よりも全般に高い点は、女性に特徴的である。

図表 6-6 「生活満足度」「仕事満足度」「やりがい」「幸福感」の平均値（女性・配偶者有無別・就業形態別）

【女性】



図表 6-7 「生活満足度」「仕事満足度」「やりがい」「幸福感」の平均値(男女別・配偶者有無別・就業形態別)

			生活満足度	仕事満足度	やりがい	幸福感	不安感	落ち込み	(N)
男性	配偶者なし	合計	4.6	5.0	4.8	4.5	5.6	4.6	4,414
		正社員	4.9	5.0	5.1	4.7	5.3	4.4	2,849
		非正社員	4.2	4.8	4.4	4.2	5.8	5.0	490
		自営業等	4.5	5.2	5.2	4.7	5.5	4.5	473
		非就業	3.2	-	3.2	3.5	6.4	5.5	602
	配偶者あり	合計	5.7	5.5	5.8	5.6	5.1	4.0	5,506
		正社員	5.8	5.5	5.9	5.6	5.1	4.0	4,956
		非正社員	4.8	5.0	5.1	5.1	6.0	4.7	91
		自営業等	5.3	5.9	6.0	5.6	5.3	4.0	349
		非就業	4.1	-	4.3	4.5	6.2	5.3	110
女性	配偶者なし	合計	5.0	5.2	5.1	5.1	5.4	4.4	4,206
		正社員	5.3	5.1	5.3	5.1	5.2	4.3	2,183
		非正社員	4.8	5.2	5.0	5.0	5.4	4.4	1,293
		自営業等	5.1	5.7	5.9	5.7	5.1	3.9	242
		非就業	4.0	-	4.0	4.5	6.1	5.2	488
	配偶者あり	合計	5.8	6.0	5.8	6.0	4.8	3.8	5,874
		正社員	6.0	5.8	6.1	6.0	4.8	3.8	1,515
		非正社員	5.8	6.1	5.8	5.8	4.9	3.8	2,336
		自営業等	5.8	6.4	6.2	6.2	4.3	3.4	271
		非就業	5.8	-	5.6	6.0	4.7	3.7	1,752

以上の結果をまとめると、第一に言えるのは、就業形態と主観的ウェルビーイングの関連は、男女で異なるということである。男性では、正社員と自営業等の主観的ウェルビーイングの水準はほぼ同程度だが、それに比べ非正社員では低い。一方、女性では、自営業等の主観的ウェルビーイングのスコアが最も高く、正社員、非正社員の間では違いがほとんど見られない。この点は、日本の雇用において正社員と非正社員との間、また、男女間に大きな処遇格差があることと無関係ではないだろう。就業形態の違いやそれに連なる処遇や労働条件が主観的ウェルビーイングを規定するメカニズムについて、本調査を通じて更に研究を進めていきたい。

第二は、男女を通じて配偶者がいる人で主観的ウェルビーイングの水準が高いということである。この結果は、日本社会における既婚／非婚の意味を問いかけているといえる。パートナーを得ることが心理的な安心感や幸福感につながる面もあるだろうが、配偶者のない人の主観的ウェルビーイングの水準が低いという結果は、我々の社会では結婚しないことによる「生きづらさ」があることを示唆している可能性がある。さらに、今回の結果からは、非婚者の主観的ウェルビーイングの水準は、女性よりもむしろ男性でより低い可能性があることも分かった。この点についても本調査を用いてさらに詳細な分析を進めていきたい。

第三は、既婚女性にとっては、就業形態が主観的ウェルビーイングにほとんど関連しないことである。この背景には、日本社会では、就業していない女性の既婚者が「専業主婦」として社会的・制度的に広く認知されてきた経緯があり、それが高い自己評価ややりがいの源になっている可能性があることや、経済面では女性自身がどの就業形態であっても世帯年収の分

布には違いがないこと等がある可能性がある。「主観的ウェルビーイング」の水準が高いことはそれ自体望ましいことだが、「主観的ウェルビーイング」は「ウェルビーイング」全体のうちのひとつの構成要素にすぎず、ほかにも健康、所得、仕事の質、住居環境、社会的繋がりなども全体的な「ウェルビーイング」の実現には欠かせない。今後、本調査を通じて、こうした観点からの研究が求められる。

第2節 収入と主観的ウェルビーイングの関連

1. 「個人年収（おもな仕事からの収入）」と「生活満足度」（Q68、Q13）

本節では、主観的ウェルビーイングと収入との関連について分析する。図表 6-8 は、「生活満足度」と「個人の年収（主な仕事からの収入）」の関連を男女別に示している。まず、男性では、「生活満足度」は、収入階級に応じておおむね右上がりとなっている。「収入なし」から 100 万円まで、300 万円から 900 万円まで、また、それ以上の収入階級においても、収入階級が上がるほど「生活満足度」の平均値はゆるやかに高くなる。一方、女性では右上がりとは言い難く、「収入なし」から 400 万円にかけて「生活満足度」の平均値はほとんど変わらず、400 万円から 800 万円にかけてはゆるやかに上昇するものの、それ以降は傾向が不明瞭である（図中のグレー部分は、件数が非常に少ない階級を示す）。

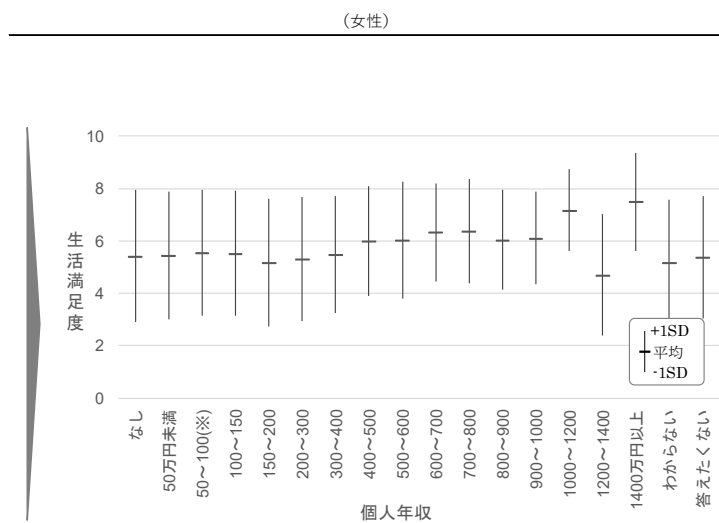
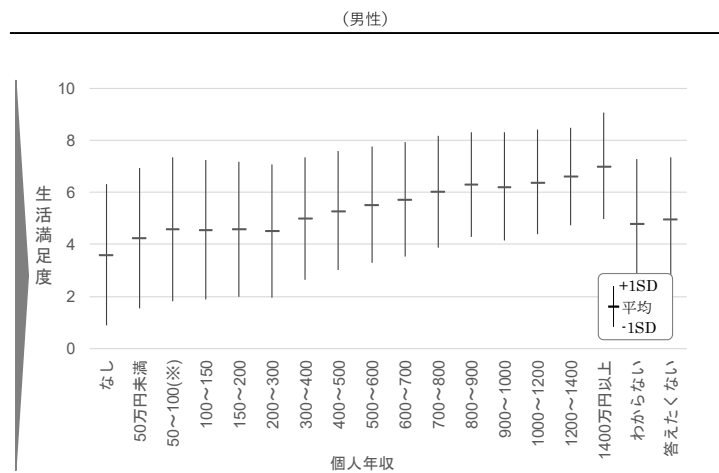
図表 6-8 「生活満足度」の平均値（個人年収階級別）

	平均	標準偏差	(N)
なし	3.6	2.7	601
50万円未満	4.2	2.7	300
50～100(※)	4.6	2.8	212
100～150	4.6	2.7	177
150～200	4.6	2.6	191
200～300	4.5	2.6	613
300～400	5.0	2.4	989
400～500	5.3	2.3	1,177
500～600	5.5	2.2	1,060
600～700	5.7	2.2	820
700～800	6.0	2.2	648
800～900	6.3	2.0	392
900～1000	6.2	2.1	262
1000～1200	6.4	2.0	242
1200～1400	6.6	1.9	77
1400万円以上	7.0	2.1	113
わからない	4.8	2.5	500
答えたくない	5.0	2.4	1,546
全体	5.2	2.5	9,920

(※) 万円以上～万円未満

	平均	標準偏差	(N)
なし	5.4	2.5	1,913
50万円未満	5.5	2.4	602
50～100(※)	5.6	2.4	869
100～150	5.5	2.4	822
150～200	5.2	2.4	461
200～300	5.3	2.4	1,084
300～400	5.5	2.2	713
400～500	6.0	2.1	491
500～600	6.0	2.2	288
600～700	6.3	1.9	188
700～800	6.4	2.0	115
800～900	6.0	1.9	46
900～1000	6.1	1.8	18
1000～1200	7.2	1.6	17
1200～1400	4.7	2.3	10
1400万円以上	7.5	1.9	14
わからない	5.2	2.4	728
答えたくない	5.4	2.3	1,701
全体	5.5	2.4	10,080

(※) 万円以上～万円未満



2. 「世帯年収」と「生活満足度」 (Q69、Q13)

図表 6-12 は、「世帯年収」と「生活満足度」の関連を示している。グラフを見ると、男女とも収入階級が上がるにつれて「生活満足度」の平均値も高くなる、おおむね右上がりの関係にあることが分かる。ただし、男女とも 1,400 万円から 1,600 万円までの階級で「生活満足度」の値は頭打ちとなっており、それ以上世帯年収が高くなっても生活満足度の平均には違いがない。これらの階級は、該当するケース数が少ないことにも留意が必要である。図 6-9 でみた「個人年収」と「生活満足度」の関連と比較すると、男性では「世帯年収」よりも「個人年収」の方がより広い範囲の収入階級で「生活満足度」との関連が見られ、女性では「個人年収」よりも「世帯年収」の方が「生活満足度」との関連が強いように見える。

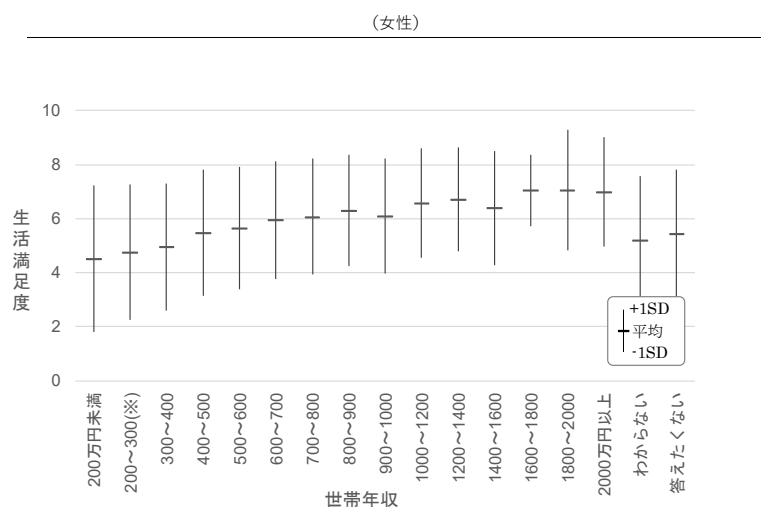
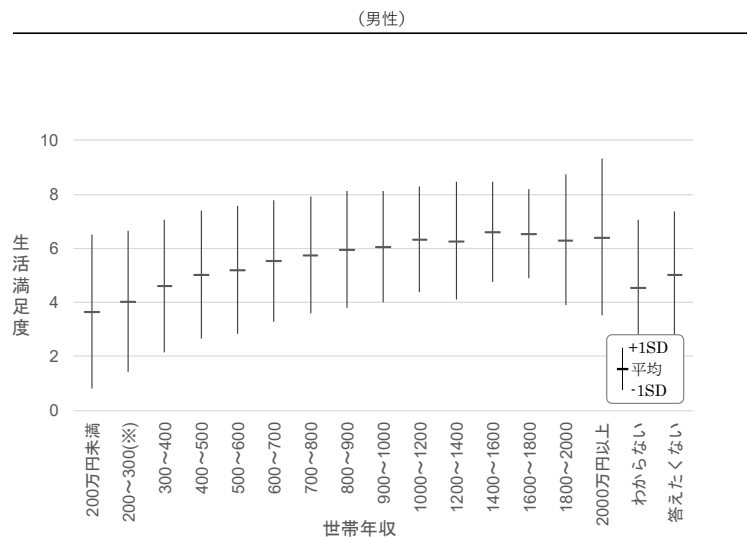
図表 6-9 「生活満足度」の平均値(世帯年収階級別)

	平均	標準偏差	(N)
200万円未満	3.7	2.8	473
200~300(※)	4.0	2.6	425
300~400	4.6	2.4	700
400~500	5.0	2.4	869
500~600	5.2	2.4	937
600~700	5.5	2.3	833
700~800	5.8	2.2	739
800~900	6.0	2.2	575
900~1000	6.1	2.1	492
1000~1200	6.3	2.0	514
1200~1400	6.3	2.2	242
1400~1600	6.6	1.9	141
1600~1800	6.6	1.7	56
1800~2000	6.3	2.4	41
2000万円以上	6.4	2.9	79
わからない	4.5	2.5	1,202
答えたくない	5.0	2.3	1,602
全体	5.2	2.5	9,920

(※) 万円以上～万円未満

	平均	標準偏差	(N)
200万円未満	4.5	2.7	535
200~300(※)	4.8	2.5	585
300~400	5.0	2.4	649
400~500	5.5	2.3	688
500~600	5.7	2.3	748
600~700	5.9	2.2	605
700~800	6.1	2.2	490
800~900	6.3	2.1	396
900~1000	6.1	2.1	327
1000~1200	6.6	2.0	331
1200~1400	6.7	1.9	140
1400~1600	6.4	2.1	95
1600~1800	7.1	1.3	20
1800~2000	7.1	2.2	36
2000万円以上	7.0	2.0	57
わからない	5.2	2.4	2,348
答えたくない	5.4	2.4	2,030
全体	5.5	2.4	10,080

(※) 万円以上～万円未満

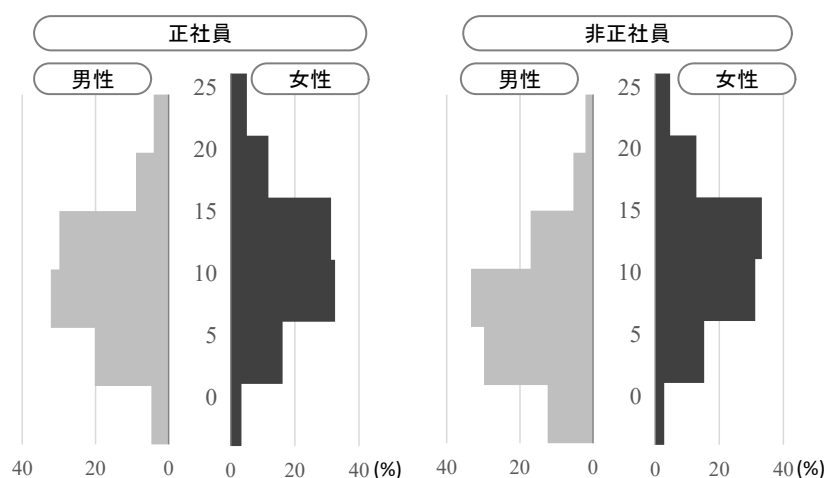


第3節 ソーシャル・サポートと主観的ウェルビーイングの関連

1. 性別・就業形態とソーシャル・サポート (Q101～103)

本調査では、次の3つの質問により「ソーシャル・サポート」について把握している：「1) 次の人たちはどのくらい気軽に話ができますか」、「2) あなたが困ったとき、次の人たちはどのくらい頼りになりますか」、「3) あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか」。対象としては「上司」「職場の同僚」「配偶者、家族、友人等」の3者について尋ねており、回答の選択肢は「1. 非常に」「2. かなり」「3. 多少」「4. 全くない」の4段階である。ここでは、「非常に」に3点、「かなり」に2点、「多少」に1点、「全くない」に0点を割り当て、それぞれの質問ごとに「上司」「職場の同僚」「配偶者、家族、友人等」の得点を合計した上で（最低点0～最高点9点）、3つの質問の得点を合計して「ソーシャル・サポート合計値」とした。ただし、正社員、非正社員のみを集計対象とし、自営業等、非就業は集計から除外した⁴²。図表6-10は、「ソーシャル・サポート合計値」の分布を就業形態別・男女別に示したものである。

図表 6-10 「ソーシャル・サポート合計値」の分布(就業形態別・男女別)



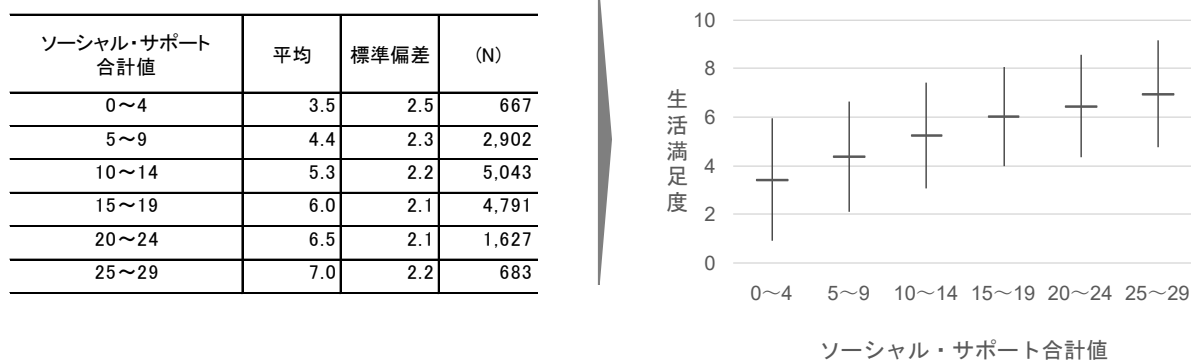
正社員では男女の分布にほとんど違いが見られないのに対し、非正社員では相対的に男性が低い値に、女性が高い値に分布している。このことから、就業形態が各人の社会関係に及ぼす影響は、男性と女性で異なる可能性がある。もっともソーシャル・サポートに関しては、就業形態や性別といった属性よりも、個人的な違いに左右される可能性がある。

⁴² 就業形態が「自営業等」の人に対しては、「同僚」「配偶者、家族、友人等」についてのみ尋ね、「上司」に関する質問の対象外とした。このため、本集計からは除外している。

2. ソーシャル・サポートと「生活満足度」(Q101～103、Q13)

多くの先行研究では、ソーシャル・サポートが主観的ウェルビーイングと関連することも指摘されている。図表 6-11 は、「ソーシャル・サポート合計値」の階級ごとに各階級に属する人々の「生活満足度」の平均値および標準偏差を示したものである。グラフを見ると、「ソーシャル・サポート合計値」が高いほど、生活満足度の平均値も高いという右上がりの関係が見て取れる。先に第 2 節において、「生活満足度」の平均値は収入の水準とも関連していることを確認したが、他方で、収入が低くても「生活満足度」が高い人や、収入が高くても「生活満足度」が低い人は存在するだろう。ソーシャル・サポートは、このように主観的ウェルビーイングのうち、収入だけでは説明できない部分を説明する要因の候補であろう。今後、パネルデータの蓄積により、こうしたメカニズムについても分析可能となることが期待される。

図表 6-11 「ソーシャル・サポート合計値」別 生活満足度(平均・標準偏差)



参考文献

- Chandola, T., Martikainen, P., Bartley, M., Lahelma, E., Marmot, M., Michikazu, S., & Kagamimori, S (2004) “Does conflict between home and work explain the effect of multiple roles on mental health? A comparative study of Finland, Japan, and the UK.” *International journal of epidemiology*, 33(4), 884-893.
- Furukawa, T. A., Kawakami, N., Saitoh, M., Ono, Y., Nakane, Y., Nakamura, Y., ... & Kikkawa, T. (2008) “The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. *International journal of methods in psychiatric research*”, 17(3), 152-158.
- Gierk B, Kohlmann S, Kroenke K, et al (2014) “The somatic symptom scale–8 (SSS–8) : a brief measure of somatic symptom burden.” *JAMA Intern Med*, 174,399–407.
- Gosling, S. D., Rentfrow, P. J., & Swann, W. B., Jr. (2003). “A Very Brief Measure of the Big Five Personality Domains. *Journal of Research in Personality*”, 37, 504-528.
- Kessler, R. C., Andrews, G., Colpe, L. J., Hiripi, E., Mroczek, D. K., Normand, S. L., & Zaslavsky, A. M. (2002). “Short screening scales to monitor population prevalences and trends in non-specific psychological distress. *Psychological medicine*”, 32(6), 959-976.
- Kouvonen A, Kivimaki M, Vahtera J, et al. (2006). “Psychometric evaluation of a short measure of social capital at work”. *BMC Public Health*, 6, 251.
- Kurioka, S., Inoue, A., & Tsutsumi, A. (2013). “Optimum cut-off point of the Japanese short version of the effort-reward imbalance questionnaire.” *Journal of occupational health*, 12-0235.
- Matsudaira, K., Oka, H., Kawaguchi, M., Murakami, M., Fukudo, S., Hashizume, M., & Löwe, B. (2017). “Development of a Japanese version of the Somatic Symptom Scale-8: Psychometric validity and internal consistency” *General hospital psychiatry*, 45, 7-11.
- Muramatsu K, Nakao K, Ide H, Furui Y. (2021) “Testing the Construct Validity and Responsiveness of the Single-Item Presenteeism Question”. *J Occup Environ Med*, 63(4), e187-e196
- OECD (2013), “OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being”, OECD Publishing, Paris, (桑原進監訳, 高橋しのぶ訳, (2015). 「主観的幸福を測る : OECD ガイドライン」明石書店.)
- Schaufeli, W. B., Shimazu, A., Hakanen, J., Salanova, M., & De Witte, H. (2019). “An ultra-short measure for work engagement: The UWES-3 validation across five countries”. *European Journal of Psychological Assessment*, 35, 577-591.
- Sekine, M., Chandola, T., Martikainen, P., Marmot, M., & Kagamimori, S. (2006). “Work and family characteristics as determinants of socioeconomic and sex inequalities in sleep: The Japanese Civil Servants Study”. *Sleep*, 29(2), 206-216.

- Siegrist, J. (1996). "Adverse health effects of high-effort/low-reward conditions. *Journal of occupational health psychology*", 1(1), 27.
- Shimazu, A., Schaufeli, W. B., Kosugi, S. et al. (2008). "Work engagement in Japan: Validation of the Japanese version of Utrecht Work Engagement Scale". *Applied Psychology: An International Review*, 57, 510-523.
- Tsutsumi, A., Ishitake, T., Peter, R., Siegrist, J., & Matoba, T. (2001). "The Japanese version of the Effort-Reward Imbalance Questionnaire: a study in dental technicians". *Work & stress*, 15(1), 86-96.
- 小塩真司・阿部晋吾・カトローニ ピノ (2012) 「日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J)作成の試み」 『パーソナリティ研究』, Vol. 21, pp. 40-52.
- 小田切優子・大谷由美子・井上茂・林 俊夫・内山 綾子・高宮 朋子・下光 輝一 (2010) 「日本語版職域ソーシャルキャピタル質問紙の信頼性と妥当性の検討」『産業衛生学雑誌』, Vol. 52(suppl.), pp.631
- 古井祐司, 村松賢治, 井出博生 (2018) 「中小企業における労働生産性の損失とその影響要因」『日本労働研究雑誌』 Vol. .695, pp.49-61
- 松平浩, 川口美佳, 村上正人, 福土審, 橋爪誠, & 岡敬之 (2016) 「日本語版 Somatic Symptom Scale-8 (SSS-8 [身体症状スケール]) の開発—言語的妥当性を担保した翻訳版の作成—」『心身医学』, Vol. 56(9), pp.931-937.
- 労働省 (2000) 「労働の場におけるストレスおよびその健康影響に関する調査報告書」『平成 11 年度 作業関連疾患の予防に関する研究』

第Ⅲ部 資料編

単純集計表

- ※ 1 各項目の数値は、最低限のエラーカットのみを行った速報集計であり、データ公開時までに追加的なエラーカットを行う可能性がある。
- ※ 2 以下の設問については、集計結果の掲載を省略している。
- ・ 居住市区町村（Q3 の一部）
 - ・ 現職 職業中分類・小分類（Q48 の一部）自由記述（Q51）
 - ・ 初職につく前の学校を出た年月（Q85）
 - ・ 初職 就職年月（Q87），職業中分類・小分類（Q89 の一部），退職年月（Q92）
 - ・ 前職 就職年月（Q93），職業中分類・小分類（Q95 の一部），退職年月（Q98）
 - ・ 現職 就職年月（Q99）

Q1 あなたの性別をお答え下さい。はじめに、あなたについてお伺いします。

		0	1	2
		TOTAL	男性	女性
1段目 度数		20000	9920	10080
2段目 横%		100.0	49.6	50.4

Q2.1 あなたのお生まれの年月をお答え下さい。

		0	1
		TOTAL	平均値
1段目 度数		20000	1977.0
2段目 横%		100.0	
1	出生年(西暦)	20000	1977.0
		100.0	
2	出生月	20000	6.5
		100.0	

Q2.2 あなたの年齢をお答え下さい。

		0	1
		TOTAL	平均値
1段目 度数		20000	45.1
2段目 横%		100.0	

*年代・5歳刻み

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	平均値
1段目 度数		20000	4231	4871	5750	5148	45.1
2段目 横%		100.0	21.2	24.4	28.8	25.7	

Q3 現在お住まいの都道府県・市区町村を選択して下さい。

*都道府県

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		TOTAL	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県
1段目 度数		20000	811	235	182	359	173	168	257	392	279	324	1173
2段目 横%		100.0	4.1	1.2	0.9	1.8	0.9	0.8	1.3	2.0	1.4	1.6	5.9

12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府
993	2359	1485	573	183	184	123	141	380	305	535	1126	286	199	373
5.0	11.8	7.4	2.9	0.9	0.9	0.6	0.7	1.9	1.5	2.7	5.6	1.4	1.0	1.9

27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県
1384	807	194	145	104	118	295	455	172	90	155	215	106	892	113
6.9	4.0	1.0	0.7	0.5	0.6	1.5	2.3	0.9	0.5	0.8	1.1	0.5	4.5	0.6

42	43	44	45	46	47
長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
208	269	189	127	224	140
1.0	1.3	0.9	0.6	1.1	0.7

Q5 あなたが最後に卒業した学校(最終学歴)を教えてください。

		0	1	2	3	4	5	6	7
		TOTAL	中学校	高校	専門学校	高等専門学校	短大	大学	大学院
1段目 度数		20000	689	6625	3388	693	2415	5548	642
2段目 横%		100.0	3.4	33.1	16.9	3.5	12.1	27.7	3.2

Q6 あなたは現在、収入のある仕事をされていますか。

		0	1	2	3
		TOTAL	している	していない	仕事にはついていないが休職・休業中
1段目 度数		20000	16709	2952	339
2段目 横%		100.0	83.5	14.8	1.7

Q7 あなたは現在、主に何をされていますか。

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	家事をしている	通学している	仕事を探している	特に何もしていない	その他
1段目 度数		2952	2053	15	271	467	146
2段目 横%		100.0	69.5	0.5	9.2	15.8	4.9

Q8 あなたは、主にどのような理由で休職・休業されていますか。

		0	1	2	3	4	5	6
		TOTAL	けが	病気	出産・育児	介護	勤め先の都合(閑散期等)	その他
1段目 度数		339	21	132	113	12	39	22
2段目 横%		100.0	6.2	38.9	33.3	3.5	11.5	6.5

Q9 あなたの就業形態は、つぎのうちどれですか。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	経営者・役員	正社員・正職員	パート・アルバイト	契約社員	派遣社員・派遣労働者	嘱託	自営業・フリーランス・内職	家族従業者(※自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に無給で従事している者)	その他
1段目 度数		17048	355	11148	3138	524	468	80	1239	96	0
2段目 横%		100.0	2.1	65.4	18.4	3.1	2.7	0.5	7.3	0.6	0.0

Q10 あなたの雇用期間には、定めがありますか。

		0	1	2	3
		TOTAL	期間の定めなし(定年までを含む)	期間の定めあり	分からない
1段目 度数		15358	12198	2292	868
2段目 横%		100.0	79.4	14.9	5.7

Q11 あなたは、店舗(ネット店舗を除く)を持っていますか。

		0	1	2
		TOTAL	店舗なし	店舗あり
1段目 度数		1239	888	351
2段目 横%		100.0	71.7	28.3

Q12 あなたは、他人を雇用していますか。

		0	1	2
		TOTAL	雇用している	雇用していない
1段目 度数		1239	177	1062
2段目 横%		100.0	14.3	85.7

Q13 全体として、あなたは最近のご自分の生活にどの程度満足していますか。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		TOTAL	まったく満足していない0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	完全に満足している10
1段目 度数		20000	1231	373	921	2125	1484	4015	2396	3429	2904	637	485
2段目 横%		100.0	6.2	1.9	4.6	10.6	7.4	20.1	12.0	17.1	14.5	3.2	2.4

Q14 全体として、あなたはご自分が生活の中でしていることに、どの程度やりがいを感じていますか。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		TOTAL	まったくやりがいがない0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	非常にやりがいを感じる10
1段目 度数		20000	849	337	703	1854	1674	4862	2865	3319	2374	595	568
2段目 横%		100.0	4.2	1.7	3.5	9.3	8.4	24.3	14.3	16.6	11.9	3.0	2.8

Q15 次の質問は、あなたが昨日どのような気分だったかを、0から10の尺度で尋ねるものです。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		TOTAL	まったく感じなかった0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	一日中感じていた10
1	幸福感はありましたか。	20000	1150	465	854	1843	1568	4561	2679	2995	2557	716	612
		100.0	5.8	2.3	4.3	9.2	7.8	22.8	13.4	15.0	12.8	3.6	3.1
2	不安感はありましたか。	20000	1223	655	1290	2028	1696	4597	2204	2493	1932	658	1224
		100.0	6.1	3.3	6.5	10.1	8.5	23.0	11.0	12.5	9.7	3.3	6.1
3	精神的に落ち込んでいましたか。	20000	3049	1069	1706	2323	1793	4368	1704	1532	1140	430	886
		100.0	15.2	5.3	8.5	11.6	9.0	21.8	8.5	7.7	5.7	2.2	4.4

Q16 以下の言葉があなた自身にどのくらい当てはまるかについて、もっとも適切なものを選んで下さい。

		0	1	2	3	4	5	6	7
		TOTAL	全く違うと思う	おおよそ違うと思う	少し違うと思う	どちらでもない	少し思う	まあまあ思う	強く思う
1	活発で、外向的だと思う	20000	2443	3246	4043	5099	3042	1787	340
2	他人に不満をもち、めめごとを起こしやすいと思う	20000	2343	4865	4313	5418	2206	593	262
3	しっかりしていて、自分に厳しいと思う	20000	1077	1918	4308	6990	3834	1498	375
4	心配性で、うろたえやすいと思う	20000	693	1686	3072	4771	5609	2775	1394
5	新しいことが好きで、変わった考えをもつと思う	20000	1087	2354	4195	6718	3841	1412	393
6	ひかえめで、おとなしいと思う	20000	969	1758	3519	6094	4368	2421	871
7	人に気をつかう、やさしい人間だと思う	20000	307	605	1755	6336	6683	3374	940
8	だらしく、うっかりしていると思う	20000	912	2106	3666	5513	5272	1806	725
9	冷静で、気分が安定していると思う	20000	854	1541	4264	7134	4107	1773	327
10	発想力に欠けた、平凡な人間だと思う	20000	432	899	2765	6692	5019	2869	1324

Q17 あなたは過去1ヶ月の間、仕事のある 平均的な1日に、以下の活動にそれぞれ平均して何時間費やしましたか。

		0	1	2	3	4	5	6
		TOTAL	5時間未満	5時間以上～6時間未満	6時間以上～7時間未満	7時間以上～8時間未満	8時間以上～9時間未満	9時間以上
1	睡眠	16709	2135	6284	5225	2262	589	214
2		100.0	12.8	37.6	31.3	13.5	3.5	1.3

Q18 あなたは過去1ヶ月の間、仕事のある 平均的な1日に、以下の活動にそれぞれ平均して何時間費やしましたか。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8
		TOTAL	なし(0分)	30分未満	30分以上～1時間未満	1時間以上～2時間未満	2時間以上～3時間未満	3時間以上～4時間未満	4時間以上～5時間未満	5時間以上
1	家事(食事の用意・洗濯・買い物・掃除など)	16709	909	3417	4673	4197	2091	797	267	358
2	育児(衣食の世話、遊び相手、勉強の面倒見など)	16709	10654	1720	1725	1455	601	232	97	225
3	介護・看護	16709	15422	452	285	237	98	53	19	143
4	自由時間(趣味・団らん・運動など)	16709	609	1458	3130	4875	3398	1484	495	1260

Q19 あなたは過去1ヶ月の間、仕事をしない 平均的な1日に、以下の活動にそれぞれ平均して何時間費やしましたか。

		0	1	2	3	4	5	6
		TOTAL	5時間未満	5時間以上～6時間未満	6時間以上～7時間未満	7時間以上～8時間未満	8時間以上～9時間未満	9時間以上
1	睡眠	20000	1599	4583	6499	4837	1604	878
2		100.0	8.0	22.9	32.5	24.2	8.0	4.4

Q20 あなたは過去1ヶ月の間、仕事をしない 平均的な1日に、以下の活動にそれぞれ平均して何時間費やしましたか。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8
		TOTAL	なし(0分)	30分未満	30分以上～1時間未満	1時間以上～2時間未満	2時間以上～3時間未満	3時間以上～4時間未満	4時間以上～5時間未満	5時間以上
1	家事(食事の用意・洗濯・買い物・掃除など)	20000	1033	2366	4071	5195	3921	1877	683	854
2	育児(衣食の世話、遊び相手、勉強の面倒見など)	20000	12655	1264	1441	1708	1135	556	267	974
3	介護・看護	20000	18297	481	371	366	184	97	48	156
4	自由時間(趣味・団らん・運動など)	20000	765	769	1847	3601	3879	2855	1576	4708

Q21 あなたの現在の健康状態はいかがですか。ここからは、あなたの健康についてお伺いします。

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない
1		20000	1927	4647	9188	3506	732
2		100.0	9.6	23.2	45.9	17.5	3.7

Q22 過去1ヶ月の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも
1	神経過敏に感じましたか	20000 100.0	5883 29.4	6040 30.2	5791 29.0	1550 7.8	736 3.7
2	絶望的だと感じましたか	20000 100.0	8877 44.4	5045 25.2	4117 20.6	1281 6.4	680 3.4
3	そろそろ、落ち着かなく感じましたか	20000 100.0	6604 33.0	6755 33.8	4832 24.2	1330 6.7	479 2.4
4	気分が沈み込んで、何か起っても気が晴れないように感じましたか	20000 100.0	6237 31.2	6345 31.7	4759 23.8	1791 9.0	868 4.3
5	何をするのも骨折りだと感じましたか	20000 100.0	6426 32.1	6223 31.1	5055 25.3	1629 8.1	667 3.3
6	自分は価値のない人間だと感じましたか	20000 100.0	8324 41.6	4901 24.5	4063 20.3	1530 7.7	1182 5.9

Q23 最近1週間を通して、以下の体の問題について、どの程度悩まされていますか。

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	ぜんぜん悩まされていない	わずかに悩まされている	少し悩まされている	かなり悩まされている	とても悩まされている
1	胃腸の不調	20000 100.0	7542 37.7	5760 28.8	5033 25.2	1180 5.9	485 2.4
2	背中、または腰の痛み	20000 100.0	5196 26.0	5082 25.4	5582 27.9	2844 14.2	1296 6.5
3	腕、脚、または関節の痛み	20000 100.0	7707 38.5	4880 24.4	4782 23.9	1780 8.9	851 4.3
4	頭痛	20000 100.0	8171 40.9	4911 24.6	4591 23.0	1589 7.9	738 3.7
5	胸の痛み、または息切れ	20000 100.0	12535 62.7	3888 19.4	2726 13.6	646 3.2	205 1.0
6	めまい	20000 100.0	12724 63.6	3821 19.1	2600 13.0	605 3.0	250 1.3
7	疲れている、または元気が出ない	20000 100.0	4015 20.1	6006 30.0	5638 28.2	2819 14.1	1522 7.6
8	睡眠に支障がある	20000 100.0	7498 37.5	5183 25.9	4392 22.0	1799 9.0	1128 5.6

Q24 現在のあなたの身長と体重は、いくつですか。 ※この質問は、人々の健康状態を測定するために必要な項目です。回答は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。 ※ご記入は、お答えいただけるもののみで結構です。

		0	1	2
		TOTAL	不明	平均値
1	身長	20000 100.0	1946 9.7	165.2
2	体重	20000 100.0	2208 11.0	62.9

Q25 あなたは以下のことがあてはまりますか。

		0	1	2
		TOTAL	はい	いいえ
1	1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上実施している	20000 100.0	4862 24.3	15138 75.7
2	朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取している	20000 100.0	13990 70.0	6010 30.1
3	朝食を抜くことが週に3回以上ある	20000 100.0	5644 28.2	14356 71.8
4	睡眠で休養が十分とれている	20000 100.0	8974 44.9	11026 55.1

Q26 あなたは、たばこを吸っていますか。

		0	1	2	3
		TOTAL	吸っている	過去に吸っていたが、現在はやめている	吸わない
1		20000 100.0	4857 24.3	3936 19.7	11207 56.0

Q27 1日に平均して何本くらい吸いますか。

		0	1	2	3	4
		TOTAL	10本以下	11~20本	21~30本	31本以上
1		4857 100.0	1432 29.5	2586 53.2	672 13.8	167 3.4

Q28 あなたは、お酒をどのくらいの頻度で飲みますか。

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	週1~2回	週3~4回	週5~6回	毎日	ほとんど飲まない(飲めない)
1段目 度数		20000	3388	1466	1157	2979	11010
2段目 横%		100.0	16.9	7.3	5.8	14.9	55.1

Q29 お酒を飲む日には、1日当たりどのくらいの量を飲みますか。(日本酒換算でお答えください。日本酒1合=ビール500ml=焼酎110ml=ウイスキーダブル1杯=ワイングラス2杯)

		0	1	2	3	4
		TOTAL	1合未満	1~2合未満	2~3合未満	3合以上
1段目 度数		8990	3677	3027	1321	965
2段目 横%		100.0	40.9	33.7	14.7	10.7

Q30 あなたは、過去1年間に健康診断・人間ドックを受診しましたか

		0	1	2
		TOTAL	した	しない
1段目 度数		20000	13526	6474
2段目 横%		100.0	67.6	32.4

Q31 健康診断・人間ドックの結果に異常がありましたか。※この質問は、人々の健康状態を測定するために必要な項目です。回答は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。

		0	1	2	3	4	5	6	7
		TOTAL	異常はない	肥満(BMIが高い)	血糖値が高い	血圧が高い	コレステロール値・中性脂肪値が高い(または低い)	その他	覚えていない・答えたくない
1段目 度数		13526	4885	3021	1106	2226	4138	2050	674
2段目 横%		100.0	36.1	22.3	8.2	16.5	30.6	15.2	5.0

Q32 過去1ヶ月のあいだ、あなたは次のものをどのくらい摂取・使用しましたか。

		0	1	2	3	4
		TOTAL	なし	月に1~3回程度	週に1~3回程度	ほぼ毎日
1段目 度数		20000	13076	1124	1153	4647
2段目 横%		100.0	65.4	5.6	5.8	23.2
1	サプリメントのような健康食品※ビタミン、ミネラル、アミノ酸などの栄養素や成分を補充する、錠剤、カプセル、粉末、液体、ゼリーなど。※医薬品は除く。栄養ドリンク・エナジードリンク・スポーツドリンクは除く。	20000	13076	1124	1153	4647
		100.0	65.4	5.6	5.8	23.2
2	エナジードリンク※栄養ドリンク、スポーツドリンクは除く。	20000	16502	2574	705	219
		100.0	82.5	12.9	3.5	1.1
3	解熱鎮痛薬※熱や痛み(頭痛、生理痛、関節痛、歯痛など)を抑える薬。※処方薬のほか、市販の薬・漢方薬等も含む。サプリメントは除く。	20000	12142	5727	1504	627
		100.0	60.7	28.6	7.5	3.1
4	不安・落ち込み・イライラなどの情緒不安定を緩和する薬※処方薬のほか、市販の薬・漢方薬等も含む。サプリメントは除く。	20000	17705	604	280	1411
		100.0	88.5	3.0	1.4	7.1
5	睡眠薬(睡眠導入剤・睡眠改善薬を含む)※処方薬のほか、市販の薬・漢方薬等も含む。サプリメントは除く。	20000	18375	395	195	1035
		100.0	91.9	2.0	1.0	5.2

Q33 病気やけががないときに発揮できる仕事の出来を100%として、過去4週間の自身の仕事を評価して下さい。

※最小0%~最大100%の範囲で入力してください。副業等で2つ以上のお仕事をしている方は、主な仕事についてお答え下さい。

		0	1
		TOTAL	平均値
1段目 度数		16709	
2段目 横%		100.0	79.7

Q34 あなたの仕事についてうかがいます。最もあてはまるものを選んで下さい。

		0	1	2	3	4
		TOTAL	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
1	非常にたくさんの仕事をしなければ ならない	16709 100.0	2552 15.3	7779 46.6	4833 28.9	1545 9.2
2	時間内に仕事が処理しきれない	16709 100.0	1735 10.4	4988 29.9	6397 38.3	3589 21.5
3	一生懸命働かなければならない	16709 100.0	3703 22.2	8741 52.3	3206 19.2	1059 6.3
4	かなり注意を集中する必要がある	16709 100.0	3349 20.0	8931 53.5	3525 21.1	904 5.4
5	高度の知識や技術が必要なむずかしい 仕事だ	16709 100.0	1872 11.2	6186 37.0	6018 36.0	2633 15.8
6	勤務時間中はいつも仕事のことを考 えていなければならない	16709 100.0	2372 14.2	7190 43.0	5590 33.5	1557 9.3
7	からだを大変よく使う仕事だ	16709 100.0	2541 15.2	5347 32.0	5044 30.2	3777 22.6
8	自分のペースで仕事ができる	16709 100.0	2142 12.8	7316 43.8	5218 31.2	2033 12.2
9	自分で仕事の順番・やり方を決める ことができる	16709 100.0	2929 17.5	8368 50.1	3865 23.1	1547 9.3
10	職場の仕事の方針に自分の意見を 反映できる	16709 100.0	1607 9.6	7538 45.1	5385 32.2	2179 13.0

Q35 あなたの職場の部署の現在の状況について、お尋ねします。最も当てはまるものをひとつ選んで下さい。

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	全くあてはま らない	あまりあては まらない	どちらともい えない	ややあてはま る	非常にあては まる
1	私たちの部署では、仕事に関連した 情報の共有ができています	15358 100.0	784 5.1	2749 17.9	5357 34.9	5572 36.3	896 5.8
2	私たちの部署では、共に働こう、とい う姿勢がある	15358 100.0	934 6.1	2405 15.7	5373 35.0	5614 36.6	1032 6.7
3	私たちの部署では、お互いに理解し 認め合っている	15358 100.0	946 6.2	2377 15.5	5798 37.8	5401 35.2	836 5.4
4	部署の人々は、新しいアイデアを 考えたり実行に移すために協力し あっている	15358 100.0	1225 8.0	2875 18.7	6331 41.2	4364 28.4	563 3.7
5	部署のメンバーは、出来るだけ最良 の成果を出すために、お互いの意 見を取り入れ活かしあっている	15358 100.0	1154 7.5	2621 17.1	6032 39.3	4872 31.7	679 4.4

Q36 あなたの直属の上司の態度や行動についてお尋ねします。最も当てはまるものをひとつ選んで下さい。

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	全くあてはま らない	あまりあては まらない	どちらともい えない	ややあてはま る	非常にあては まる
1	上司は親切心と思いやりをもって私 たちに接してくれる	15358 100.0	1344 8.8	2348 15.3	5019 32.7	5319 34.6	1328 8.6
2	上司は私たちの従業員としての権 利に対して理解を示してくれる	15358 100.0	1307 8.5	2163 14.1	5028 32.7	5610 36.5	1250 8.1
3	我々の上司は信頼できる	15358 100.0	1691 11.0	2075 13.5	5128 33.4	5073 33.0	1391 9.1

Q37 以下の各文が、どの程度あなたの状況にあてはまるか、該当する選択肢を選んで下さい。

		0	1	2	3	4
		TOTAL	全く違う	違う	その通りだ	全くその通りだ
1	仕事の負担が重く、常に時間に追われている	16709 100.0	1555 9.3	7168 42.9	6391 38.2	1595 9.5
2	邪魔が入って中断させられることの多い仕事だ	16709 100.0	1451 8.7	7274 43.5	6648 39.8	1336 8.0
3	過去数年、だんだん仕事の負担が増えてきた	16709 100.0	1136 6.8	5629 33.7	7655 45.8	2289 13.7
4	私は上司、それに相当する人から、ふさわしい評価を受けている	16709 100.0	1869 11.2	6501 38.9	7732 46.3	607 3.6
5	昇進の見込みは少ない	16709 100.0	806 4.8	4489 26.9	7493 44.8	3921 23.5
6	職場で、好ましくない変化を経験している。もしくは今後そういう状況が起こりうる	16709 100.0	1114 6.7	6294 37.7	7430 44.5	1871 11.2
7	失業の恐れがある	16709 100.0	4112 24.6	8018 48.0	3722 22.3	857 5.1
8	自分の努力と成果をすべて考えあわせると、私は仕事上ふさわしい評価と人望を受けている	16709 100.0	1420 8.5	7067 42.3	7730 46.3	492 2.9
9	自分の努力と成果をすべて考えあわせると、私の仕事の将来の見通しは適当だ	16709 100.0	1226 7.3	7162 42.9	7887 47.2	434 2.6
10	自分の努力と成果をすべて考えあわせると、私のサラリー/収入は適当だ	16709 100.0	2317 13.9	7249 43.4	6804 40.7	339 2.0

Q38 以下の各文の内容が、あなた自身にどの程度あてはまるか、該当する選択肢を選んで下さい。

		0	1	2	3	4
		TOTAL	全く違う	違う	その通りだ	全くその通りだ
1	時間的プレッシャーを感じやすい	16709 100.0	956 5.7	5654 33.8	8220 49.2	1879 11.2
2	朝起きるとすぐ、仕事の問題を考え始める	16709 100.0	2117 12.7	7686 46.0	5760 34.5	1146 6.9
3	家に帰ると、すぐにリラックスでき、仕事のことをすべて忘れてしまう	16709 100.0	1698 10.2	7609 45.5	6148 36.8	1254 7.5
4	私をよく知る人は、私は仕事のために自分を犠牲にしすぎているという	16709 100.0	2435 14.6	8181 49.0	5174 31.0	919 5.5
5	仕事のことが頭から離れず、寝床に入ってもそのことばかり考えている	16709 100.0	3298 19.7	8824 52.8	3969 23.8	618 3.7
6	今日中にやるべきことをやむを得ず明日に延ばさなければならぬとしたら、夜眠れない	16709 100.0	3224 19.3	8662 51.8	4248 25.4	575 3.4

Q39 過去6ヶ月のあいだ、仕事に関連したことで次のような出来事がありましたか。※この質問は、人々の仕事・生活上の経験とその影響を測定するために必要な項目です。回答は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2
		TOTAL	あった	なかった
1	昇進した	17048	992	16056
		100.0	5.8	94.2
2	昇給した(昇格や、定期昇給を含む)	17048	3984	13064
		100.0	23.4	76.6
3	部署異動した(配置転換を含む)	17048	1029	16019
		100.0	6.0	94.0
4	転居を伴う転勤をした	17048	222	16826
		100.0	1.3	98.7
5	仕事上のミスをした(※そのミスによって被害が生じたり事後対応を行ったりするような、軽微ではない仕事上のミスを想定してください。)	17048	2854	14194
		100.0	16.7	83.3
6	同僚・部下とのトラブルがあった、または暴行・いじめ・嫌がらせを受けた	17048	1717	15331
		100.0	10.1	89.9
7	上司から、パワーハラスメントを受けた(パワーハラスメントとは、暴行や、必要以上に長時間にわたる厳しい叱責など、身体的攻撃・精神的攻撃を指します。)	17048	1622	15426
		100.0	9.5	90.5
8	顧客や取引先から、無理な注文・クレーム・迷惑行為を受けた	17048	2075	14973
		100.0	12.2	87.8
9	達成困難なノルマを課された	17048	1563	15485
		100.0	9.2	90.8
10	失業・失職・廃業した	20000	525	19475
		100.0	2.6	97.4

Q40 あなたは、ご自分の仕事にどの程度満足していますか。

1段目 度数 2段目 横%	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		TOTAL	まったく満足していない0	→1	2	3	4	5	6	7	8	→9
0	17048	1044	322	734	1361	1214	3846	2192	2773	2401	688	473
	100.0	6.1	1.9	4.3	8.0	7.1	22.6	12.9	16.3	14.1	4.0	2.8

Q41 あなたは、転職などを希望していますか。

1段目 度数 2段目 横%	0	1	2	3
		TOTAL	転職などを希望しており、実際に仕事を探している	転職などを希望しているが、仕事を探していない
	17048	1421	4865	10762
	100.0	8.3	28.5	63.1

Q42 次の3つの質問文は、仕事に関してどう感じているかを記述したものです。各文をよく読んで、あなたが仕事に関してそのように感じているかどうかを判断して下さい。そのように感じたことが一度もない場合は「全くない」を、感じたことがある場合はその頻度に当てはまるものを選んで下さい。

1段目 度数 2段目 横%	0	1	2	3	4	5	6	7
		TOTAL	全くない	ほとんど感じない(1年に数回以下)	めったに感じない(1ヶ月に1回以下)	時々感じる(1ヶ月に数回)	よく感じる(1週間に1回)	とてもよく感じる(1週間に数回)
1	16709	2956	2305	3168	5057	1567	1114	542
	100.0	17.7	13.8	19.0	30.3	9.4	6.7	3.2
2	16709	1768	1200	2073	5250	3055	2042	1321
	100.0	10.6	7.2	12.4	31.4	18.3	12.2	7.9
3	16709	2592	1825	3141	4641	2267	1430	813
	100.0	15.5	10.9	18.8	27.8	13.6	8.6	4.9

Q43 あなたの現在のお仕事に、以下のようなことはどのくらいの頻度でありますか。

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	毎日	週に1回~数回	月に1回~数回	月に1回以下	全くない
1	上司や同僚から新しいことを学ぶ機会	17048 100.0	784 4.6	1994 11.7	4014 23.5	4753 27.9	5503 32.3
2	上司や同僚から自分の仕事へのフィードバック・アドバイスをもらえる機会	17048 100.0	653 3.8	2054 12.0	3700 21.7	4956 29.1	5685 33.3
3	新しい製品やサービスについて学ぶ必要	17048 100.0	551 3.2	1145 6.7	2883 16.9	5304 31.1	7165 42.0
4	事前に十分なトレーニングや説明がなく、仕事をこなす必要	17048 100.0	1249 7.3	1661 9.7	3000 17.6	4315 25.3	6823 40.0

Q44 あなたは、この半年の間に、次の教育訓練を行いましたか。

1段目 度数 2段目 横%		0	1	2
		TOTAL	行った	行っていない
1	会社の業務命令に基づき、通常の仕事を一時的に離れて行う教育訓練・研修(Off-JT)の受講	17048 100.0	2388 14.0	14660 86.0
2	仕事に関わる自己啓発(=自発的に行う教育訓練)	20000 100.0	2655 13.3	17345 86.7

Q46 あなたの現在の勤務先(事業所)の業種は、次のどれにあたりますか。※派遣社員の方は、派遣先についてお答え下さい。※副業等で2つ以上のお仕事をしている方は、主な仕事についてお答え下さい。

	度数	縦%
0 TOTAL	17048	100
1. 農業、林業	240	1.4
2. 漁業	31	0.2
3. 鉱業、採石業、砂利採取業	27	0.2
4. 建設業	1050	6.2
5. 製造業	2963	17.4
6. 電気、ガス・熱供給・水道業	228	1.3
7. 情報通信業	946	5.5
8. 運輸業、郵便業 ※「郵便局」は、「17 複合サービス事業」に分類されます。そちらを選択してください。	1263	7.4
9. 卸売業、小売業	2085	12.2
10. 金融業、保険業	603	3.5
11. 不動産業、物品賃貸業	284	1.7
12. 学術研究、専門・技術サービス業	426	2.5
13. 宿泊業、飲食サービス業	729	4.3
14. 生活関連サービス業、娯楽業	614	3.6
15. 教育、学習支援業	692	4.1
16. 医療、福祉	2545	14.9
17. 複合サービス事業	246	1.4
18. サービス業(他に分類されないもの) ※「広告代理業」は、「12.学術研究、専門・技術サービス業」に分類されます。そちらを選択してください。	517	3
19. 公務(他に分類されるものを除く) ※「外国公館」「外国公務」は、「18.サービス業(他に分類されないもの)」に分類されます。「保健所」「保育所」は、「16. 医療、福祉」に分類されます。それぞれ正しい番号を選択してください。	861	5.1
20. その他の分類不能の産業	698	4.1

Q47 あなたの勤務先の従業員数は、会社全体でどれくらいですか。※派遣社員の方は、派遣先についてお答え下さい。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		TOTAL	1～9名	10～49名	50～99名	100～299名	300～499名	500～999名	1000～2999名	3000名以上	官公庁	わからない
1段目 度数		17048	2581	2799	1521	2008	882	989	1050	2154	685	2379
2段目 横%		100.0	15.1	16.4	8.9	11.8	5.2	5.8	6.2	12.6	4.0	14.0

Q48 あなたの現在のお仕事は、次のうちどちらにあたりますか。現職の職業分類：大分類

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		TOTAL	管理的職業	研究・技術の職業	法務・経営・文化芸術等の専門的職業	医療・看護・保健の職業	保育・教育の職業	事務的職業	販売・営業の職業	福祉・介護の職業	サービスの職業	警備・保安の職業	農林漁業の職業
1段目 度数		17048	1135	1058	255	1178	663	3204	1988	838	2393	285	220
2段目 横%		100.0	6.7	6.2	1.5	6.9	3.9	18.8	11.7	4.9	14.0	1.7	1.3

12	13	14	15
製造・修理・塗装・製図等の職業	配送・輸送・機械運転の職業	建設・土木・電気工事の職業	運搬・清掃・包装・選別等の職業
1760	807	602	662
10.3	4.7	3.5	3.9

Q52 あなたのお勤め先での役職は、次のどれに相当しますか。

		0	1	2	3	4
		TOTAL	部長クラス (相当の専門職も含む)	課長クラス (相当の専門職も含む)	係長・主任 (相当の専門職も含む)	役職なし
1段目 度数		15358	417	1304	3068	10569
2段目 横%		100.0	2.7	8.5	20.0	68.8

Q53 あなたが面倒をみたり、管理する責任を負っている部下は、何人いますか。

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	部下はいない	5人まで	6人～10人まで	11人～50人まで	51人以上
1段目 度数		15713	10419	3111	1104	867	212
2段目 横%		100.0	66.3	19.8	7.0	5.5	1.3

Q54 あなたには、どの勤務時間制度が適用されていますか。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	通常の勤務時間制度(以下のどれにも該当しない場合)	フレックスタイム制(一定の期間内で始業・終業時刻を自分で決められるもの)	変形労働時間制(一定の期間だけ所定勤務時間が異なるもの)	交替制・シフト制	事業場外労働のみなし労働時間制(営業職など会社外で仕事をし、働いた時間をはつきり計算できない場合に用いられるもの)	裁量労働制(特定の業務で、あらかじめ労働時間とみなすもの)	管理監督者扱い(管理職であって、会社から労働時間の管理について制約が課されていない人)	その他 具体的に:	わからない
1段目 度数		15713	8694	1517	492	3360	128	241	319	83	879
2段目 横%		100.0	55.3	9.7	3.1	21.4	0.8	1.5	2.0	0.5	5.6

Q55 あなたは、過去1ヶ月のあいだ、平均して週に何時間、仕事をしましたか。残業を含めてお答え下さい。※兼業・副業は除き、主な仕事についてお答え下さい。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		TOTAL	0時間	0時間超～5時間未満	5時間以上～10時間未満	10時間以上～15時間未満	15時間以上～20時間未満	20時間以上～25時間未満	25時間以上～30時間未満	30時間以上～35時間未満	35時間以上～40時間未満	40時間以上～45時間未満	45時間以上～50時間未満
1段目 度数		16709	447	812	1630	778	861	672	631	898	2087	3343	1911
2段目 横%		100.0	2.7	4.9	9.8	4.7	5.2	4.0	3.8	5.4	12.5	20.0	11.4

12	13	14
50時間以上～55時間未満	55時間以上～60時間未満	60時間以上
970	507	1162
5.8	3.0	7.0

Q56 あなたは、過去1ヶ月のあいだ、以下の時間帯に働くことができましたか。残業も含めてお答え下さい。

		0	1	2	3	4
		TOTAL	よくあった	時々あった	ほとんどなかった	全くなかった
1段目 度数		16709	4619	4676	2139	5275
2段目 横%		100.0	27.6	28.0	12.8	31.6
1	18:00～22:00	16709	4619	4676	2139	5275
2	22:00～5:00	16709	1236	1802	1893	11778
3	5:00～8:00	16709	2015	2144	1624	10926
		100.0	12.1	12.8	9.7	65.4

Q57 あなたの現在の仕事に、以下のことは当てはまりますか

		0	1	2
		TOTAL	当てはまる	当てはまらない
1	仕事で突然出勤を求められることがある	16709 100.0	4792 28.7	11917 71.3
2	仕事・シフトを突然キャンセルされることがある	16709 100.0	2774 16.6	13935 83.4
3	シフトが直前まで決まらない	16709 100.0	2486 14.9	14223 85.1
4	自分や家庭の都合で休暇を取得しやすい	16709 100.0	11455 68.6	5254 31.4
5	日によってシフトの時間帯が大きく異なる	16709 100.0	3384 20.3	13325 79.7

Q58 あなたのご自宅から勤務先までの通勤時間は、片道どれくらいですか。

		0	1	2	3	4	5	6	7
		TOTAL	0分(自宅の数地内)	15分未満	15分以上～30分未満	30分以上～1時間未満	1時間以上～1時間30分未満	1時間30分以上～2時間未満	2時間以上
1	度数	17048	812	4354	4940	4482	1848	454	158
2	横%	100.0	4.8	25.5	29.0	26.3	10.8	2.7	0.9

Q59 あなたの勤め先では、次のような取組みがされていますか。(複数回答)

		0	1	2	3	4	5	6	7	8
		TOTAL	仕事と家庭の両立支援(ベビーシッター補助、介護に対する補助、勤務時間の柔軟性の拡充等)	働き方改革(残業削減、業務効率化等)	ダイバーシティ経営の推進(女性管理職比率の向上等)	社員の健康増進(食生活支援、運動奨励、メンタルヘルス対策等)※ストレスチェックは除く	従業員の要望・満足度・エンゲージメントに関する調査の実施	自己啓発の支援	ハラスメント対策(研修や相談窓口の設置等)	行われている取組みはない
1	度数	15713	3450	6175	2113	3478	2325	2509	5085	6665
2	横%	100.0	22.0	39.3	13.4	22.1	14.8	16.0	32.4	42.4

Q60 あなたの職場では、在宅勤務(テレワーク)が制度として導入されていますか。あなた自身に適用される制度の有無についてお答え下さい。

		0	1	2	3
		TOTAL	導入されている	導入されていない	わからない
1	度数	15713	3810	10009	1894
2	横%	100.0	24.2	63.7	12.1

Q61 あなたのお仕事は、自宅や喫茶店など職場以外の場所でもできる性質のものですか。

		0	1	2	3	4
		TOTAL	できる	多少できる	あまりできない	まったくできない
1	度数	17048	1214	2138	2246	11450
2	横%	100.0	7.1	12.5	13.2	67.2

Q62 あなたは、過去1ヶ月において、1週間に何日くらい在宅勤務(テレワーク)を実施しましたか。

		0	1	2	3	4	5	6
		TOTAL	0日(行っていない)	1日	2日	3日	4日	5日以上
1	度数	16709	14407	581	458	317	232	714
2	横%	100.0	86.2	3.5	2.7	1.9	1.4	4.3

Q63 あなたはこの6ヶ月のあいだ、おまな仕事以外に収入をとまな副業・兼業をしましたか。※「年金、利子・家賃、株等の配当、相続などによる収入や株のデイトレーディング、個人的なネットオークションによる収入、ブログや動画配信サイトのアフィリエイト広告による収入、ネット調査のモニターによる収入」は副業(仕事)に該当しません。

		0	1	2
		TOTAL	した	していない
1	度数	17048	1332	15716
2	横%	100.0	7.8	92.2

Q64 副業・兼業の就業形態は以下のどれにあたりますか。※複数の副業がある場合は、おもな副業についてお答え下さい

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	経営者・役員	正社員・正職員	パート・アルバイト	契約社員	派遣社員・派遣労働者	嘱託	自営業・フリーランス・内職	家族従業員(※自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に無給で従事している者)	その他
1	度数	1332	45	129	559	19	72	41	302	15	150
2	横%	100.0	3.4	9.7	42.0	1.4	5.4	3.1	22.7	1.1	11.3

Q65 あなたが副業・兼業にかける時間は、1ヶ月あたりどれくらいですか。

		0	1	2	3	4	5
TOTAL			10時間未満	10時間以上 ～20時間未 満	20時間以上 ～30時間未 満	30時間以上 ～40時間未 満	40時間以上
1段目 度数		1332	570	311	167	96	188
2段目 横%		100.0	42.8	23.3	12.5	7.2	14.1

Q66 あなたの副業・兼業からの収入は、1ヶ月でどのくらいありますか。

		0	1	2	3	4	5
TOTAL			5万円未満	5万円以上～ 10万円未満	10万円以上 ～15万円未 満	15万円以上 ～20万円未 満	20万円以上
1段目 度数		1332	796	319	96	53	68
2段目 横%		100.0	59.8	23.9	7.2	4.0	5.1

Q67 2022年12月の、あなたのお仕事の税込みの月収は、およそいくらでしたか。残業代を含めてお答え下さい。※ボーナスは除いてお答え下さい。また、副業・兼業からの収入は除いてお答え下さい。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
TOTAL			なし	5万円未満	5万円以上～ 10万円未満	10万円以上 ～15万円未 満	15万円以上 ～20万円未 満	20万円以上 ～25万円未 満	25万円以上 ～30万円未 満	30万円以上 ～35万円未 満	35万円以上 ～40万円未 満	40万円以上 ～50万円未 満	50万円以上
1段目 度数		17048	533	451	1420	1157	1656	2001	1637	1521	1052	1095	1043
2段目 横%		100.0	3.1	2.6	8.3	6.8	9.7	11.7	9.6	8.9	6.2	6.4	6.1

12	13
わからない	答えたくない
839	2643
4.9	15.5

Q68 2022年の、あなたのお仕事の税込みの年収は、およそいくらでしたか。ボーナス・臨時収入・兼業・副業からの収入も含めてお答え下さい。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
TOTAL			なし	50万円未満	50万円以上～ 100万円未 満	100万円以上 ～150万円未 満	150万円以上 ～200万円未 満	200万円以上 ～300万円未 満	300万円以上 ～400万円未 満	400万円以上 ～500万円未 満	500万円以上 ～600万円未 満	600万円以上 ～700万円未 満	700万円以上 ～800万円未 満
1段目 度数		20000	2514	902	1081	999	652	1697	1702	1668	1348	1008	763
2段目 横%		100.0	12.6	4.5	5.4	5.0	3.3	8.5	8.5	8.3	6.7	5.0	3.8

12	13	14	15	16	17	18
800万円以上 ～900万円未 満	900万円以上 ～1000万円 未満	1000万円以上 ～1200万 円未満	1200万円以上 ～1400万 円未満	1400万円以上	わからない	答えたくない
438	280	259	87	127	1228	3247
2.2	1.4	1.3	0.4	0.6	6.1	16.2

Q69 2022年のあなたの世帯全体の年収は、およそいくらでしたか。兼業・副業を含んだあなた自身の収入や、配偶者など他の家族の方の収入や、家賃収入なども含めてお答え下さい。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
TOTAL			200万円未満	200万円以上 ～300万円未 満	300万円以上 ～400万円未 満	400万円以上 ～500万円未 満	500万円以上 ～600万円未 満	600万円以上 ～700万円未 満	700万円以上 ～800万円未 満	800万円以上 ～900万円未 満	900万円以上 ～1000万円 未満	1000万円以上 ～1200万 円未満	1200万円以上 ～1400万 円未満
1段目 度数		20000	1008	1010	1349	1557	1685	1438	1229	971	819	845	382
2段目 横%		100.0	5.0	5.1	6.7	7.8	8.4	7.2	6.1	4.9	4.1	4.2	1.9

12	13	14	15	16	17
1400万円以上 ～1600万 円未満	1600万円以上 ～1800万 円未満	1800万円以上 ～2000万 円未満	2000万円以上	わからない	答えたくない
236	76	77	136	3550	3632
1.2	0.4	0.4	0.7	17.8	18.2

Q70 現在、配偶者の方がいらっしゃいますか。

		0	1	2	3	4
TOTAL			未婚	既婚(配偶者 がいる・事実 婚を含む)	離別	死別
1段目 度数		20000	6875	11380	1588	157
2段目 横%		100.0	34.4	56.9	7.9	0.8

Q71 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。※同居・別居にかかわらずお答えください。

		0	1	2
TOTAL			いる	いない
1段目 度数		20000	10116	9884
2段目 横%		100.0	50.6	49.4

Q72 お子さんは何人ですか。

		0	1
TOTAL			平均値
1段目 度数		10116	1.9
2段目 横%		100.0	

Q73 一番下のお子さんは、何歳ですか。

		0	1
		TOTAL	平均値
1段目 度数			
2段目 横%			
		10116	12.3
		100.0	

Q74 現在同居されているのは、何人ですか。あなたを含めてお答え下さい。

		0	1
		TOTAL	平均値
1段目 度数			
2段目 横%			
		20000	2.9
		100.0	

Q75 以下にあてはまる方を、それぞれ次から選んで下さい。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		TOTAL	配偶者(事実 婚も含む)	子ども	子どもの配偶 者	孫	自分の親	配偶者の親	祖父母(自分 または配偶 者の)	兄弟姉妹(自 分または配 偶者の)	その他	誰もいない
1段目 度数												
2段目 横%												
1	あなたと同居されている方	16123	10913	8714	56	41	4923	520	217	1341	317	0
		100.0	67.7	54.0	0.3	0.3	30.5	3.2	1.3	8.3	2.0	0.0
2	あなたと生計を同一にしている方 (同居・別居にかかわらずお答え下 さい。)	20000	11016	8176	61	38	4149	386	159	1021	197	4299
		100.0	55.1	40.9	0.3	0.2	20.7	1.9	0.8	5.1	1.0	21.5
3	介護・看護・介助が必要な方(同 居・別居にかかわらずお答え下 さい。)	20000	132	172	6	6	1617	442	424	84	112	17259
		100.0	0.7	0.9	0.0	0.0	8.1	2.2	2.1	0.4	0.6	86.3

Q76 過去6ヶ月のあいだ、生活に関連したことで次のような出来事がありましたか。

		0	1	2
		TOTAL	あった	なかった
1段目 度数				
2段目 横%				
1	結婚をした	20000	169	19831
		100.0	0.8	99.2
2	子どもが生まれた	20000	230	19770
		100.0	1.2	98.9
3	引越をした	20000	602	19398
		100.0	3.0	97.0
4	子どもの受験・進学があった	20000	802	19198
		100.0	4.0	96.0
5	配偶者と離婚・別居した	20000	112	19888
		100.0	0.6	99.4
6	配偶者が就職・転職・起業した	20000	264	19736
		100.0	1.3	98.7
7	配偶者が仕事をやめた	20000	278	19722
		100.0	1.4	98.6
8	自分が重い病気やケガをした	20000	1106	18894
		100.0	5.5	94.5
9	家族が重い病気やケガをした	20000	1335	18665
		100.0	6.7	93.3
10	家族の介護が必要になった	20000	923	19077
		100.0	4.6	95.4

Q77 配偶者の方の最終学歴は、以下のうちどれにあたりますか。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	中学校	高校	専門学校	高等専門学 校	短大	大学	大学院	わからない	答えたくない
1段目 度数											
2段目 横%											
		11380	314	3486	1689	346	1201	3524	406	198	216
		100.0	2.8	30.6	14.8	3.0	10.6	31.0	3.6	1.7	1.9

Q78 配偶者の方の就業形態は、以下のうちどれにあたりますか。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		TOTAL	経営者・役員	正社員・正職 員	パート・アル バイト	契約社員	派遣社員・派 遣労働者	嘱託	自営業・フ リーランス・ 内職	家族従業者 (※自営業主 の家族で、そ の自営業主 の営む事業 に無給で従 事している 者)	その他	働いていない
1段目 度数												
2段目 横%												
		11380	420	6348	2042	255	160	42	639	106	117	1251
		100.0	3.7	55.8	17.9	2.2	1.4	0.4	5.6	0.9	1.0	11.0

Q79 配偶者の方の、2022年のお仕事の税込みの年収は、おおよそいくらでしたか。ボーナス・臨時収入・兼業・副業からの収入も含めてお答え下さい。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		TOTAL	なし	50万円未満	50万円以上 ~100万円未 満	100万円以上 ~150万円未 満	150万円以上 ~200万円未 満	200万円以上 ~300万円未 満	300万円以上 ~400万円未 満	400万円以上 ~500万円未 満	500万円以上 ~600万円未 満	600万円以上 ~700万円未 満	700万円以上 ~800万円未 満
1段目 度数													
2段目 横%													
		11380	1112	326	803	572	331	646	748	736	682	536	369
		100.0	9.8	2.9	7.1	5.0	2.9	5.7	6.6	6.5	6.0	4.7	3.2

12	13	14	15	16	17	18
800万円以上 ～900万円未 満	900万円以上 ～1000万円 未満	1000万円以 上～1200万 円未満	1200万円以 上～1400万 円未満	1400万円以 上	わからない	答えたくない
201 1.8	167 1.5	163 1.4	56 0.5	82 0.7	2239 19.7	1611 14.2

Q80 配偶者の方が出勤されるとき、平均的な帰宅時間はだいたい何時頃ですか。自宅で仕事をしている場合は、仕事が終わる時間をお答え下さい。

		0	1	2	3	4	5	6	7
		TOTAL	17時よりも早 い	17時ごろ	18時ごろ	19時ごろ	20時ごろ	21時ごろ	22時以降
1段目	度数								
2段目	横%								
		10129 100.0	1931 19.1	900 8.9	2359 23.3	2036 20.1	1295 12.8	777 7.7	831 8.2

Q81 家庭の事情により、仕事に以下の障害がでることがありますか。

		0	1	2	3
		TOTAL	まったくない	ある程度ある	よくある
1段目	度数				
2段目	横%				
1	家庭内の問題によって仕事に専念 できる時間が減る	16709 100.0	10386 62.2	5576 33.4	747 4.5
2	家庭内の心配または問題によって 仕事から気持ちがそれる	16709 100.0	9129 54.6	6758 40.4	822 4.9
3	家事によって、仕事をよく行うに必要 な睡眠時間がとれなくなる	16709 100.0	10677 63.9	5212 31.2	820 4.9
4	家庭内での責任によって、リラック スした一人になるための時間が減 る	16709 100.0	8983 53.8	6412 38.4	1314 7.9

Q82 仕事上の責任のため、以下のような点で家庭生活が妨げられることがありますか。

		0	1	2	3
		TOTAL	まったくない	ある程度ある	よくある
1段目	度数				
2段目	横%				
1	仕事のため、家族と過ごす時間が 減る	16709 100.0	8250 49.4	6870 41.1	1589 9.5
2	職場での問題のため、家でいらら ずる	16709 100.0	8794 52.6	6658 39.8	1257 7.5
3	出張で家を空けることが多い	16709 100.0	13844 82.9	2426 14.5	439 2.6
4	仕事で非常にエネルギーを使うた め、家庭では注意力が必要なことが できないと思う	16709 100.0	10045 60.1	5886 35.2	778 4.7

Q83 あなたのご両親の最終学歴は、以下のうちどれですか。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		TOTAL	中学校	高校	専門学校	高等専門学 校	短大	大学	大学院	その他	わからない	答えたくない
1段目	度数											
2段目	横%											
1	父親	20000 100.0	3234 16.2	6635 33.2	517 2.6	548 2.7	151 0.8	4130 20.7	203 1.0	66 0.3	3567 17.8	949 4.7
2	母親	20000 100.0	2644 13.2	8051 40.3	1197 6.0	595 3.0	1727 8.6	1387 6.9	38 0.2	48 0.2	3365 16.8	948 4.7

Q84 あなたが15歳だった頃(中学卒業時)、あなたのお宅の暮らしむきは、この中のどれにあたるでしょうか。当時のふつうの暮らしむきとくらべてお答え下さい。

		0	1	2	3	4	5	6
		TOTAL	豊か	やや豊か	ふつう	やや貧しい	貧しい	わからない
1段目	度数							
2段目	横%							
		20000 100.0	1123 5.6	3205 16.0	11050 55.3	2705 13.5	1499 7.5	418 2.1

Q86 あなたはこれまで、いくつの勤め先(もしくは自営でのお仕事)を経験されましたか。現在のお仕事を含めた数でお答えください。※同時に2つ以上のお仕事をされた場合はすべて含めてください。※同じ勤め先での異動・転属・休職は含みません。※学生時代のアルバイトは除いて下さい。

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	1つ	2つ	3つ	4つ以上	これまで一度 も仕事をし たことがない
1段目	度数						
2段目	横%						
		20000 100.0	5371 26.9	3661 18.3	3510 17.6	7328 36.6	130 0.7

Q88 その会社・仕事での就業形態は、次のうちどれにあたりますか。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	経営者・役員	正社員・正職員	パート・アルバイト	契約社員	派遣社員・派遣労働者	嘱託	自営業・フリーランス・内職	家族従業者 (※自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に無給で従事している者)	その他
1段目	度数	15057	51	11103	2255	692	336	86	237	41	256
2段目	横%	100.0	0.3	73.7	15.0	4.6	2.2	0.6	1.6	0.3	1.7

Q89 あなたのその会社・仕事での職種は、次のうちどれにあたりますか。初職の職業分類：大分類

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		TOTAL	管理的職業	研究・技術の職業	法務・経営・文化芸術等の専門的職業	医療・看護・保健の職業	保育・教育の職業	事務的職業	販売・営業の職業	福祉・介護の職業	サービスの職業	警備・保安の職業	農林漁業の職業
1段目	度数	15057	220	816	193	1116	568	2989	2372	533	2930	162	97
2段目	横%	100.0	1.5	5.4	1.3	7.4	3.8	19.9	15.8	3.5	19.5	1.1	0.6

12	13	14	15
製造・修理・塗装・製図等の職業	配送・輸送・機械運転の職業	建設・土木・電気工事の職業	運搬・清掃・包装・選別等の職業
1640	434	570	417
10.9	2.9	3.8	2.8

Q94 その会社・仕事での就業形態は、次のうちどれにあたりますか。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		TOTAL	経営者・役員	正社員・正職員	パート・アルバイト	契約社員	派遣社員・派遣労働者	嘱託	自営業・フリーランス・内職	家族従業者 (※自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に無給で従事している者)	その他
1段目	度数	11346	77	5519	3346	823	910	107	292	43	229
2段目	横%	100.0	0.7	48.6	29.5	7.3	8.0	0.9	2.6	0.4	2.0

Q95 あなたのその会社・仕事での職種は、次のうちどれにあたりますか。前職の職業分類：大分類

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		TOTAL	管理的職業	研究・技術の職業	法務・経営・文化芸術等の専門的職業	医療・看護・保健の職業	保育・教育の職業	事務的職業	販売・営業の職業	福祉・介護の職業	サービスの職業	警備・保安の職業	農林漁業の職業
1段目	度数	11346	175	405	120	843	421	2296	1580	533	2210	77	113
2段目	横%	100.0	1.5	3.6	1.1	7.4	3.7	20.2	13.9	4.7	19.5	0.7	1.0

12	13	14	15
製造・修理・塗装・製図等の職業	配送・輸送・機械運転の職業	建設・土木・電気工事の職業	運搬・清掃・包装・選別等の職業
1129	517	355	572
10.0	4.6	3.1	5.0

Q100 収入になる仕事につくことを希望していますか。

		0	1	2	3	4	5
		TOTAL	希望しており、求職活動を行っている	希望しているが、求職活動は行っていない	会社で働く以外の仕事につくことを希望している	すでに仕事が決まっている	希望していない
1段目	度数	2952	448	1085	145	45	1229
2段目	横%	100.0	15.2	36.8	4.9	1.5	41.6

Q101 次の人たちはどのくらい気軽に話ができますか。最もあてはまるものを答えて下さい。

		0	1	2	3	4
		TOTAL	非常に	かなり	多少	全くない
1段目	度数					
2段目	横%					
1	上司	15713	2139	4211	7399	1964
		100.0	13.6	26.8	47.1	12.5
2	職場の同僚	17048	3424	6303	5953	1368
		100.0	20.1	37.0	34.9	8.0
3	配偶者、家族、友人等	20000	7497	7041	4381	1081
		100.0	37.5	35.2	21.9	5.4

Q102 あなたが困ったとき、次の人たちはどのくらい頼りになりますか。最もあてはまるものを答えて下さい。

		0	1	2	3	4
		TOTAL	非常に	かなり	多少	全くない
1段目	度数					
2段目	構%					
1	上司	15713 100.0	1341 8.5	3963 25.2	7528 47.9	2881 18.3
2	職場の同僚	17048 100.0	1488 8.7	5047 29.6	8004 46.9	2509 14.7
3	配偶者、家族、友人等	20000 100.0	5427 27.1	7325 36.6	5845 29.2	1403 7.0

Q103 あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか。最もあてはまるものを答えて下さい。

		0	1	2	3	4
		TOTAL	非常に	かなり	多少	全くない
1段目	度数					
2段目	構%					
1	上司	15713 100.0	1138 7.2	3428 21.8	7624 48.5	3523 22.4
2	職場の同僚	17048 100.0	1307 7.7	4314 25.3	8201 48.1	3226 18.9
3	配偶者、家族、友人等	20000 100.0	6087 30.4	7210 36.1	5416 27.1	1287 6.4

調査票

- ※ 1. ここに掲載する調査票は、調査実施を委託した株式会社インテージリサーチから提供を受けた調査画面であり、設問番号（Q〇〇）は、調査画面上の番号である。
- ※ 2. 設問文が一部表示されていない Q93 については、調査画面において、対象条件によって以下のように出し分けている。
 - ・ 現在仕事に就いており、職歴が 3 つ以上ある方（Q6=1,3 かつ Q86=3, 4）：
「現在ついている仕事の、ひとつ前の仕事についてお伺いします。」
 - ・ 現在仕事に就いておらず、職歴が 2 つ以上ある方（Q6=2 かつ Q86=2, 3, 4）：
「あなたが最後についていたお仕事についてお伺いします。」

調査概要

※案件コード自動入力

設問番号

設問内容

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q1

SA

必

はじめに、あなたについてお伺いします。

あなたの性別をお答え下さい。

1. 男性
2. 女性

回答者条件 : 全員

エラーチェック 1 : 正しく西暦で（1960年から2022年12月までで）お答えください。また、月は「1～12月」の間でお答えください。

: \$\$[and(all)]->fill && (!(1960 <= sum(\$\$[t1]) && sum(\$\$[t1]) <= 2022 && 1 <= sum(\$\$[t2]) && sum(\$\$[t2]) <= 12) || sum(\$

: Q2_1の選択肢全てを記入している かつ (!(1960 <= Q2_1の回答欄『1.西暦』の合計 かつ Q2_1の回答欄『1.西暦』の合計 <= 2022 かつ 1 <=

Q2_1

NF

必

あなたのお生まれの年月をお答え下さい。

1. 西暦 年
2. 月

回答者条件 : 全員

Q2_2

NF

必

あなたの年齢をお答え下さい。

1. 歳

回答者条件 : 全員

エラーチェック 1 : 回答必須です。

: \$Q3[t1]->empty

: Q3の回答欄『1.』を記入していない

Q3

SF

現在お住まいの都道府県・市区町村を選択してください。

(回答は具体的に)

1.
2.

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q5

SA

必

あなたが最後に卒業した学校（最終学歴）を教えてください。

1. 中学校
2. 高校
3. 専門学校
4. 高等専門学校
5. 短大
6. 大学
7. 大学院
8. 答えたくない

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q6

SA

必

あなたは現在、収入のある仕事をされていますか。

1. している
2. していない
3. 仕事にはついていないが休職・休業中

回答者条件 : Q6の選択肢『2.していない』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q7

SA

あなたは現在、主に何をされていますか。

必

1. 家事をしている
2. 通学している
3. 仕事を探している
4. 特に何もしていない
5. その他

回答者条件 : Q6の選択肢『3.仕事にはついてい...』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q8

SA

必

あなたは、主にどのような理由で退職・休業されていますか。

1. けが
2. 病気
3. 出産・育児
4. 介護
5. 勤め先の都合（閑散期等）
6. その他

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q9

SA

必

あなたの就業形態は、つぎのうちどれですか。

1. 経営者・役員
2. 正社員・正職員
3. パート・アルバイト
4. 契約社員
5. 派遣社員・派遣労働者
6. 嘱託
7. 自営業・フリーランス・内職
8. 家族従業者（※自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に無給で従事している者）
9. その他

回答者条件 : Q9の選択肢『2.正社員・正職員』～『6.嘱託』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q10

SA

必

あなたの雇用期間には、定めがありますか。

1. 期間の定めなし（定年までを含む）
2. 期間の定めあり
3. 分からない

回答者条件 : Q9の選択肢『7.自営業・フリーラ...』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q11

SA

必

あなたは、店舗（ネット店舗を除く）を持っていますか。

1. 店舗なし
2. 店舗あり

回答者条件 : Q9の選択肢『7.自営業・フリーラ...』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q12

SA

必

あなたは、他人を雇用していますか。

1. 雇用している
2. 雇用していない

▼以下本調査（本調査対象者条件該当者）

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q13

SA

必

あなたが感じることについてお伺いします。

次の質問は、あなたがどの程度満足しているかを、0から10の尺度で尋ねるものです。

全体として、あなたは最近のご自分の生活にどの程度満足していますか。

1. まったく満足していない0
2. ←1
3. 2
4. 3
5. 4
6. 5
7. 6
8. 7
9. 8

- 10. →9
- 11. 完全に満足している10

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q14

SA

必

次の質問は、あなたがご自分の生活のなかでしていることに、どの程度やりがいを感じるかを、0から10の尺度で尋ねるものです。全体として、あなたはご自分が生活の中でしていることに、どの程度やりがいを感じていますか。

- 1. まったくやりがいがない0
- 2. ←1
- 3. 2
- 4. 3
- 5. 4
- 6. 5
- 7. 6
- 8. 7
- 9. 8
- 10. →9
- 11. 非常にやりがいを感じる10

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q15

MTS

必

次の質問は、あなたが昨日どのような気分だったかを、0から10の尺度で尋ねるものです。

- ==== 項目 =====
- 1. 幸福感はありましたか。
 - 2. 不安感はありましたか。
 - 3. 精神的に落ち込んでいましたか。
- ==== 選択肢 =====
- 1. まったく感じなかった0
 - 2. ←1
 - 3. 2
 - 4. 3
 - 5. 4
 - 6. 5
 - 7. 6
 - 8. 7
 - 9. 8
 - 10. →9
 - 11. 一日中感じていた10

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q16

MTS

必

以下の言葉があなた自身にどのくらい当てはまるかについて、もっとも適切なものを選んで下さい。

- ==== 項目 =====
- 1. 活発で、外向的だと思う
 - 2. 他人に不満をもち、めめごとを起こしやすいと思う
 - 3. しっかりしていて、自分に厳しいと思う
 - 4. 心配性で、うるたえやすいと思う
 - 5. 新しいことが好きで、変わった考えをもつと思う
 - 6. ひかえめで、おとなしいと思う
 - 7. 人に気をつかう、やさしい人間だと思う
 - 8. だらしなく、うっかりしていると思う
 - 9. 冷静で、気分が安定していると思う
 - 10. 発想力に欠けた、平凡な人間だと思う
- ==== 選択肢 =====
- 1. 全く違うと思う
 - 2. おおよそ違うと思う
 - 3. 少し違うと思う
 - 4. どちらでもない
 - 5. 少しそう思う
 - 6. まあまあそう思う
 - 7. 強くそう思う

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q17

SA

必

ここからは、あなたの生活時間についてお伺いします。

あなたは過去1ヶ月の間、仕事のある 平均的な1日に、以下の活動にそれぞれ平均して何時間費やしましたか。

- 睡眠
- 1. 5時間未満
 - 2. 5時間以上～6時間未満
 - 3. 6時間以上～7時間未満
 - 4. 7時間以上～8時間未満

- 5. 8時間以上～9時間未満
- 6. 9時間以上

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q18

MTS

必

あなたは過去1ヶ月の間、**仕事のある 平均的な1日に**、以下の活動にそれぞれ平均して何時間費やしましたか。

==== 項目 =====

- 1. 家事（食事の用意・洗濯・買い物・掃除など）
- 2. 育児（衣食の世話、遊び相手、勉強の面倒見など）
- 3. 介護・看護
- 4. 自由時間（趣味・団らん・運動など）

==== 選択肢=====

- 1. なし（0分）
- 2. 30分未満
- 3. 30分以上～1時間未満
- 4. 1時間以上～2時間未満
- 5. 2時間以上～3時間未満
- 6. 3時間以上～4時間未満
- 7. 4時間以上～5時間未満
- 8. 5時間以上

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q19

SA

必

あなたは過去1ヶ月の間、**仕事をしない 平均的な1日に**、以下の活動にそれぞれ平均して何時間費やしましたか。

睡眠

- 1. 5時間未満
- 2. 5時間以上～6時間未満
- 3. 6時間以上～7時間未満
- 4. 7時間以上～8時間未満
- 5. 8時間以上～9時間未満
- 6. 9時間以上

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q20

MTS

必

あなたは過去1ヶ月の間、**仕事をしない 平均的な1日に**、以下の活動にそれぞれ平均して何時間費やしましたか。

==== 項目 =====

- 1. 家事（食事の用意・洗濯・買い物・掃除など）
- 2. 育児（衣食の世話、遊び相手、勉強の面倒見など）
- 3. 介護・看護
- 4. 自由時間（趣味・団らん・運動など）

==== 選択肢=====

- 1. なし（0分）
- 2. 30分未満
- 3. 30分以上～1時間未満
- 4. 1時間以上～2時間未満
- 5. 2時間以上～3時間未満
- 6. 3時間以上～4時間未満
- 7. 4時間以上～5時間未満
- 8. 5時間以上

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q21

SA

必

ここからは、あなたの健康についてお伺いします。

あなたの現在の健康状態はいかがですか。

- 1. よい
- 2. まあよい
- 3. ふつう
- 4. あまりよくない
- 5. よくない

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q22

MTS

必

過去1ヶ月の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。

==== 項目 =====

- 1. 神経過敏に感じましたか
- 2. 絶望的だと感じましたか
- 3. そわそわ、落ち着かなく感じましたか

4. 気分が沈み込んで、何か起こっても気が晴れないように感じましたか
5. 何をするのも骨折りと感じましたか
6. 自分は価値のない人間だと感じましたか

=====選択肢=====

1. 全くない
2. 少しだけ
3. ときどき
4. たいてい
5. いつも

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q23

MTS

必

最近1週間を通して、以下の体の問題について、どの程度悩まされていますか。

=====項目=====

1. 胃腸の不調
2. 背中、または腰の痛み
3. 腕、脚、または関節の痛み
4. 頭痛
5. 胸の痛み、または息切れ
6. めまい
7. 疲れている、または元気が出ない
8. 睡眠に支障がある

=====選択肢=====

1. ぜんぜん悩まされていない
2. わずかに悩まされている
3. 少し悩まされている
4. かなり悩まされている
5. とても悩まされている

回答者条件 : 全員

エラーチェック 1 : 回答必須です。「身長・体重」いずれも記入しない場合は記入欄には何も記入せず「わからない・答えたくない」をチェックしてください。

:(!\$[t1]->fill && !\$[t2]->fill) && !\$Q24MA[1]->on

:(!Q24の回答欄『1.身長』を記入している かつ !Q24の回答欄『2.体重』を記入している) かつ !Q24MAの選択肢『1.わからない・答え...』を選択し

エラーチェック 2 : 回答に矛盾があります。「わからない・答えたくない」のチェックを外してお進みください。

:(\$[t1]->fill || \$[t2]->fill) && \$Q24MA[1]->on

:(Q24の回答欄『1.身長』を記入している または Q24の回答欄『2.体重』を記入している) かつ Q24MAの選択肢『1.わからない・答え...』を選択し

Q24

NF

現在のあなたの身長と体重は、いくつですか。

※この質問は、人々の健康状態を測定するために必要な項目です。回答は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。
※ご記入は、お答えいただけるもののみで結構です。

1. 身長 cm
2. 体重 kg

回答者条件 : 全員

Q24MA

MA

非

Q24排他

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

1. わからない・答えたくない

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q25

MTS

必

あなたは以下のことがあてはまりますか。

=====項目=====

1. 1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上実施している
2. 朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取している
3. 朝食を抜くことが週に 3 回以上ある
4. 睡眠で休養が十分とれている

=====選択肢=====

1. はい
2. いいえ

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q26

SA

必

あなたは、たばこを吸っていますか。

1. 吸っている
2. 過去に吸っていたが、現在はやめている
3. 吸わない

回答者条件 : Q26の選択肢『1.吸っている』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q27

SA

必

1日に平均して何本くらい吸いますか。

1. 10本以下
2. 11~20本
3. 21~30本
4. 31本以上

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q28

SA

必

あなたは、お酒をどのくらいの頻度で飲みますか。

1. 週1~2回
2. 週3~4回
3. 週5~6回
4. 毎日
5. ほとんど飲まない(飲めない)

回答者条件 : Q28の選択肢『1.週1~2回』~『4.毎日』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q29

SA

必

お酒を飲む日には、1日当たりどのくらいの量を飲みますか。(日本酒換算でお答えください。日本酒1合=ビール500ml=焼酎110ml=ウイスキーダブル1杯=ワイングラス2杯)

1. 1合未満
2. 1~2合未満
3. 2~3合未満
4. 3合以上

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q30

SA

必

あなたは、過去1年間に健康診断・人間ドックを受診しましたか

1. した
2. しない

回答者条件 : Q30の選択肢『1.した』を選択した

Q31

MA

必

健康診断・人間ドックの結果に異常がありましたか。

※この質問は、人々の健康状態を測定するために必要な項目です。回答は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。

1. 異常はない
2. 肥満(BMIが高い)
3. 血糖値が高い
4. 血圧が高い
5. コレステロール値・中性脂肪値が高い(または低い)
6. その他
7. 覚えていない・答えたくない

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q32

MTS

必

過去1ヶ月のあいだ、あなたは次のものをどのくらい摂取・使用しましたか。

==== 項目 =====

1. サプリメントのような健康食品※ビタミン、ミネラル、アミノ酸などの栄養素や成分を補充する、錠剤、カプセル、粉末、液体、ゼリーなど。※医薬品は除く。栄養ドリンク・エナジードリンク・スポーツドリンクは除く。
2. エナジードリンク※栄養ドリンク、スポーツドリンクは除く。
3. 解熱鎮痛薬※熱や痛み(頭痛、生理痛、関節痛、歯痛など)を抑える薬。※処方薬のほか、市販の薬・漢方薬等も含む。サプリメントは除く。
4. 不安・落ち込み・イライラなどの情緒不安定を緩和する薬※処方薬のほか、市販の薬・漢方薬等も含む。サプリメントは除く。
5. 睡眠薬(睡眠導入剤・睡眠改善薬を含む)※処方薬のほか、市販の薬・漢方薬等も含む。サプリメントは除く。

==== 選択肢 =====

1. なし
2. 月に1~3回程度
3. 週に1~3回程度
4. ほぼ毎日

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』を選択した

Q33

NF

必

ここからは、あなたのお仕事についてお伺いします。

副業等で2つ以上のお仕事をしている方は、主な仕事についてお答え下さい。

病氣やけががないときに発揮できる仕事の出来を100%として、過去4週間の自身の仕事を評価して下さい。

※最小0%～最大100%の範囲で入力してください。

1. %

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q34

MTS

必

あなたの仕事についてうかがいます。最もあてはまるものを選んで下さい。

==== 項目 =====

1. 非常にたくさんの仕事をしなければならない
2. 時間内に仕事が処理しきれない
3. 一生懸命働かなければならない
4. かなり注意を集中する必要がある
5. 高度の知識や技術が必要なむずかしい仕事だ
6. 勤務時間中はいつも仕事のことを考えていなければならない
7. からだを大変よく使う仕事だ
8. 自分のペースで仕事ができる
9. 自分で仕事の順番・やり方を決めることができる
10. 職場の仕事の方針に自分の意見を反映できる

==== 選択肢 =====

1. そうだ
2. まあそうだ
3. ややちがう
4. ちがう

回答者条件 : Q9の選択肢『2.正社員・正職員』～『6.嘱託』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q35

MTS

必

あなたの職場の部署の現在の状況について、お尋ねします。最も当てはまるものをひとつ選んで下さい。

==== 項目 =====

1. 私たちの部署では、仕事に関連した情報の共有ができています
2. 私たちの部署では、共に働こう、という姿勢がある
3. 私たちの部署では、お互いに理解し認め合っている
4. 部署の人々は、新しいアイデアを考えたり実行に移すために協力しあっている
5. 部署のメンバーは、出来るだけ最良の成果を出すために、お互いの意見を取り入れ活かしあっている

==== 選択肢 =====

1. 全くあてはまらない
2. あまりあてはまらない
3. どちらともいえない
4. ややあてはまる
5. 非常にあてはまる

回答者条件 : Q9の選択肢『2.正社員・正職員』～『6.嘱託』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q36

MTS

必

あなたの直属の上司の態度や行動についてお尋ねします。最も当てはまるものをひとつ選んで下さい。

==== 項目 =====

1. 上司は親切心と思いやりをもって私たちに接してくれる
2. 上司は私たちの従業員としての権利に対して理解を示してくれる
3. 我々の上司は信頼できる

==== 選択肢 =====

1. 全くあてはまらない
2. あまりあてはまらない
3. どちらともいえない
4. ややあてはまる
5. 非常にあてはまる

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q37

MTS

必

以下の各文が、どの程度あなたの状況にあてはまるか、該当する選択肢を選んで下さい。

==== 項目 =====

1. 仕事の負担が重く、常に時間に追われている
2. 邪魔が入って中断させられることの多い仕事だ
3. 過去数年、だんだん仕事の負担が増えてきた
4. 私は上司、それに相当する人から、ふさわしい評価を受けている
5. 昇進の見込みは少ない
6. 職場で、好ましくない変化を経験している。もしくは今後そういう状況が起こりうる
7. 失職の恐れがある
8. 自分の努力と成果をすべて考えあわせると、私は仕事上ふさわしい評価と人望を受けている
9. 自分の努力と成果をすべて考えあわせると、私の仕事の将来の見通しは適当だ
10. 自分の努力と成果をすべて考えあわせると、私のサラリー/収入は適当だ

==== 選択肢 =====

1. 全く違う

2. 違う
3. その通りだ
4. 全くその通りだ

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q38

MTS

必

以下の各文の内容が、あなた自身にどの程度あてはまるか、該当する選択肢を選んで下さい。

=====**項目**=====

1. 時間的プレッシャーを感じやすい
2. 朝起きるとすぐ、仕事の問題を考え始める
3. 家に帰ると、すぐにリラックスでき、仕事のことをすべて忘れてしまう
4. 私をよく知る人は、私は仕事のために自分を犠牲にしすぎているという
5. 仕事のことを頭から離れず、寝床に入ってもそのことばかり考えている
6. 今日中にやるべきことをやむを得ず明日に延ばさなければならないとしたら、夜眠れない

=====**選択肢**=====

1. 全く違う
2. 違う
3. その通りだ
4. 全くその通りだ

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q39

MTS

必

過去6ヶ月のあいだ、仕事に関連したことで次のような出来事がありましたか。

※この質問は、人々の仕事・生活上の経験とその影響を測定するために必要な項目です。回答は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。

=====**項目**=====

1. 昇進した
2. 昇給した（昇格や、定期昇給を含む）
3. 部署異動した（配置転換を含む）
4. 転居を伴う転動をした
5. 仕事上のミスをした（※そのミスによって被害が生じたり事後対応を行ったりするような、軽微ではない仕事上のミスを想定してください。）
6. 同僚・部下とのトラブルがあった、または暴行・いじめ・嫌がらせを受けた
7. 上司から、パワーハラスメントを受けた（パワーハラスメントとは、暴行や、必要以上に長時間にわたる厳しい叱責など、身体的攻撃・精神的攻撃を指します。）
8. 顧客や取引先から、無理な注文・クレーム・迷惑行為を受けた
9. 達成困難なノルマを課された
10. 失業・失職・廃業した

=====**選択肢**=====

1. あった
2. なかった

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q40

SA

必

次の質問は、あなたがどの程度満足しているかを、**0から10の尺度**で尋ねるものです。
あなたは、ご自分の仕事にどの程度満足していますか。

1. まったく満足していない**0**
2. ←**1**
3. **2**
4. **3**
5. **4**
6. **5**
7. **6**
8. **7**
9. **8**
10. →**9**
11. 完全に満足している**10**

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q41

SA

必

あなたは、転職などを希望していますか。

1. 転職などを希望しており、実際に仕事を探している
2. 転職などを希望しているが、仕事を探していない
3. 転職などを希望していない

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q42
MTS
必

次の3つの質問文は、仕事に関してどう感じているかを記述したものです。各文をよく読んで、あなたが仕事に関してそのように感じているかどうかを判断して下さい。そのように感じたことが一度もない場合は「全くない」を、感じたことがある場合はその頻度に当てはまるものを選んで下さい。

=====**項目**=====

1. 仕事をしていると、活力がみなぎるように感じる
2. 仕事に熱心である
3. 私は仕事にのめり込んでいる

=====**選択肢**=====

1. 全くない
2. ほとんど感じない（1年に数回以下）
3. めったに感じない（1ヶ月に1回以下）
4. 時々感じる（1ヶ月に数回）
5. よく感じる（1週間に1回）
6. とてもよく感じる（1週間に数回）
7. いつも感じる（毎日）

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した
表示形式 : ラジオボタン

Q43
MTS
必

あなたの現在のお仕事に、以下のようなことはどのくらいの頻度でありますか。

=====**項目**=====

1. 上司や同僚から新しいことを学ぶ機会
2. 上司や同僚から自分の仕事へのフィードバック・アドバイスを得る機会
3. 新しい製品やサービスについて学ぶ必要
4. 事前に十分なトレーニングや説明がなく、仕事をこなす必要

=====**選択肢**=====

1. 毎日
2. 週に1回～数回
3. 月に1回～数回
4. 月に1回以下
5. 全くない

回答者条件 : 全員
表示形式 : ラジオボタン

Q44
MTS
必

あなたは、この半年の間に、次の教育訓練を行いましたか。

=====**項目**=====

1. 会社の業務命令に基づき、通常の仕事を一時的に離れて行う教育訓練・研修（Off-JT）の受講
2. 仕事に関わる自己啓発（＝自発的に行う教育訓練）

=====**選択肢**=====

1. 行った
2. 行っていない

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した
表示形式 : ラジオボタン

Q46
SA
必

ここからは、あなたのお勤め先やお仕事についてお伺いします。

あなたの現在の勤務先（事業所）の業種は、次のどれにあたりますか。

※派遣社員の方は、派遣先についてお答え下さい。
※副業等で2つ以上のお仕事をしている方は、主な仕事についてお答え下さい。

1. 1. 農業、林業 米作農家、酪農業、植木業、森林管理署など

2. 2. 漁業 養殖業など

3. 3. 鉱業、採石業、砂利採取業 金属鉱業、石炭鉱業、石油鉱業、採石業、砂利採取業など

4. 4. 建設業 土木工事業、道路舗装工事業、建築工事業、建売業（自己施工）、屋根工事業、建物塗装業、解体工事業、建築リフォーム工事業、電気工事業、配管工事業、冷暖房設備工事業、大工・とび工事業、左官業など

5. 5. 製造業 食品製造業、調味料製造業、製粉業、たばこ製造業、製糸業、紡績業、衣服身の回りの品製造業、製材業、新聞・出版社（印刷のみ）、石けん・合成洗剤製造業、自動車製造業、電気製品製造業、鋳物製造業、機械製造業、船舶製造業、玩具製造業、プラスチック製品製造業など

6. 6. 電気、ガス・熱供給・水道業 電力会社、ガス会社、水道局・部・課、下水道局、下水処理場、地域冷暖房業など

7. 7. 情報通信業	電話業、放送業、情報処理・提供サービス業(興信所を除く)、ソフトウェア業、計算センター、プロバイダ、映画・ビデオ制作業、レコード会社、新聞・出版社(主として発行、出版を行う)、ニュース供給業、放送スタジオ(映画撮影・録音用)、広告制作業(印刷物にかかるとの)など
8. 8. 運輸業、郵便業	※「郵便局」は、「17 複合サービス事業」に分類されます。そちらを選択してください。
9. 9. 卸売業、小売業	鉄道業、乗合バス業、宅配便業、自動車運送業、タクシー業、水運業、航空運送業、倉庫業、荷役業、ごん包業、有料道路料金徴収業、郵便業など
10. 10. 金融業、保険業	貿易商社、材木問屋、仲買業、百貨店、酒店、調剤薬局、書店、たばこ店、ガソリンスタンド、コンビニエンスストア、新聞販売店、カタログ販売、インターネット販売など
11. 11. 不動産業、物品賃貸業	銀行、信託業、金融公庫、信用農業協同組合連合会、質屋、金融商品取引業、生命保険業、損害保険業、クレジットカード業、農業共済組合など
12. 12. 学術研究、専門・技術サービス業	貸事務所業、貸家業、貸間業、建売業(他人施工)、土地売買業、不動産仲介業、駐車場業、マンション管理業、リース業など
13. 13. 宿泊業、飲食サービス業	法律事務所、獣医業、建築設計業、デザイン業、写真業、興信所、自然科学研究所、高層気象台、広告代理業など
14. 14. 生活関連サービス業、娯楽業	食堂、レストラン、すし店、喫茶店、料亭、バー、酒場、旅館・ホテル、下宿業、簡易宿泊所、持ち帰り弁当屋、宅配ピザ屋など
15. 15. 教育、学習支援業	洗濯業、理・美容業、旅行業(旅行代理店)、冠婚葬祭業、映画館、競馬場、遊園地、カラオケボックス、家事サービス業、フィットネスクラブなど
16. 16. 医療、福祉	学校(専修・各種学校を含む)、幼稚園、美術館、動物園、図書館、職業訓練施設、学習塾、個人教授所、ダンス教室、職員教育施設・支援業など
17. 17. 複合サービス事業	病院、診療所、保健所、福祉事務所、保育所、老人ホーム、健康保険組合、介護事業など
18. 18. サービス業(他に分類されないもの)	郵便局、簡易郵便局、農・漁業協同組合、森林組合、事業協同組合など
19. 19. 公務(他に分類されるものを除く)	※「広告代理業」は、『12.学術研究、専門・技術サービス業』に分類されます。そちらを選択してください。
20. 20. その他の分類不能の産業	廃棄物処理業、政治団体、神社、外国公館など
	※「外国公館」「外国公務」は、『18.サービス業(他に分類されないもの)』に分類されます。「保健所」「保育所」は、『16.医療、福祉』に分類されます。それぞれ正しい番号を選択してください。
	国家事務、国会、税務署、裁判所、刑務所、ハローワーク(公共職業安定所)、自衛隊、地方事務、都道府県庁、都道府県地方事務所、区役所、町役場、警察署、消防署、地方気象台・測候所など
	勤め先が一定しない内職、日々雇いなどや所属産業のないもの

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した
表示形式 : ラジオボタン

Q47
SA
必

あなたの勤務先の従業員数は、会社全体でどれくらいですか。

※派遣社員の方は、派遣先についてお答え下さい。

1. 1～9名
2. 10～49名
3. 50～99名
4. 100～299名
5. 300～499名
6. 500～999名
7. 1000～2999名
8. 3000名以上
9. 官公庁
10. わからない

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した
エラーチェック 1 : 回答必須です。

- : \$Q48[t1]->empty
- : Q48の回答欄『1.』を記入していない

Q48
SF

あなたの現在のお仕事は、次のうちどちらにあたりますか。

※大まかな職業の説明は、こちらをクリックしてください。
※どちらの職種に当たるかわからない方は、「その他の***」または「他に分類されない***」と表示された職種をお選びください（***の部分は、大分類・中分類で選んだ内容が表示されています）。

(回答は具体的に)

選択画面を開く

クリア

1.
2.
3.

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した

Q51

BF

必

あなたの現在のお仕事の内容を、具体的に教えてください。

※勤め先の事業内容や所属ではなく、担当しているお仕事の内容をできるだけ詳しくお書きください。

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q9の選択肢『2.正社員・正職員』～『6.嘱託』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q52

SA

必

あなたのお勤め先での役職は、次のどれに相当しますか。

1. 部長クラス（相当の専門職も含む）
2. 課長クラス（相当の専門職も含む）
3. 係長・主任（相当の専門職も含む）
4. 役職なし

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q9の選択肢『1.経営者・役員』～『6.嘱託』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q53

SA

必

あなたが面倒をみたり、管理する責任を負っている部下は、何人いますか。

1. 部下はいない
2. 5人まで
3. 6人～10人まで
4. 11人～50人まで
5. 51人以上

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q9の選択肢『1.経営者・役員』～『6.嘱託』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q54

SA

必

あなたには、どの勤務時間制度が適用されていますか。

1. 通常の勤務時間制度（以下のどれにも該当しない場合）
2. フレックスタイム制（一定の時間内で始業・終業時刻を自分で決められるもの）
3. 変形労働時間制（一定の期間だけ所定勤務時間が異なるもの）
4. 交替制・シフト制
5. 事業場外労働のみなし労働時間制（営業職など会社の外で仕事をし、働いた時間をはっきり計算できない場合に使われるもの）
6. 裁量労働制（特定の業務で、あらかじめ労使間で定めた時間分を労働時間とみなすもの）
7. 管理監督者扱い（管理職であって、会社から労働時間の管理について制約が課されていない人）
8. その他 具体的に:
9. わからない

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q55

SA

必

あなたは、過去1ヶ月のあいだ、平均して週に何時間、仕事をしましたか。残業を含めてお答え下さい。

※兼業・副業は除き、主な仕事について教えてください。

1. 0時間
2. 0時間超～5時間未満
3. 5時間以上～10時間未満
4. 10時間以上～15時間未満
5. 15時間以上～20時間未満
6. 20時間以上～25時間未満
7. 25時間以上～30時間未満
8. 30時間以上～35時間未満
9. 35時間以上～40時間未満
10. 40時間以上～45時間未満
11. 45時間以上～50時間未満

- 12. 50時間以上～55時間未満
- 13. 55時間以上～60時間未満
- 14. 60時間以上

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』を選択した
表示形式 : ラジオボタン

Q56
MTS
必

あなたは、過去1ヶ月のあいだ、以下の時間帯に働くことができましたか。残業も含めてお答え下さい。

==== 項目 =====

- 1. 18:00～22:00
- 2. 22:00～5:00
- 3. 5:00～8:00

==== 選択肢 =====

- 1. よくあった
- 2. 時々あった
- 3. ほとんどなかった
- 4. 全くなかった

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』を選択した
表示形式 : ラジオボタン

Q57
MTS
必

あなたの現在の仕事に、以下のことは当てはまりますか

==== 項目 =====

- 1. 仕事で突然出勤を求められることがある
- 2. 仕事・シフトを突然キャンセルされることがある
- 3. シフトが直前まで決まらない
- 4. 自分や家庭の都合で休暇を取得しやすい
- 5. 日によってシフトの時間帯が大きく異なる

==== 選択肢 =====

- 1. 当てはまる
- 2. 当てはまらない

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した
表示形式 : ラジオボタン

Q58
SA
必

あなたのご自宅から勤務先までの通勤時間は、片道どれくらいですか。

- 1. 0分（自宅の敷地内）
- 2. 15分未満
- 3. 15分以上～30分未満
- 4. 30分以上～1時間未満
- 5. 1時間以上～1時間30分未満
- 6. 1時間30分以上～2時間未満
- 7. 2時間以上

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q9の選択肢『1.経営者・役員』～『6.嘱託』の中でいずれかを選択した

Q59
MA
必

あなたの勤め先では、次のような取組みがされていますか。（複数回答）

- 1. 仕事と家庭の両立支援（ベビーシッター補助、介護に対する補助、勤務時間の柔軟性の拡充等）
- 2. 働き方改革（残業削減、業務効率化等）
- 3. ダイバーシティ経営の推進（女性管理職比率の向上等）
- 4. 社員の健康増進（食生活支援、運動奨励、メンタルヘルス対策等）※ストレスチェックは除く
- 5. 従業員の要望・満足度・エンゲージメントに関する調査の実施
- 6. 自己啓発の支援
- 7. ハラスメント対策（研修や相談窓口の設置等）
- 8. 行われている取組みはない

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q9の選択肢『1.経営者・役員』～『6.嘱託』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q60
SA
必

あなたの職場では、在宅勤務（テレワーク）が制度として導入されていますか。あなた自身に適用される制度の有無についてお答え下さい。

- 1. 導入されている
- 2. 導入されていない
- 3. わからない

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した
表示形式 : ラジオボタン

Q61
SA

あなたのお仕事は、自宅や喫茶店など職場以外の場所でもできる性質のものですか。

必

1. できる
2. 多少できる
3. あまりできない
4. まったくできない

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q62

SA

必

あなたは、過去1ヶ月において、**1週間に何日**くらい在宅勤務（テレワーク）を実施しましたか。

1. 0日（行っていない）
2. 1日
3. 2日
4. 3日
5. 4日
6. 5日以上

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q63

SA

必

あなたは**この6ヶ月のあいだ**、おもな仕事以外に収入をとまな**副業・兼業**をしましたか。

※「年金、利子・家賃、株等の配当、相続などによる収入や株のデイトレーディング、個人的なネットオークションによる収入、ブログや動画配信サイトのアフィリエイト広告による収入、ネット調査のモニターによる収入」は副業（仕事）に該当しません。

1. した
2. していない

回答者条件 : Q63の選択肢『1.した』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q64

SA

必

副業・兼業の就業形態は以下のどれにあたりますか。

※複数の副業がある場合は、おもな副業についてお答え下さい

1. 経営者・役員
2. 正社員・正職員
3. パート・アルバイト
4. 契約社員
5. 派遣社員・派遣労働者
6. 嘱託
7. 自営業・フリーランス・内職
8. 家族従業者（※自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に無給で従事している者）
9. その他

回答者条件 : Q63の選択肢『1.した』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q65

SA

必

あなたが**副業・兼業**にかかる時間は、**1ヶ月あたり**どれくらいですか。

1. 10時間未満
2. 10時間以上～20時間未満
3. 20時間以上～30時間未満
4. 30時間以上～40時間未満
5. 40時間以上

回答者条件 : Q63の選択肢『1.した』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q66

SA

必

あなたの**副業・兼業**からの収入は、**1ヶ月**でどのくらいありますか。

1. 5万円未満
2. 5万円以上～10万円未満
3. 10万円以上～15万円未満
4. 15万円以上～20万円未満
5. 20万円以上

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q67

SA

必

ここからは、あなたの収入についてお伺いします。

2022年12月の、あなたのお仕事の税込みの月収は、おおよそいくらでしたか。 残業代を含めてお答え下さい。

※**ボーナスは除いて**お答え下さい。また、**副業・兼業からの収入は除いて**お答え下さい。

1. なし
2. 5万円未満
3. 5万円以上～10万円未満
4. 10万円以上～15万円未満

- 15万円以上～20万円未満
- 20万円以上～25万円未満
- 25万円以上～30万円未満
- 30万円以上～35万円未満
- 35万円以上～40万円未満
- 40万円以上～50万円未満
- 50万円以上
- わからない
- 答えたくない

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q68

SA
必

2022年の、あなたのお仕事の税込みの年収は、およそいくらでしたか。ボーナス・臨時収入・兼業・副業からの収入も含めてお答え下さい。

- なし
- 50万円未満
- 50万円以上～100万円未満
- 100万円以上～150万円未満
- 150万円以上～200万円未満
- 200万円以上～300万円未満
- 300万円以上～400万円未満
- 400万円以上～500万円未満
- 500万円以上～600万円未満
- 600万円以上～700万円未満
- 700万円以上～800万円未満
- 800万円以上～900万円未満
- 900万円以上～1000万円未満
- 1000万円以上～1200万円未満
- 1200万円以上～1400万円未満
- 1400万円以上
- わからない
- 答えたくない

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q69

SA
必

2022年のあなたの世帯全体の年収は、およそいくらでしたか。兼業・副業を含んだあなた自身の収入や、配偶者など他の家族の方の収入や、家賃収入なども含めてお答え下さい。

- 200万円未満
- 200万円以上～300万円未満
- 300万円以上～400万円未満
- 400万円以上～500万円未満
- 500万円以上～600万円未満
- 600万円以上～700万円未満
- 700万円以上～800万円未満
- 800万円以上～900万円未満
- 900万円以上～1000万円未満
- 1000万円以上～1200万円未満
- 1200万円以上～1400万円未満
- 1400万円以上～1600万円未満
- 1600万円以上～1800万円未満
- 1800万円以上～2000万円未満
- 2000万円以上
- わからない
- 答えたくない

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q70

SA
必

ここからは、あなたのご家族・世帯についてお伺いします。
現在、配偶者の方がいらっしゃいますか。

- 未婚
- 既婚（配偶者がいる・事実婚を含む）
- 離別
- 死別

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q71

SA
必

あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。

※同居・別居にかかわらずお答えください。

- いる
- いない

回答者条件 : Q71の選択肢『1.いる』を選択した

Q72

NF

必

お子さんは何人ですか。

1. 人

回答者条件 : Q71の選択肢『1.いる』を選択した

Q73

NF

必

一番下のお子さんは、何歳ですか。

1. 歳

回答者条件 : 全員

Q74

NF

必

現在同居されているのは、何人ですか。あなたを含めてお答え下さい。

1. 人

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q75

MTM

必

以下にあてはまる方を、それぞれ次から選んで下さい。

=====**項目**=====

1. あなたと同居されている方
2. あなたと生計を同一にしている方（同居・別居にかかわらずお答え下さい。）
3. 介護・看護・介助が必要な方（同居・別居にかかわらずお答え下さい。）

=====**選択肢**=====

1. 配偶者（事実婚も含む）
2. 子ども
3. 子どもの配偶者
4. 孫
5. 自分の親
6. 配偶者の親
7. 祖父母（自分または配偶者の）
8. 兄弟姉妹（自分または配偶者の）
9. その他
10. 誰もいない

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q76

MTS

必

過去6ヶ月のあいだ、生活に関連したことで次のような出来事がありましたか。

=====**項目**=====

1. 結婚をした
2. 子どもが生まれた
3. 引越をした
4. 子どもの受験・進学があった
5. 配偶者と離婚・別居した
6. 配偶者が就職・転職・起業した
7. 配偶者が仕事をやめた
8. 自分が重い病気やケガをした
9. 家族が重い病気やケガをした
10. 家族の介護が必要になった

=====**選択肢**=====

1. あった
2. なかった

回答者条件 : Q70の選択肢『2.既婚（配偶者がい...』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q77

SA

必

配偶者の方の最終学歴は、以下のうちどれにあたりますか。

1. 中学校
2. 高校
3. 専門学校
4. 高等専門学校
5. 短大
6. 大学
7. 大学院
8. わからない
9. 答えたくない

回答者条件 : Q70の選択肢『2.既婚（配偶者がい...』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q78

SA

必

配偶者の方の就業形態は、以下のうちどれにあたりますか。

1. 経営者・役員
2. 正社員・正職員
3. パート・アルバイト
4. 契約社員
5. 派遣社員・派遣労働者
6. 嘱託
7. 自営業・フリーランス・内職
8. 家族従業者（※自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に無給で従事している者）
9. その他
10. 働いていない

回答者条件 : Q70の選択肢『2.既婚（配偶者がい...）』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q79

SA

必

配偶者の方の、2022年のお仕事の税込みの年収は、およそいくらでしたか。 ボーナス・臨時収入・兼業・副業からの収入も含めてお答え下さい。

1. なし
2. 50万円未満
3. 50万円以上～100万円未満
4. 100万円以上～150万円未満
5. 150万円以上～200万円未満
6. 200万円以上～300万円未満
7. 300万円以上～400万円未満
8. 400万円以上～500万円未満
9. 500万円以上～600万円未満
10. 600万円以上～700万円未満
11. 700万円以上～800万円未満
12. 800万円以上～900万円未満
13. 900万円以上～1000万円未満
14. 1000万円以上～1200万円未満
15. 1200万円以上～1400万円未満
16. 1400万円以上
17. わからない
18. 答えたくない

回答者条件 : Q78の選択肢『1.経営者・役員』～『9.その他』の中でいずれかを選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q80

SA

必

配偶者の方が出勤されるとき、平均的な帰宅時間はだいたい何時頃ですか。自宅で仕事をしている場合は、仕事が終わる時間をお答え下さい。

1. 17時よりも早い
2. 17時ごろ
3. 18時ごろ
4. 19時ごろ
5. 20時ごろ
6. 21時ごろ
7. 22時以降

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q81

MTS

必

家庭の事情により、仕事に以下の障害がでることがありますか。

==== 項目 =====

1. 家庭内の問題によって仕事に専念できる時間が減る
2. 家庭内の心配または問題によって仕事から気持ちがそれる
3. 家事によって、仕事をよく行うに必要な睡眠時間がとれなくなる
4. 家庭内での責任によって、リラックスしたり一人になるための時間が減る

==== 選択肢 =====

1. まったくない
2. ある程度ある
3. よくある

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q82

MTS

必

仕事上の責任のため、以下のような点で家庭生活が妨げられることがありますか。

==== 項目 =====

1. 仕事のため、家族と過ごす時間が減る
2. 職場での問題のため、家でいららする
3. 出張で家を空けることが多い
4. 仕事で非常にエネルギーを使うため、家庭では注意力が必要なことができないと思う

=====選択肢=====

1. まったくない
2. ある程度ある
3. よくある

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q83

MTS

必

ここからは、あなたの育った環境や経歴についてお伺いします。

あなたのご両親の最終学歴は、以下のうちどれですか。

=====項目=====

1. 父親
2. 母親

=====選択肢=====

1. 中学校
2. 高校
3. 専門学校
4. 高等専門学校
5. 短大
6. 大学
7. 大学院
8. その他
9. わからない
10. 答えたくない

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q84

SA

必

あなたが15歳だった頃（中学卒業時）、あなたのお宅の暮らしむきは、この中のどれにあたるでしょうか。当時のふつうの暮らしむきとくらべてお答え下さい。

1. 豊か
2. やや豊か
3. ふつう
4. やや貧しい
5. 貧しい
6. わからない

回答者条件 : 全員

エラーチェック 1 : 回答必須です。覚えていない場合は記入欄には何も記入せず「覚えていない」をチェックしてください。

!\$[t1]->fill && !\$Q85MA[1]->on

!Q85の回答欄『1.西暦』を記入している かつ !Q85MAの選択肢『1.覚えていない』を選択した

エラーチェック 2 : 回答に矛盾があります。「覚えていない」のチェックを外してお進みください。

(\$[t1]->fill || \$[t2]->fill) && \$Q85MA[1]->on

(Q85の回答欄『1.西暦』を記入している または Q85の回答欄『2.』を記入している) かつ Q85MAの選択肢『1.覚えていない』を選択した

エラーチェック 3 : 【記入欄1つ目】1980～2023の範囲内でお答えください。

\$\$[t1]->fill && !\$[t1]->between(1980,2023)

Q85の回答欄『1.西暦』を記入している かつ !Q85の回答欄『1.西暦』が1980～2023の間である

エラーチェック 4 : 【記入欄2つ目】1～12の範囲内でお答えください。

\$\$[t2]->fill && !\$[t2]->between(1,12)

Q85の回答欄『2.』を記入している かつ !Q85の回答欄『2.』が1～12の間である

Q85

NF

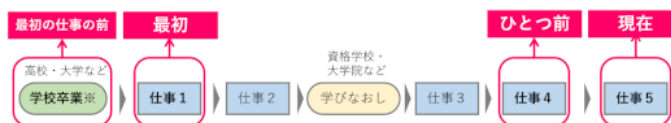
あなたのこれまでの経歴について、以下のできごとの年月を教えてください。

最初のお仕事に就く前に通った学校（卒業・中退）と、
これまでのお仕事経験（経験した勤め先等の数、その就職年月や就業形態など）をお尋ねします。

- お仕事経験が
- ・ 1つの方 → 「現在のお仕事」について
 - ・ 2つの方 → 「最初のお仕事」「現在のお仕事」について
 - ・ 3つ以上の方 → 「最初のお仕事」「ひとつ前のお仕事」「現在のお仕事」について

※ 現在、無職の方へは「ひとつ前のお仕事」までお尋ねします。

例：転職回数が多い場合



最初のお仕事につく前に通った学校を出た（卒業・中退）のはいつですか。

※学生時代のアルバイトを除き、学校を出てから一度も仕事についたことがない方は、最後に通った学校を出た年月を教えてください。

※「月」がわからない場合は、「年」のみお答え下さい。

1. 西暦 年
- 2.

月

回答者条件 : 全員

Q85MA

MA

非

Q85排他

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

1. 覚えていない

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q86

SA

必

あなたはこれまで、いくつの勤め先（もしくは自営でのお仕事）を経験されましたか。 **現在のお仕事を含めた数でお答えください。**

※同時に2つ以上のお仕事をされた場合はすべて含めてください。

※同じ勤め先での異動・出向・転属・休職は含みません。

※学生時代のアルバイトは除いて下さい。

1. 1つ
2. 2つ
3. 3つ
4. 4つ以上
5. これまで一度も仕事をすることがない

回答者条件 : (Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q86の選択肢『2.2つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した) または (Q6の選択肢『2.していない』を選択した かつ Q86の選択肢『1.1つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した)

エラーチェック 1 : 回答必須です。覚えていない場合は記入欄には何も記入せず「覚えていない」をチェックしてください。

: !\$\$[t1]->fill && !\$Q87MA[1]->on

: !Q87の回答欄『1.西暦』を記入している かつ !Q87MAの選択肢『1.覚えていない』を選択した

エラーチェック 2 : 回答に矛盾があります。「覚えていない」のチェックを外してお進みください。

: (\$\$[t1]->fill || \$\$[t2]->fill) && \$Q87MA[1]->on

: (Q87の回答欄『1.西暦』を記入している または Q87の回答欄『2.』を記入している) かつ Q87MAの選択肢『1.覚えていない』を選択した

エラーチェック 3 : 【記入欄1つ目】1980～2023の範囲内でお答えください。

: \$\$[t1]->fill && !\$[t1]->between(1980,2023)

: Q87の回答欄『1.西暦』を記入している かつ !Q87の回答欄『1.西暦』が1980～2023の間である

エラーチェック 4 : 【記入欄2つ目】1～12の範囲内でお答えください。

: \$\$[t2]->fill && !\$[t2]->between(1,12)

: Q87の回答欄『2.』を記入している かつ !Q87の回答欄『2.』が1～12の間である

Q87

NF

学校を卒業して最初についた仕事についてお伺いします。

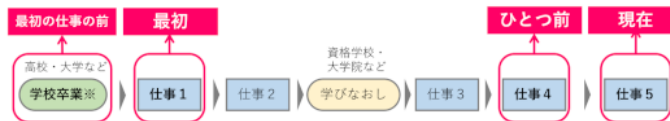
最初のお仕事に就く前に通った学校（卒業・中退）と、
これまでの仕事の経験（経験した勤め先等の数、その就職年月や就業形態など）をお尋ねします。

お仕事の経験が

- ・ 1つの方 → 「現在のお仕事」について
- ・ 2つの方 → 「最初のお仕事」「現在のお仕事」について
- ・ 3つ以上の方 → 「最初のお仕事」「ひとつ前のお仕事」「現在のお仕事」について

※ 現在、無職の方へは「ひとつ前のお仕事」までお尋ねします。

例：転職回数が多い場合



その会社に入社した/その仕事を始めたのはいつですか。

※「月」がわからない場合は、「年」のみお答え下さい。

1. 西暦 年

2. 月

回答者条件 : (Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q86の選択肢『2.2つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した) または (Q6の選択肢『2.していない』を選択した かつ Q86の選択肢『1.1つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した)

Q87MA

MA

非

Q87排他

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

1. 覚えていない

回答者条件 : (Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q86の選択肢『2.2つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した) または (Q6の選択肢『2.していない』を選択した かつ Q86の選択肢『1.1つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した)

表示形式 : ラジオボタン

Q88

SA

必

その会社・仕事での就業形態は、次のうちどれにあたりますか。

1. 経営者・役員
2. 正社員・正職員

3. パート・アルバイト
4. 契約社員
5. 派遣社員・派遣労働者
6. 嘱託
7. 自営業・フリーランス・内職
8. 家族従業者（※自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に無給で従事している者）
9. その他

回答者条件：(Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q86の選択肢『2.2つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した) または (Q6の選択肢『2.していない』を選択した かつ Q86の選択肢『1.1つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した)

エラーチェック 1：回答必須です。

: \$Q89[t1]->empty

: Q89の回答欄『1.』を記入していない

Q89

SF

あなたのその会社・仕事での職種は、次のうちどれにあたりますか。

※大まかな職業の説明は、こちらをクリックしてください。

※どちらの職種に当たるかわからない方は、「その他の***」または「他に分類されない***」と表示された職種をお選びください（***の部分は、大分類・中分類で選んだ内容が表示されています）。

(回答は具体的に)

選択画面を開く

クリア

1.
2.
3.

回答者条件：(Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q86の選択肢『2.2つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した) または (Q6の選択肢『2.していない』を選択した かつ Q86の選択肢『1.1つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した)

エラーチェック 1：回答必須です。覚えていない、または現在も続けている（副業・兼業をしている）場合は記入欄には何も記入せず、「覚えていない」または「現在も続

: !\$Q92[t1]->fill && (!\$Q92MA[1]->on && !\$Q92MA[2]->on)

: !Q92の回答欄『1.西暦』を記入している かつ (!Q92MAの選択肢『1.現在も続けている...』を選択した かつ !Q92MAの選択肢『2.覚えていない』を

エラーチェック 2：回答に矛盾があります。「覚えていない」のチェックを外してお進みください。

: (\$Q92[t1]->fill || \$Q92[t2]->fill) && \$Q92MA[2]->on

: (Q92の回答欄『1.西暦』を記入している または Q92の回答欄『2.』を記入している) かつ Q92MAの選択肢『2.覚えていない』を選択した

エラーチェック 3：【記入欄1つ目】1980～2023の範囲内でお答えください。

: \$Q92[t1]->fill && !\$Q92[t1]->between(1980,2023)

: Q92の回答欄『1.西暦』を記入している かつ !Q92の回答欄『1.西暦』が1980～2023の間である

エラーチェック 4：【記入欄2つ目】1～12の範囲内でお答えください。

: \$Q92[t2]->fill && !\$Q92[t2]->between(1,12)

: Q92の回答欄『2.』を記入している かつ !Q92の回答欄『2.』が1～12の間である

エラーチェック 5：回答に矛盾があります。「現在も続けている（副業・兼業をしている）」のチェックを外してお進みください。

: (\$Q92[t1]->fill || \$Q92[t2]->fill) && \$Q92MA[1]->on

: (Q92の回答欄『1.西暦』を記入している または Q92の回答欄『2.』を記入している) かつ Q92MAの選択肢『1.現在も続けている...』を選択した

Q92

NF

その会社を退職した/その仕事をやめたのはいつですか。

※月がわからない場合は、「年」のみお答え下さい。

1. 西暦 年
2. 月

回答者条件：(Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q86の選択肢『2.2つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した) または (Q6の選択肢『2.していない』を選択した かつ Q86の選択肢『1.1つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した)

Q92MA

MA

非

Q92排他

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

1. 現在も続けている（副業・兼業をしている）
2. 覚えていない

回答者条件：HQ93の選択肢全ての中でいずれかを選択した

エラーチェック 1：回答必須です。覚えていない場合は記入欄には何も記入せず「覚えていない」をチェックしてください。

: !\$HQ93[t1]->fill && !\$HQ93MA[1]->on

: !HQ93の回答欄『1.西暦』を記入している かつ !HQ93MAの選択肢『1.覚えていない』を選択した

エラーチェック 2：回答に矛盾があります。「覚えていない」のチェックを外してお進みください。

: (\$HQ93[t1]->fill || \$HQ93[t2]->fill) && \$HQ93MA[1]->on

: (HQ93の回答欄『1.西暦』を記入している または HQ93の回答欄『2.』を記入している) かつ HQ93MAの選択肢『1.覚えていない』を選択した

エラーチェック 3：【記入欄1つ目】1980～2023の範囲内でお答えください。

: \$HQ93[t1]->fill && !\$HQ93[t1]->between(1980,2023)

: HQ93の回答欄『1.西暦』を記入している かつ !HQ93の回答欄『1.西暦』が1980～2023の間である

エラーチェック 4：【記入欄2つ目】1～12の範囲内でお答えください。

: \$HQ93[t2]->fill && !\$HQ93[t2]->between(1,12)

: HQ93の回答欄『2.』を記入している かつ !HQ93の回答欄『2.』が1～12の間である

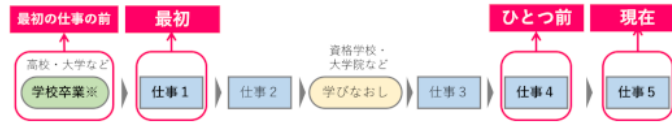
Q93
NF

%% #HQ93%%

最初のお仕事に就く前に通った学校（卒業・中退）と、これまでの仕事の経験（経験した勤め先等の数、その就職年月や就業形態など）をお尋ねします。

- お仕事の経験が
- ・1つの方 → 「現在のお仕事」について
 - ・2つの方 → 「最初のお仕事」「現在のお仕事」について
 - ・3つ以上の方 → 「最初のお仕事」「ひとつ前のお仕事」「現在のお仕事」について
- ※ 現在、無職の方へは「ひとつ前のお仕事」までお尋ねします。

例：転職回数が多い場合



その会社に入社した／その仕事を始めたのはいつですか。

※ 「月」がわからない場合は、「年」のみお答え下さい。

1. 西暦 年
2. 月

回答者条件： HQ93の選択肢全ての中でいずれかを選択した

Q93MA

MA
非

Q93排他

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

1. 覚えていない

回答者条件： (Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q86の選択肢『3.3つ』、『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した) または (Q6の選択肢『2.していない』を選択した かつ Q86の選択肢『2.2つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した)

表示形式： ラジオボタン

Q94

SA
必

その会社・仕事での就業形態は、次のうちどれにあたりますか。

1. 経営者・役員
2. 正社員・正職員
3. パート・アルバイト
4. 契約社員
5. 派遣社員・派遣労働者
6. 嘱託
7. 自営業・フリーランス・内職
8. 家族従業者（※自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に無給で従事している者）
9. その他

回答者条件： (Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q86の選択肢『3.3つ』、『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した) または (Q6の選択肢『2.していない』を選択した かつ Q86の選択肢『2.2つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した)

エラーチェック 1： 回答必須です。

: \$Q95[t1]->empty
: Q95の回答欄『1.』を記入していない

Q95

SF

あなたのその会社・仕事での職種は、次のうちどれにあたりますか。

※大まかな職業の説明は、こちらをクリックしてください。
※どちらの職種に当たるかわからない方は、「その他の***」または「他に分類されない***」と表示された職種をお選びください（***の部分は、大分類・中分類で選んだ内容が表示されています）。

(回答は具体的に)

1.
2.
3.

回答者条件： (Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q86の選択肢『3.3つ』、『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した) または (Q6の選択肢『2.していない』を選択した かつ Q86の選択肢『2.2つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した)

エラーチェック 1： 回答必須です。覚えていない、または現在も続けている（副業・兼業をしている）場合は記入欄には何も記入せず、「覚えていない」または「現在も続

: !\$\$[t1]->fill && (!\$Q98MA[1]->on && !\$Q98MA[2]->on)
: !Q98の回答欄『1.西暦』を記入している かつ (!Q98MAの選択肢『1.現在も続けている...』を選択した かつ !Q98MAの選択肢『2.覚えていない』を

エラーチェック 2： 回答に矛盾があります。「覚えていない」のチェックを外してお進みください。

: (\$\$[t1]->fill || \$\$[t2]->fill) && \$Q98MA[2]->on
: (Q98の回答欄『1.西暦』を記入している または Q98の回答欄『2.』を記入している) かつ Q98MAの選択肢『2.覚えていない』を選択した

エラーチェック 3： 【記入欄1目】1980～2023の範囲内でお答えください。

: \$\$[t1]->fill && !\$Q98MA[1]->between(1980,2023)
: Q98の回答欄『1.西暦』を記入している かつ !Q98の回答欄『1.西暦』が1980～2023の間である

エラーチェック 4 : 【記入欄2つ目】 1～12の範囲内でお答えください。

: \$\$[t2]->fill && !\$[t2]->between(1,12)

: Q98の回答欄『2.』を記入している かつ !Q98の回答欄『2.』が1～12の間である

エラーチェック 5 : 回答に矛盾があります。「現在も続けている（副業・兼業をしている）」のチェックを外してお進みください。

: (\$[t1]->fill || \$\$[t2]->fill) && \$Q98MA[1]->on

: (Q98の回答欄『1.西暦』を記入している または Q98の回答欄『2.』を記入している) かつ Q98MAの選択肢『1.現在も続けている...』を選択した

Q98

NF

その会社を退職した／その仕事をやめたのはいつですか。

※「月」がわからない場合は、「年」のみお答え下さい。

1. 西暦 年

2.

月

回答者条件 : (Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した かつ Q86の選択肢『3.3つ』、『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した) または (Q6の選択肢『2.していない』を選択した かつ Q86の選択肢『2.2つ』～『4.4つ以上』の中でいずれかを選択した)

Q98MA

MA

非

Q98排他

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

1. 現在も続けている（副業・兼業をしている）

2. 覚えていない

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した

エラーチェック 1 : 回答必須です。覚えていない場合は記入欄には何も記入せず「覚えていない」をチェックしてください。

: !\$[t1]->fill && !\$Q99MA[1]->on

: !Q99の回答欄『1.西暦』を記入している かつ !Q99MAの選択肢『1.覚えていない』を選択した

エラーチェック 2 : 回答に矛盾があります。「覚えていない」のチェックを外してお進みください。

: (\$[t1]->fill || \$\$[t2]->fill) && \$Q99MA[1]->on

: (Q99の回答欄『1.西暦』を記入している または Q99の回答欄『2.』を記入している) かつ Q99MAの選択肢『1.覚えていない』を選択した

エラーチェック 3 : 【記入欄1つ目】 1980～2023の範囲内でお答えください。

: \$\$[t1]->fill && !\$[t1]->between(1980,2023)

: Q99の回答欄『1.西暦』を記入している かつ !Q99の回答欄『1.西暦』が1980～2023の間である

エラーチェック 4 : 【記入欄2つ目】 1～12の範囲内でお答えください。

: \$\$[t2]->fill && !\$[t2]->between(1,12)

: Q99の回答欄『2.』を記入している かつ !Q99の回答欄『2.』が1～12の間である

Q99

NF

現在ついている仕事についてお伺します。

現在の会社に入社した／自営等の仕事についたのはいつですか。

※「月」がわからない場合は、「年」のみお答え下さい。

1. 西暦 年

2.

月

回答者条件 : Q6の選択肢『1.している』、『3.仕事にはついてい...』の中でいずれかを選択した

Q99MA

MA

非

Q99排他

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

1. 覚えていない

回答者条件 : Q6の選択肢『2.していない』を選択した

表示形式 : ラジオボタン

Q100

SA

必

収入になる仕事につくことを希望していますか。

1. 希望しており、求職活動を行っている
2. 希望しているが、求職活動は行っていない
3. 会社で働く以外の仕事につくことを希望している
4. すでに仕事が決まっている
5. 希望していない

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q101

MTS

必

ここからは、あなたの周りの方々について伺います。

次の人たちはどのくらい気軽に話ができますか。最もあてはまるものを答えて下さい。

==== 項目 =====

1. 上司
2. 職場の同僚
3. 配偶者、家族、友人等

==== 選択肢 =====

1. 非常に
2. かなり

- 3. 多少
- 4. 全くない

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q102

MTS

必

あなたが困ったとき、次の人たちはどのくらい頼りになりますか。最もあてはまるものを答えて下さい。

===== 項目 =====

- 1. 上司
- 2. 職場の同僚
- 3. 配偶者、家族、友人等

===== 選択肢 =====

- 1. 非常に
- 2. かなり
- 3. 多少
- 4. 全くない

回答者条件 : 全員

表示形式 : ラジオボタン

Q103

MTS

必

あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか。最もあてはまるものを答えて下さい。

===== 項目 =====

- 1. 上司
- 2. 職場の同僚
- 3. 配偶者、家族、友人等

===== 選択肢 =====

- 1. 非常に
- 2. かなり
- 3. 多少
- 4. 全くない

JILPT 調査シリーズ No.234

JILPT 個人パネル調査「仕事と生活、健康に関する調査」第1回

発行年月日 2023年12月28日

編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井4-8-23

(照会先) 研究調整部研究調整課 TEL:03-5991-5104

©2023 JILPT